

官報

號外 昭和十三年三月十七日

○第七十三回衆議院議事速記録第二十九號

昭和十三年三月十六日(水曜日)

午後一時三十七分開議

議事日程 第二十八號

昭和十三年三月十六日

午後一時開議

第一 入營者職業保障法中改正法律案
(政府提出) 第一讀會
第二 東洋殖産株式會社法中改正法律案
(政府提出) 第一讀會

第三 青年禁酒法案(坂東幸太郎君外
十八名提出) 第一讀會
第四 護國共同組合法案(池田秀雄君
外一名提出) 第一讀會

第五 護國共同組合法案(篠原義政君
外四名提出) 第一讀會
第六 酒造稅法中改正法律案(古島義
英君提出) 第一讀會

第七 入營者職業保障法中改正法律案
(淺沼稻次郎君外四名提出) 第一讀會
第八 船員保險法案(米窪滿亮君外一
名提出) 第一讀會

第九 裁判所構成法改正法律案(野田
文一郎君外二十六名提出) 第一讀會
第十 檢察廳法案(野田文一郎君外二
十六名提出) 第一讀會

第十一 傷痍軍人並戰公傷病死者遺族
等ノ鐵道船舶等乘車船優遇ニ關スル
法律案(江藤源九郎君提出) 第一讀會
第十二 刑法中改正法律案(一松定吉
君外六名提出) 第一讀會

第十三 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法
律案(一松定吉君外五名提出) 第一讀會

第十四 行政執行法中改正法律案(一
松定吉君外七名提出) 第一讀會

第十五 刑事訴訟法中改正法律案(內
藤正剛君外六名提出) 第一讀會

第十六 陪審法中改正法律案(內藤正
剛君外六名提出) 第一讀會

第十七 司法書士法中改正法律案(中
山福藏君外五名提出) 第一讀會

第十八 司法書士法中改正法律案(立
川平君提出) 第一讀會

第十九 行政書士法案(中山福藏君外
六名提出) 第一讀會

第二十 私生子ノ名稱ニ關スル法律案
(中山福藏君外五名提出) 第一讀會

第二十一 理容師法案(中山福藏君外
八名提出) 第一讀會

第二十二 公證人法中改正法律案(野
村嘉六君外十四名提出) 第一讀會

第二十三 建築士法案(野村嘉六君外
八名提出) 第一讀會

第二十四 產師法案(土屋清三郎君外
五名提出) 第一讀會

第二十五 產師法案(田中養達君外一
名提出) 第一讀會

第二十六 產師法案(野方次郎君外一
名提出) 第一讀會

第二十七 農家世襲財產法案(林平馬
君外二名提出) 第一讀會

第二十八 檢查計理士法案(森田重次
郎君外三名提出) 第一讀會

第二十九 裁判所構成法中改正法律案
(高橋義次君外六名提出) 第一讀會

第三十 愛國航空獎券發行ニ關スル法
律案(安藤孝三君外一名提出) 第一讀會

第三十一 辯護士法中改正法律案(清
瀨一郎君外三名提出) 第一讀會

第三十二 昭和八年法律第五十四號中
改正法律案(清瀨一郎君外五名提出) 第一讀會

第三十三 軍用候補馬鍛鍊法案(土田
莊助君外三名提出) 第一讀會

第三十四 軍用候補馬鍛鍊法案(大石
倫治君外三名提出) 第一讀會

第三十五 重要物產同業組合法中改正
法律案(原玉重君外十三名提出) 第一讀會

第三十六 狩獵法中改正法律案(鈴木
正吾君提出) 第一讀會

第三十七 金錢債務臨時調停法廢止法
律案(服部英明君外二名提出) 第一讀會

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
入營者職業保障法中改正法律案
(以上三月十五日提出)

一昨十五日近衛內閣總理大臣ヨリ左ノ通發
令アリタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

農林書記官 寺田 省一
第七十三回帝國議會農林省所管事務政
府委員被仰付

一昨十五日常任委員補關選舉ノ結果左ノ如
シ

第一部選出 豫算委員 稻田 直道君(原惣兵衛君
補關)

第一部選出 樋口善右衛門君(國光五郎
君補關)

第四部選出 決算委員 增永 元也君(松木弘君補
關)

第五部選出 決算委員 大內竹之助君(山口忠五郎
君補關)

第八部選出 決算委員 世耕 弘一君(生田和平君
補關)

一昨十五日常任委員理事補關選舉ノ結果左
ノ如シ

理事 增永元也君(理事松木弘君去十
四日委員辭任ニ付其ノ補關)
一昨十五日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常
任委員左ノ如シ

第三部選出豫算委員 箸本 大吉君
一昨十五日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
昭和十二年法律第九十二號中改正法律案
(輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル
件)(政府提出、貴族院送付)委員
辭任西村金三郎君 補關小山倉之助君
辭任木村 淺七君 補關眞鍋 儀十君
辭任岡崎久次郎君 補關本田彌市郎君
民族優生保護法案(八木逸郎君提出)委員
辭任八木 逸郎君 補關村松 久義君
臨時通貨法案(政府提出)外一件委員
辭任津倉 龜作君 補關小山倉之助君
飼料配給統制法案(政府提出)委員
辭任小見山七十五郎君補關伊東 岩男君
辭任湊 季松君 補關愛野時一郎君
農業保險法案(政府提出)委員
辭任福田 悌夫君 補關長野 長廣君
社會事業法案(政府提出)外二件委員
辭任瀧澤 七郎君 補關高島龜太郎君
重要礦物增產法案(政府提出)外一件委員
辭任高島龜太郎君 補關瀧澤 七郎君

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第二ニ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第二、東洋拓殖株式會社法中改正法律案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長沖島鎌三君

第二 東洋拓殖株式會社法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 東洋拓殖株式會社法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十三年三月十五日

委員長 沖島 鎌三

衆議院議長小山松壽殿

附帶決議

一 東洋拓殖株式會社ノ總裁及副總裁ハ監督官廳ノ官吏ヨリ任命スルコトヲ避クヘシ

〔沖島鎌三君登壇〕

○沖島鎌三君 只今上程ニナリマシタル東洋拓殖株式會社法中改正法律案ニ付キマシテ、委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ本案ニ關シ前後四回開會致シマシタ、本法案ノ要旨ハ、東洋拓殖株式會社ノ營業ノ進展ニ伴ヒマシテ、同社ノ副總裁及ビ參與理事ノ制度ヲ設ケ、東洋拓殖債券ノ發行限度ヲ、現行法ノ拂込資本金ノ十倍ヲ十五倍ニ擴張シマスルト共ニ、營業地

域ニ關スル規定其他若干ノ規定ニ付キ、修正削除ヲ爲サントスルモノデアリマスガ、簡單ニ右ニ關スル委員會ニ於ケル質疑應答ノ要點ヲ御報告致シタイト思ヒマス
先ヅ副總裁設置ノ趣旨、副總裁銓衡ノ方針等ニ付キ質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ政府ヨリ副總裁設置ノ趣旨ハ、會社ノ營業ノ進展複雜化ニ伴ヒ、總裁ヲ輔佐シテ社務ノ統轄ニ當ラシメ、以テ會社ノ使命達成ノ遺憾ナカラシメントスルニアリ、副總裁ノ銓衡方針シテハ、廣ク人材ヲ江湖ニ求メ、適材適所ノ方針ヲ以テ善處スル旨答辯ガアリマシタ

次ニ東洋拓殖債券ノ發行限度ノ擴張ニ關聯シマシテ、會社ハ將來如何ナル地域ニ向シテ發展セントスルカ、是ガ爲メ必要ナル資金ノ見込額如何等ノ質問ニ對シマシタハ、政府ヨリ會社ハ朝鮮、滿洲、北支等大陸方面ニ發展セントスルモノデアリ、目下ノ資金繰リ豫想ニ依レバ、會社ハ今後相當多額ノ資金ヲ要スル旨ノ答辯ガアリマシタ、又營業地域ニ關スル規定ノ改正ニ付キマシテ、會社ヲシテ樺太ニ進出セシムル意思ナキヤトノ質問ニ對シマシタハ、政府トシテモ樺太ノ實情ニ鑑ミ、是ガ進出ニ付キ十分考究シタキ旨ノ答辯ガアリマシタ、尙ホ本改正案ニ關聯シマシテ、臺灣拓殖、南洋拓殖、南洋興發等ノ諸會社ノ經營事業ニ付キマシテモ質疑ガ重ネラレマシタガ、詳細ハ速記録ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト存ジマス
以上質疑ヲ終ヘ、討論ニ移リマシタル所、立憲民政黨ヲ代表シ木原七郎君ヨリ、左ノ附帶決議ヲ附シテ原案ニ賛成スル旨ノ御發議ガアリマシタ、茲ニ其附帶決議ノ案文ヲ朗讀致シマス

附帶決議

一 東洋拓殖株式會社ノ總裁及副總裁ハ監督官廳ノ官吏ヨリ任命スルコトヲ避クヘシ
尙ホ木原君ハ此附帶決議ニ對シテ、政府

ハ成文化シタル法律同様に尊重サレシコトヲ望ム旨希望ヲ述ベラレマシタ、續イテ立憲政友會ヲ代表シテ葉梨新五郎君ヨリ、木原君御發議ノ附帶決議附ニテ原案ニ賛成スル者デアルケレドモ、此際特ニ三ツノ事項ニ關シ、拓務大臣ノ言明ヲ得テ置キタイト云フコトデアリマシタ、即チ其第一ハ、右ノ附帶決議ニ對シテ、當局ハ成文化シタル法律同様に之ヲ尊重スル覺悟アリヤ、其第二ハ、東洋拓殖株式會社ハ其國策會社タル本來ノ使命ニ鑑ミ、徒ニ營利本位ニ走ルコトナク、其投資會社ノ中既ニ獨立自營ノ出來ル優良會社ニ對シテハ、之ヲ民間ニ開放シテ、漸次其資金ヲ回收シテ、更ニ新規ノ國策的事業ニ投資セシムル必要ガアルト信ズル、政府ノ所見如何、其第三ハ、東洋拓殖株式會社ハ、北支開發會社、中支振興會社等トノ業務ノ範圍ヲ協定シテ無用ノ競争ヲ避クルヤウニ、當局ノ嚴重ナル監督ヲ望ム、政府ノ所見如何、之ニ對シテ大谷拓務大臣ヨリ、第一ノ附帶決議ニ對シテハ、其趣旨ヲ十分ニ尊重スベキ旨御言明ガアリマシタ、第二、第三ノ葉梨君ノ御意見ハ、自分モ全く同感デアルカラ、今後其方針デ東拓ヲ監督スル覺悟デアラトノ御答辯ガアリマシタ、次ニ第一議員俱樂部ノ代表トシテ林路一君、社會大衆黨代表トシテ田原春次君ヨリ、何レモ木原君ノ御發議ニ賛成ノ意思ヲ表明セラレマシタ、採決ノ結果、本案ハ右附帶決議ヲ附シ、原案ヲ承認スルコトニ滿場一致可決サレマシタ、右御報告致シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレシコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

東洋拓殖株式會社法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一、入營者職業保障法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——厚生大臣侯爵木戶幸一君

第一 入營者職業保障法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
入營者職業保障法中改正法律案
入營者職業保障法中左ノ通改正ス
第三條中「勞務及給與ハ」ノ下ニ「少クトモ」ヲ加フ
第五條中「五十人」ヲ「三十人」ニ改ム
第五條ノ二 職業紹介事業ヲ行フ行政廳(船員職業紹介法第三條第二項ノ規定ニ依リ船員職業紹介事業ヲ行フ者ヲ含ム)ハ退營者ニシテ原職ナキモノ又ハ原職ニ復歸スルコト困難ナリト認ムルモノノ職業紹介ニ付テハ被傭者ヲ求メントスル者ニ對シ其ノ被傭者タルニ適スト認ムル退營者ヲ優先シテ雇傭スルコトヲ懲懲スルコトヲ得
前項ノ規定ハ退營者ガ退營シタル日ヨリ三月ヲ經過シタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第六條中「前四條」ヲ「第一條乃至第五條」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
〔國務大臣侯爵木戶幸一君登壇〕
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 只今議題トナリマシタ入營者職業保障法中改正法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ御說明申上ゲマス、申ス迄モナク本法ハ、入營ヲ命ゼラ

レタル者、又ハ入營ヲ命ゼラル、コトアル
ベキ者ニ對シ、其故ヲ以テ就職ニ付テ不利
益ナル取扱ヲ受ケシムルコトナク、且ツ退
營後ノ再雇傭ニ付キ後願ノ憂ナカラシムル
爲メ、昭和六年四月一日公布セラレ、同年
十一月一日ヨリ施行セラレタノデアリマス、
爾來約七年ヲ經過シ、其間ニ於キマシテ本
法ノ趣旨ハ漸次普及セラレ、相當ノ效果ヲ
舉ゲテ參ツタノデアリマスガ、現下ノ情勢
ニ鑑ミマスレバ、尙ホ不十分ナ點ガアリ、殊
ニ今次ノ支那事變ニ伴フ召集解除者ノ就
職、近ク實施セラレマス在營年限延長等ニ
對處スルニハ、現行法ニ改正ヲ加フルノ必
要アリト認メラル、ノデアリマス、仍テ茲
ニ本改正法律案ヲ提出スルニ至ツタノデアリ
マス

本改正法律案ニ於キマシテハ、第一ニ、
再雇傭後ノ處遇ニ付テノ規定ノ趣旨ヲ明確
ニシ、第二ニ、再雇傭ニ關スル規定ノ適用
範圍ヲ擴張シマシテ、雇傭者ガ當時三十
人以上ノ被傭者ヲ使用スル場合ニ適用スル
コトニ改メ、第三ニ、再雇傭ニ關スル規定
ノ適用ヲ受ケザル退營者ノ就職保護ニ關ス
ル規定ヲ設ケマシテ、以テ退營者ノ職業保
護ニ遺憾ナキヲ期セントスルモノデアリマ
ス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラシコト
ヲ望ミマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 質疑ノ通告ガアリマ
ス、之ヲ許シマス 淺沼稻次郎君

(淺沼稻次郎君登壇)

○淺沼稻次郎君 昨ハ只今議題ニナツテ居
リマス入營者職業保障法中改正法律案ニ
關シマシテ、大體三點ニ付テ御質問ヲ申上
ゲタイト思フノデアリマス、一旦緩急アレバ
義勇公ニ奉ジマスルコトハ、固ヨリ我國三千
年ノ傳統デアリマス、斯ルガ故ニ一度應召サ
レンカ、吾々ノ同僚ハ勇躍シテ戰地ニ參ルノ
デアリマス、而モ身ヲ以テ國家ノ目的遂行ノ
爲ニ戰フノデアリマス、私共ハ兵役ノ義務ガ
國民ノ國家ニ對スル最高ノ義務デアルト云

フコトヲ考ヘルト同時ニ、出征ヲ致シマシタ
出征軍人並ニ遺家族ヲ心カラ構ヒ、之ニ對
シテ出來ルダケノ援護ヲ與ヘルト云フコト
ハ、否、救援ヲスルト云フコトハ、國家及
ビ國民ノ出征軍人ニ對スル最大ナル義務デ
アルト思フノデアリマス(拍手)斯ル觀點ニ
立チマシテ、私共ハ政府ガ出征軍人ニ付テ、
ソレノ救援ノ方法ヲ講ゼラレ、銃後ノ立
法ヲサレコトニ付キマシテハ、結構デア
ルト考ヘテ居ルノデアリマスガ、現ニ出征
ヲ致シマシテ名譽ノ戰傷ヲ受ケラレ、或ハ
不幸病魔ニ冒サレマシテ、後送ノ已ムナキ
ニ至ツタ多クノ同僚モアラレルノデアリマ
ス、是等名譽ノ戰傷ヲ受ケラレ、或ハ不幸
病魔ニ冒サレマシテ、後送ノ已ムナキニ
至ツタ人達ニ對シマシテモ、心カラ之ヲ構フ
コトヲヤラナケレバナラヌト思ヒマス、而
モ是等ノ人ガ除隊サレタ後ニ於テ、不具者
トシテ社會ニ立ツテ行ク場合ニ於キマシテ
ハ、是等ノ傷痍軍人ニ對シマシテハ、心ヨ
リ出來ル限リノ施設ヲ國家ハシナケレバナ
ラヌト思フノデアリマス、然ルニ會期アト
九日程ニ迫ツテ居ルノデアリマスガ、政
府ニ於キマシテハ、傷兵保護院法案並ニ傷
痍軍人保護法ヲ提出スルガ如ク言ハレテ
居ツタノデアリマスガ、未ダニ提案ガアリマ
セス、會期ハ既ニアト九日ニ迫ツテ居ルノ
デアリマス、而モ傷兵保護院法案ハ傷痍軍
人ノ待遇ニ關シ、或ハ此再教育問題ニ付
テ、重大ナル法案デアルト私共ハ考ヘテ居
ルノデアリマスガ、如何様ナ都合カマダ
提案ガナイノデアリマスガ、聞ク所ニ依リ
マスナラバ、厚生省ト大藏省トノ間ニ於テ、
財源問題ガ一致シナイト云フヤウナ話ヲ聞
クノデアリマスガ、斯ウ云ツタヤウナ問題ニ
ハ、大藏省ニ於キマシテモ思切ツテ金ヲ出ス
覺悟デ、傷兵保護院法案並ニ傷痍軍人保護
法ノ如キハ提案サレテ然ルベキダト考ヘル
ノデアリマスガ、一體何時頃提案ニナルノ
カ、此點ヲ御聽シタイト思フノデアリマス

次ニ入營者職業保障法中改正法律案ニ於
テ、五十人ノ工場ヲ三十人ニ改メ、或ハ勞
務及ビ給與ノ規定ヲ、「少クトモ」ト云フ文
字ヲ入レマシテ、サウシテ出征前ニ取ツテ居
リマシタ給與ヲ下ラナイヤウニ致シマシタ
コトハ、洵ニ結構デアルト私ハ思フノデア
リマスガ、此法律ハ刑罰規定ヲ持タナイ
法律デアリマス、總テ資本家ノ道義心ニ憑
ヘテ本法ヲ運用スルト云フヤウニ出來上
テ居ルノデアリマスガ、果シテ刑罰ヲ持
タナイ法規ニ於テ、其運用ノ妙ヲ期スルカ
ドウカ、私ハ疑ハザルヲ得ナイノデアリマ
ス、此點ニ付テ政府當局ノ所見ヲ私ハ承リタイ
ト思ヒマス、國家ト民族ガ一大飛躍ヲ試ミ
ツ、アル時ニ、現在日本ノ國內ニ於キマシ
テモ、所有權ヲ權ニシテ現狀維持の所論ヲ
私共ハ聽クノデアリマス、是ハ議會ノ内ニ
於テモ、議會ノ外ニ於テモ、或ハ電力法
案、或ハ總動員法案ノ審議中ニモ、斯ウ云
ツタ所論ノ現レヲ私共ハ聽クノデアリマス、
少クトモ國家ト民族ガ一大飛躍ヲ試ミル時
ニ當ツテ、國民ト致シマシテハ、之ニ對シテ
後髮ヲ引クヤウナ行動、言論ガアツテハ、斷
ジテナラナイト私ハ考ヘルノデアリマス
ガ、現ニ行ハレテ居リマスル所ノ議論ト云
フモノハ、往々ニシテ資本家の根性ガ出テ
參リマシテ、國家ト民族ノ飛躍ニ對シテ、
後髮ヲ引クヤウナ傾向ガアルノデアリマス、
此點カラ考ヘテ見マシテモ、或ル程度ノ刑
罰法規ヲ持タナイ以上ニ於キマシテハ、本
法ノ運用ノ上ニ於テ完全ヲ期セラレナイト
思フノデアリマスガ、政府ハ如何ヤウニ御
考ニナツテ居ルカ伺ヒタイ、第三點ハ本法
案ハ原職ニ復歸スルト云フコトヲ原則トシ
居リマセヌノデアリマス、原職ニ復歸出
來ナカッタ場合ニ於テハ、ソレノ職業紹介
所ヲ經テ、或ハ地方行政官廳ノ手ヲ經テト
云フヤウニ規定シテ居ルノデアリマスガ、
少クトモ本法ハ原職ニ復歸スルト云フコト
ヲ原則トシテ立シテ然ルベキト、私共ハ

考ヘルノデアリマスガ、サウ云フ所ニ重點
ヲ置カナカッタ點ハ如何ヤウニ御考デア
ルカ、以上三點ニ付テ御伺ヲシタイト思フ
ノデアリマス
最後ニ一點御伺シタイノハ、是ハ事務上
ノコトデアリマスガ、厚生省ハ現在内務省
ノ一部ト舊社會局跡ニ分離サレテ居ルノ
デアリマス、厚生省ノ持つ任務ト云フモノ
ハ、戰後社會政策上ニ於テ、重大ナル任務
ヲ私共ハ持つテ居ルト思フノデアリマスガ、
一面ニ於テハ内務省ニ居候ヲシ、一面ニ於
テ社會局跡ニト云ツタヤウナコトデ、分離シ
テ居ルト云フコトハ、事務ノ統一連絡ノ上
ニ於テ、甚ダ支障ヲ來スデアラウト云フコ
トヲ考ヘルノデアリマスガ、事務統一ノコ
トニ付テ、ドウ云フヤウニ處置ヲ執ラレル
ノデアルカ、此點モ一點御聽シテ置キタイ
ト思フノデアリマス、以上四點ニ付テ御答
辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

(國務大臣侯爵木戶幸一君登壇)
○國務大臣(侯爵木戶幸一君) 淺沼サンニ
御答致シマス、第一ノ御尋ハ、傷兵保護ニ
關シマスル點デアリマスガ、傷兵保護ハ現
下ノ時局ニ鑑ミマシテ、極メテ重要ナルコ
トハ申ス迄モナイノデアリマス、政府ニ於
キマシテハ、十三年度ノ追加豫算トシテ、
十分ナル施設ヲ爲スベク、目下各關係當局
ト協議致シテ居リマスノデ、最近ノ機會ニ
於テ提案シテ御協賛ヲ願フコトニナツテ居
リマス、其對策ノ施行方法ト致シマシテ、法
律ニ依リマシテ法人ヲ設ケテ、一ツノ機關
ヲ作ルト云フコトニ付キマシテモ、十分研
究致シマシタガ、此點ニ付キマシテハ、新
例デモアリマスシ、種々考究スベキ點ガア
ルノト、更ニ又傷兵ノ保護ハ、國家自ラガ
其任ニ當ルベキデアツテ、他ニ之ヲ委シテ
居ルト云フヤウナ印象ヲ與ヘマスルコトニ
付キマシテハ、篤ト考慮致シマシテ、只今
計畫致シテ居リマスノデ、厚生省ニ於キマ
シテ、一ツノ外局的ノ機關ヲ設ケマシテ、

ソコニ於テ運用スル考ヲ以テ折角折衝中デアリマス

ソレカラ第二ノ點ニ付キマシテハ、罰則ヲナゼ設ケナカッタカト云フ御話デアリマスガ、本法ハ御承知ノ通り所謂道德的ト申シマスカ、教育的ノ立法デアリマシテ、本法ノ所謂兵役ト云フコトガ、國民ノ崇高ナル義務ニ關スルモノデアリマスルカラ、此法律ノ運用ニ當リマシテ、其完璧ヲ期シマスル爲ニモ、教育的輿論ヲ喚起シ、此精神ヲ十分理解サセマシテ、而シテ之ヲ徹底サシテ行クト云フコトガ必要ナノデアリマシテ、違反者ニ對シマシテ罰則ヲ以テ臨ミマスコトハ、或ハ時ニ兵役義務ノ回避ト云フヤウナ、逆效果ヲ生ムコトヲ恐レルノデアリマシテ、其意味ニ於キマシテ、今回ノ改正ニ於キマシテモ罰則ヲ設ケナカッタ次第デアリマス

ソレカラ第三ノ點ハ、原職ニ復歸ト云フコトヲ原則ニシナクテハイカヌデハナイカト云フ御話デアッタ存ジマスガ、大體本法ニ於キマシテモ、原職ニ復歸スルト云フコトガ、主タル方針ニナツテ居ルノデアリマシテ、三十人以下ノ小サイ商工業者等ノ雇傭者ニ付キマシテハ、或ハ之ヲ強制スルコトガ無理ノ點モアリマスノデ、其點ニ於キマシテハ、職業紹介所長ノ判斷ト運用ニ委セマシテ、必シモ原職ト云ハズ、要スルニ一般ノ就職ヲ斡旋シ、優先シテ就職セシムルト云フコトニ致シタノデアリマス

最後ニ御尋ノ厚生省ノ現在ノ事務ヲヤツテ居ルコトデアリマスガ、是ハ將來成ベク一緒ニナルコトニナツテ居リマス、今今ハ可ナリ不便デアリマスガ、併ナガラ今日サシタル支障モナク運用シテ居ル積リデ居リマス

○議長(小山松壽君) 淺沼君、宜シウゴザイマス

○議長(小山松壽君) 淺沼君、宜シウゴザイマス

○議長(小山松壽君) 三浦虎雄君

三浦虎雄君登壇

○三浦虎雄君 私人入營者職業保障法中改正法律案ヲ通シマシテ、現内閣ノ社會立法ニ對スル熱意ト信念トヲ御尋シタイト思フノデアリマス、今ヤ革新政策ノ斷行ハ常識ト化シマシタ、併シ其革新政策ハ、一體物ノ利害ヲ先ニスルノカ、或ハ人間ノ利害ヲ先ニスルノカ、此點ニ對スル政府、或ハ議會ヲ通シテノ言論ニハ、聊カ疑義ヲ持ツ者デアリマス、言フ迄モナク物ハ人間ガ造ツタノデアリマスルカラ、人間ノ利害ガ物ノ利害ニ先ダツ答デアリマスルケレドモ、而シテ又現下ノ時局ニ於キマシテハ、持タザル者ハ其最後ノ肉彈ヲ國家ニ捧ゲツ、アル此時ニ於キマシテ、議會ニ於キマシテハ、所有權ノ擁護ト云フコトガ熱心ニ論議セラレツ、アルヤウナ狀態デアリマス、故ニ此機會ニ於キマシテ、現内閣ハ果シテ社會立法ヲ通シテ、國民大衆ニドレダケノ熱意ト關心ヲ持ツカト云フコトヲ、此際御尋シタイと思ヒマス

ソコ過去ヲ問フノデアリマセス、此議會ニ現内閣ガ提案セラレマシタ社會立法ヲ通シテ見マスルト、近衛内閣ハ一體國民大衆ニ何ヲヤツデ呉レタカラ吾々ハ疑フ者デアリマス、何物モナイノデアリマス、即チ社會政策ヲ取扱フ所ノ獨立ノ厚生省ガ新設サレテ、如何ニモ此内閣ハ民衆ノ利益擁護ニ熱心デアアルカニ見エタノデアリマスルケレドモ、今日マデ厚生省ノ大臣ハ依然トシテ兼任デアリマス、而シテ提案セラレタ社會立法ハ、唯名前ダケデアツテ、其内容ト云フモノハ、殆ド立法ノ精神ヲ失ツテ居リマス

議長退席、副議長著席

今一々之ヲ申上ゲマスルナラバ、曩ニ政府ハ恩給金庫ヲ庶民金庫ト並ベテ御出シニナツタ、庶民金庫ハ寧ロ官吏ノ爲ノ恩給金庫法ヲ通過セシメル爲ノ、因デアツタカニ見エルトデアリマス、其證據ニハ、恩給受領

者ノ中ノ恩給金庫ヲ必要トスル所ノ人ト云フモノハ、國民ノ中ノ極メテ一部分デアアル、其一部分ノ人ニ對シテハ、恩給金庫ノ資金トシテ三千万圓ガ計上セラレテ、恩給受領者トハ數ニ於テ比較ニナラナイ一般民衆ノ爲ノ庶民金庫ニ對シテハ、其三分ノ一、僅ニ一千万圓ノ資金ガ計上サレテ居ルト云フヤウナ狀態デアリマス、是ハ明ニ民衆ニ對シテ現内閣ハ熱意ノ缺ケテ居ルト云フコトヲ想像シ得ルモノデアリマス、恩給ト申セバ直チニ今日デハ軍人ヲ聯想致シマス、併ナガラ此軍人ノミガ恩給受領者ノ全部デハナイノデアリマス、實ニ受恩給者ノ半分ハ官公吏デアリマス、半分ガ軍人デアリマス、ダカラスウシタ戰時ニ當ツテ、此受恩給者ノ爲ニ恩給金庫法ヲ作ルト云フコトハ、如何ニモ此際戰時ニ於ケル軍人ヘノ感謝ノ熱意ノ現レデアアルカニ國民ハ考ヘテ、サウシテ易々ト恩給金庫法ト云フモノヲ通過セシメタノデアリマスルガ、併ナガラ此受恩給者ノ中ノ半分ノ軍人ハ、新ニ此法律ガ出來タ後ニ恩給ヲ貰フ軍人諸君モ出タデアリマセウケレドモ、其以前ノ恩給ヲ貰ツテ、サウシテ恩給金庫ヲ必要トスルヤウナ、サウシタ軍人ハ、或ハ召集セラレテ恩給ヲ受ケル權利ヲ失ヒ、或ハ又戰死セラレテ居ルノデアリマスルガ、實際ノ數ニ於テハ、此恩給金庫法ガ出來ル前ヨリモ減ツテ居ル筈デアリマス、サウシタ數ガ減ツテ居ル時代ニ於テ、此際利用シテ、寧ロ一般官吏ノ爲ニモ恩典デアアル所ノ此恩給金庫ヲ提案シ、之ヲ庶民金庫ト並ベテ通過セシメタト云フコトハ、是ハヤハリ民衆ノ利害休戚ト云フモノニ對シテ、政府ガドレダケノ熱意ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ疑ハザラ得ナイノデアリマス、更ニ又最近社會事業法ガ本院ヲ通過致シマシタガ、此社會事業法其モノヲ國民ガ考ヘマス、如何ニモ國民ノ利益ノ爲ノ結構ナ法案ガ通過シタカニ考ヘラレマスルケレドモ、其内容タルヤ、單ナル取締

法規デアリマシテ、私設社會事業ヲ取締ル所ノ罰則規定ヲ書上ゲタモノデアリマシテ、社會事業ヲ助長スルト云フコトハ、何處ニモナイノデアリマス、唯名前ダケガ立派ナノデアリマス、次ニ提案セラレタ所ノ職業紹介所法ト云フノガアリマスガ、此職業紹介所法中ニ於キマシテ、個人ノ口入業、料金を取ツテ職業ヲ周旋スル所ノ、其有料ノ口入業者其モノニ對スル制限ヲシタノデアリマス、之ヲ制限スルコトニ依ツテ、政府ハ如何ニモ労働者ヲ保護シタト云フヤウニ辯明シテ居リマスルケレドモ、實ハ労働者ヲ搾取シテ居ル、サウシタ口入業者ハ時間的ニ見レバ極メテ一時的ニ之ヲ搾取シテ居ルノデアリマス、寧ロ長時間ニ亘ツテ其労働力ヲ搾取シテ居ルモノハ會社ナノデアリマス、ソコデ一方ニ於テ個人ノ有料口入業者ト云フモノヲ制限スルト同時ニ、此會社ガ工場ノ前ニ掲ゲテ居ル所ノ職工募集ト云フ此手段ヲ封ジナイ限リハ、是デハ片手落ニナルト云フコトヲ免レナイ、即チ労働者ガ困テ居ル所ノモノハ、何時デモ労働條件、或ハ労働賃銀等ガ、會社ノ一方的意思ニ依ツテ決定セラレルト云フコトガ、労働者ノ堪ヘザル點デアリマス、故ニ斯ウシタ弊害ヲ除ク爲ニハ、此職業紹介所法中ニ於テモ、一面ニ於テハ個人ノ有料口入業者ヲ制限スルト同時ニ、斯ウシタ人ヲ派遣シ、或ハ會社ガ職工募集ノ大キナ看板ヲ掲ゲル、サウシタ會社ノ直接職工募集ヲ制限スルノデナケレバ、何處ニモ労働者ノ利害ハ保護セラレナイノデアリマス(拍手)斯ノ如ク此職業紹介所法案中ニ於テモ、資本金ニハ非常ニ遠慮ヲ致シテ居リマスルガ、一般ノ労働者ニ對シテハ、何處ニモ積極的ナ保護ト云フモノガ見ラレナイノデアリマス

更ニ今回ノ入營者職業保障法デアリマスルガ、是ハ先程淺沼君カラ御質問モアリ、當局ノ御答辯モアリマシタガ、一體法律ヲ制定致シマシテ、サウシテ制裁ノ無イヤ

ウナ法律ト云フモノガドレダケアリマセウカ、此法律案ヲ拜見致シマスルト、「雇傭スルコトヲ懲罰スルコトヲ得」備ヘト云フコトヲ會社ニ對シテ勸メタルコトガ出來ルト云フ、斯ウシタ生溫イ規定ナノデアリマス、積極的ノ規定ガナイ限リハ、斷クテ刑罰ニハ觸レナイ、要スルニハ政府モ辯明セラレタヤウニ、只管資本家ノ傭主ノ良心ノ判斷ニ俟ツ、斯ウ云フヤウナコトデアリマスルガ、又之ヲ強制規定ニスレバ、今ノ大臣ノ御答辯デハ、或ハ兵役義務ヲ忌避スルヤウナ逆效果ヲ生ズルカモ知レナイト云フヤウナ御話デアル、兵役ノ義務ヲ忌避スルト云フコトハ、兵役ニ服スル者ニ對スル十分ナル保護ガアレバ、決シテ忌避ハ致サナイノデアル、十分ナル保護ト云ヘバ、丁度丁年ニ達シマシテ、兵役年齡ニ達シマシテ、召集セラレテ入營スル、サウシテ滿期ニナツタ所ガ、元ノ職ニハ外ノ人居ル、ソレヲ法律ノ規定デ、元ノ地位ニ歸シテヤルト云フコトガ、本當ニ兵役義務者ヲ保護スル所以デアリマシテ、之ヲ只管傭主ノ良心ニ俟ツト云フヤウナ事柄ハ、決シテハ兵役義務者ヲ保護スル所以デアリナイ、寧ろ制裁規定ヲ置カナイコトガ、兵役義務ヲ忌避スル所以ニナルト思フノデアリマス（拍手）此職業保障法ト云フモノハ、七年前ニ制定セラレタノデアリマス、而モ其當時ニ於テスラ、是ハ制裁規定ガナイカラ何ニモナラヌ法律デハナイカト云フコトガ、屢々論議セラレタノデアリマス、又各地ニ於テサウシタ效果ノナイ爭ヲ屢々見タノデアリマス、七年以前ノ時代ト只今トデハ、言フ迄モナク内外ノ情勢ハスツカリ變テ居リマス、而モ今ハ戰時デアリマス、斯ウシタ非常ニ違ツタ時代ニ於テモ、尙且ツ七年以前ト同ジヤウニ、雇傭コトヲ懲罰スルコトガ出來ルト云フヤウナ、微弱ナル態度ニ何故政府ハ出ナケレバナラナカッタノカ、即チ是ハ労働者階級ニハ極メテ冷淡デアッテ、資本家ヲ只管恐レルヤ

ウナ氣持ガ、此處ニモ現レテ居ルノデアリマス、斯ノ如ク致シマシテハ、到底所謂革新政策ノ斷行ト云フヤウナコトハ行ハレマセス、既ニ近衛首相自ラモ摩擦ヲ恐レズ、革新政策ヲ斷行スルト仰セラレテ居ルノデアリマス、何ヲ恐レテ斯ノ如ク資本家ノ意思ヲ憚リ、斯ノ如キ戰時ニアッテモ、尙且ツ元ノ地位ニ復職サセルコトヲ拒ム者ヲ罰スルト云フ、制裁ヲ規定シ得ナイヤウナ態度ヲ御執リニナルノデアルカ、此處ニモ現内閣ガ他ノ社會立法ト同様ニ、如何ニ資本家ヲ恐レテ民衆ニ對シテ冷淡デアルカト云フ例證ガアルト私ハ思ヒマス、此點ニ於キマシテ、最モ社會立法ヲ必要トスル現在ニ於キマシテ、政府ハ果シテドノ程度ノ熱意ト信念トヲ社會立法ニ對シテ御持チニナルカ、此點ヲ御伺シタイト存ジマス（拍手）

（國務大臣侯爵木戸幸一君登壇）

○國務大臣（侯爵木戸幸一君） 三浦サニ御答ヲ致シマス、三浦サニハ御演說ノ劈頭ニ於テ、物ノ利害ヲ先ニスルカ、人ノ利害ヲ先ニスルカト云フ御趣旨ニ於キマシテ御尋デアリマシタガ、社會ハ人アッテノ物デアルト云フコトハ、御話ノ通りデアリマス、厚生省ガ出來マシテ、今後社會政策、社會立法ヲ斷行シテ參リマスニ付キマシテハ、國民生活ノ安定ト云フコトニ付キマシテ、各般ノ社會立法、社會施設ヲ爲シテ行クコトハ勿論ノコトデアリマシテ、今後ハ此方面ニ付テ十分努力スル考デ居ルノデアリマス、只今提案ニナッテ居リマスル法律ニ付キマシテモ、何カ資本家ニ非常ニ遠慮致シマシテ、微溫的な法案ヲ提出シタカノ如ク御話デアリマシタガ、左様ナ趣旨デハナイノデアリマシテ、罰則ヲ設ケナカッタト云フコトニ付キマシテハ、先程モ淺沼サニニ御答致シマシタ通り、本法ノ立法ノ趣旨カラ致シマシテ圓滿ナル運用ヲ期スルガ爲ニモ、亦本法ノ性質カラ考ヘマシテ、刑罰ヲ以テ之ヲ強制致シマスノハ、却テ弊ヲ生ズル虞

ガアルノデアリマシテ、其意味ニ於キマシテ罰則ヲ附ケナカッタノデアリマス、而シテ從來ノ例ニ依リマス、現行法ニ於キマシテ保護ヲ受ケナイ者デ、尙且ツ再就職、再雇傭セラレマシタ者ガ、二万五千人ノ中ニ一萬六千人モアルノデアリマシテ、大體ニ於キマシテ本法ノ趣旨ハ、漸次雇傭者並ニ被傭者ノ間ニハ、徹底シツ、アルト考ヘテ居リマス、今同ノヤウニ致シマシテ、更ニ職業紹介所長其他ガ是等就職ノ斡旋ヲ致シマシテ、法規的ニ優先シテ就職スルヤウニト云フコトヲ致シマスレバ、更ニ成績ヲ擧ゲテ行クコトガ出來ルノデアリマシテ、大體ニ於キマシテ兵役義務ニ服シマシタ結果、非常ナル不利益ヲ來スコトハナイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○副議長（金光庸夫君） 是ニテ質疑ハ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○服部崎市君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、工作機械製造事業法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、工作機械製造事業法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長森田福市君

工作機械製造事業法案（政府提出）
第一讀會ノ續（委員長報告）
報告書
一 工作機械製造事業法案（政府提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十三年三月十六日
衆議院議長小山松壽殿
委員長 森田 福市
（森田福市君登壇）

○森田福市君 只今上程セラレマシタ工作機械製造事業法案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲマス、本案ハ現下ノ時局ニ對應シ、且ツ將來ニ處スル目的ヲ以テ、工作機械製造業ニ對シ保護助成及ビ指導監督ヲ爲シテ、是ガ増産ヲ爲スト共ニ、其質的改善ヲモ併セ圖ラントスルモノデアリマス

以下質疑ノ内容ニ付キ主ナルモノヲ申上ゲタイト思ヒマス、委員會ノ大體ノ意向ト致シマシテ、本案ノ内容ハ極メテ徹底ナルニ依リ、更ニ一層ノ擴大充實ノ要ヲ當局ニ求メタノデアリマスガ、先ヅ第一ニ中小工作機械製造業者ニ對スル問題デアリマス、此問題ニ關シマシテハ、委員會ニ於キマシテモ、最モ論議ガ集中セラレマシテ、各委員ヨリ中小工作機械製造業者ニ對シ本法中除外規定ヲ設ケタ理由、殊ニ第三條、第七條、第十條及ビ第十二條ノ特典事項ノ適用ヲ、一部ノ大會社ノミニ限ツタ點ニ付キ、極メテ重要ナル質問ヲ爲シ、更ニ當局ニ對シ、前申述ベマシタ點ノ中小製造者ヘノ適用ニ付キ、熱心ニ質ス所ガアツタノデアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、本法ノ第一ニ企圖スル所ハ、生産能力ノ擴充ニアリ、先ヅ其第一段階トシテ、大規模工場ニ助成ヲ爲シテ増産ヲ圖リ、中小業者ニ對シマシテハ大企業者ヲ通ジ、或ハ間接的ニ、或ハ累次的ニ效果ヲ及ボシタキ旨、又中小業者ニハ別途ニ助成ノ用意アル旨ヲ答辯ガアツタノデ

アリマス、其第二ノ問題ハ、工作機械ノ規格統一ニ關スルモノデアリマス、工作機械ノ製造ニ當リ、部分品規格ノ不統一ハ非常ナ支障トナリマス、是ガ規格ノ統一ヲ圖ルコトハ洵ニ重要ナル旨ノ質問ガアリ、之ニ對シ政府當局ハ、近々機械試驗所ヲ設置シテ規格ノ統一ヲ圖ル旨ノ答辯ガアリマシタ、第三ハ工場労働者及ビ熟練工ニ關スル問題デアリマス、現在ノ工場ニ於テ労働者、殊ニ熟練工ガ不足ヲ來シテ居ルコトハ、是等ニ對スル保護政策ノ不備ニ基クモノデアル、仍テ政府ハ失業保險制度及ビ熟練工登錄制度ヲ確立サレテハ如何ト云フ質問ニ對シマシテ、政府當局ハ厚生省ト協議ノ上、熟練工養成其他ニ付キ善處スル旨ノ答辯ガアリマシタ、第四ハ不況時ニ於ケル工作機械製造問題デアリマス、不況時ニ於テ一番影響ヲ蒙ル者ハ、工作機械製造業者デアリカラ、是ガ對策如何ト云フ質問ニ對シマシテ、當局ハ不況時ニ於テモ或ル程度ノ生産力ヲ維持サセル爲メ、適當ニ補助スル旨ノ答辯ガアリマシタ、尙ホ詳細ハ速記録ニ依ッテ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス

最後ニ委員長カラ政府當局ニ對シテ質問ヲ致シマシタ、本法施行ニ際シテ政府ハ工作機械製作ノ製造工場中二百臺ニ滿タザルモノト雖モ、優良品ヲ製作ナシ得ル工場ニ對シテハ、本法ヲ適用ナスヤウ、命令制定ノ際考慮スル考アリヤ否ヤ、政府ハ之ニ答ヘテ十分考慮致シマス、ト明答ガアッタノデアリマス、次ニ尙ホ中小工場ノ保護助成ニ付キ政府ハ別途考慮ヲ爲ス意思アリヤ、之ニ對シテモ政府ハ考慮スル旨ノ明答ガアッタノデアリマス、質問ガ終リマシテ直チニ討論ニ入りマシテ、各派代表ヨリソレド、希望ヲ述べラレテ、原案ニ賛成サレタノデアリマス、採決ノ結果ハ、満場一致原案ヲ可決ニ相成リマシタ、此段御報告申上デマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通リ可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

工作機械製造事業法案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決確定致シマシタ(拍手)

○服部崎市君 日程第三乃至第五ハ後廻シニセラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第三乃至第五ハ後廻シト致シマス、日程第六、酒造税法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス 提出者古島義英君

第六 酒造税法中改正法律案(古島義英君提出) 第一讀會

酒造税法中改正法律案

第五條ノ二 政府ハ前條ノ規定ニ拘ラス一酒造年度間一石以下ノ自家用濁酒ノ製造ヲ免許スルコトヲ得

自家用濁酒ヲ製造スル者ニハ造石稅ヲ課セス

附則

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○古島義英君 極ク簡單デアリマスカラ、自席カラ發言スルコトヲ御許願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○古島義英君 只今上程サレマシタ酒造税法中改正法律案ノ提案ノ理由ヲ辯明申上デマス、本案ハ一言以テ之ヲ説明致シマスレバ、窮乏ノ極ニ達シテ居ル農民ヲシテ、自家用濁酒ヲ製造セシメ、之ヲ自由ニ飲マセタイト云フ案デアリマス、申ス迄モナク、今日マデ歷代ノ政府ハ、農村救済ト申セバ、一般の農民ヲ指サズ、地主ヲ指シテ居ッテ傾ガアリマシテ、例ヘバ地租條令ヲ廢止シテ地租法ヲ設ケ、租稅負擔ノ均衡ヲ圖リマシタガ、其結果都會ノ地租ハ三倍四倍ニ暴騰シ、耕作地ノ地租ハ四割若クハ五割ノ減額セラレタリニ拘ラズ、是ガ爲ニ一合ノ小作料サヘ負ケテ貰フタツ云フ實例ハアリマセヌ、自作農維持創設資金ハ相當莫大ナル金ヲ出シテ居ルノデアリマスガ、眞ニ自作農ハ維持創設セラレズ、年々減少ノ一途ヲ辿ッテ居リマス、負債整理ノ資金モ隨分出テ居リマスガ、實ハ金貨ノ資金ト化シテシマヒマシタ、ソレモ其苦デス、詰リ農工銀行ヤ勸業銀行デ農村ノ負債ヲ調査シタノデスカラ、地所ヲ擔保トシテ數千圓、數萬圓ヲ借りルノニ、何等之ニ同情ヲ寄スル點モナケレバ、又負債ヲ整理サセル其對象トナラス人達ナノデアリマス、實際ヲ申セバ、五十カ七十ノ小金ヲ借りテ困ッテ居ル人ヤ、小作料ヲ證書ニ直シテ、ソレガ返セナイデ困ッテ居ル者コソ、眞ニ救済シテヤラネバナラス人達デアリマス、借金ノ質ニ子供ヲ奉公ニ出シ、或ハ藥代ヤ葬式ノ費用ノ爲ニ、娘ヲ賣ラネバナラスト云フヤウナ農民コソ、眞ニ悲惨ノ極デアリマシテ、之ヲ救済セネバナラスノデアリマス、此悲惨ハ何ニ由ッテ來ルノデ

アルカト申セバ、申ス迄モナク、農村ノ收入ハ一元的デアッテ、米ヲ賣ルトカ麥ヲ賣ルトカ云フヨリ外ニハ、全ク絶無ナノデアリマス、支出ハト申セバ、衣食住全部ハ悉ク之ヲ金デ出スノデアリマス、其支出ノ點ハ洵ニ多元的デアアルノデアリマス、收入ガ一元的デアッテ支出ガ多元的デアリマスルカラ、困窮スルコト云フコトハ理ノ當然デアリマス、眞ニ此窮狀ヲ打開シテ、之ヲ救済シテヤルト云フノデアラバ、其收入ノ途ヲ多元的ニシテヤルト云フヨリ外途ハナイノデアリマス、所ガ收入ハ殆ド多元ニスル途ガアリマセヌ、農民ノ有スル副業ト云フモノハ、モウ農民ノ手ニハナイノデアリマス、支出ハ益々増加セラレル一方デアリマス、今回ノ増稅ニ付キマシテモ、熾寸ノ末ニ至ル迄値上リニナルノデアリマスカラ、農民ノ窮狀ト云フモノハ想像以上デアリマス、致方アリマセヌカラ、此際支出ノ途ヲ閉ヂテヤルノ外ニハ途ハナイノデアリマス、ソレガ爲ニハ葉煙草專賣法ヲ改正シテ自家用ノ煙草ヲ作ラセル、或ハ自家用ノ濁酒デモ造ラセテ、何等ノ樂ミノナイ農民ヲシテ、僅カバカリデモソコニ樂ミヲ與ヘテヤルト云フヨリ外ニ途ハナイノデアリマス(拍手) 固ヨリ酒ノ如キモノハ、道樂ヤ贅澤デ飲ムノデアリマセヌ、一杯ノ酒ト雖モ一日ノ勞苦ヲ慰シ、明日ノ勞働力ヲ蓄積スル爲ニハ、全ク缺クベカラザルモノデアアルノデアリマス(拍手) 然ルニ又酒ノ稅金ハ上リマシテ、一石五十圓ノ稅金ニモナルト云フコトデアリマス、飲ムニ飲ムコトガ出來マセヌカラ、遂ニ「メチール」ノ入ッタ酒ヲ飲ンデ、農民ガ身體ヲ又一段ト惡クスルノ已ムナキニ至ルデアラウト思フノデアリマス、若シサウデアルトスルナラバ、廣義國防上危殆ニ瀕スルモノデアルト論斷致スコトガ出來ルノデアリマス、是等ノコトヲ考ヘマス、農民ニ濁酒ノ製造ヲ許シ、混ジリ氣ノナイ酒ヲ飲マシ

テ、益、體力ヲ増進致シ、廣義國防ノ實ヲ擧
ゲシメテ、農民ヲシテ益、政府ノ有難サヲ感
ゼシメ、一層報國盡忠ノ實ヲ擧ゲサセタイ
ト思フノデアリマス（拍手）是レ本案ヲ提出
スル理由デアリマス、農民ノ爲ニ一段ノ御
同情アル諸君ニ於カセラレテハ、御賛成ノ
上速ニ御協賛アラント切望致シマス
（拍手）

○服部崎市君 本案ハ政府提出、臨時通貨
法案外一件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ
望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
七、入營者職業保障法中改正法律案ノ第一
讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シ
マス——贊成者川保清音君

第七 入營者職業保障法中改正法律案
（淺沼稻次郎君外四名提出） 第一讀會

入營者職業保障法中改正法律案
第三條但書ヲ左ノ如ク改ム
但シ被備者ガ疾病又ハ傷痍ニ因リ入營
前ノ勞務ニ堪ヘザル場合ニ於テハ適當
ナル勞務ヲ與ヘ入營直前ト同等ノ給與
ヲ與フルコトヲ要ス

第五條中「五十人」ヲ「三十人」ニ改ム
第七條ヲ第八條トシ第六條ノ次ニ左ノ一
條ヲ加フ

第七條 第一條乃至第三條ノ規定ニ違反
シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又
ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス第四條ニ於
テ第二條及第三條ヲ準用スル場合亦同
ジ

○川保清音君 簡單デアリマスカラ自席カ
ラ發言ヲ御許願ヒマス

○副議長（金光庸夫君） 許可致シマス

○川保清音君 只今上程致サレマシタ入營
者職業保障法中改正法律案ハ、曩ニ政府ヨ
リ提案サレ、委員會ニ付セラレテ居リマス
入營者職業保障法中改正法律案ト同一趣旨
デアリマスノデ、本案ヲ撤回致シタイと思
ヒマス、政府提出ノ議案第五條ハ吾々ノ意
見ヲ容レテ、本法適用範圍ヲ三十人ニ擴大
致シテ居リマスノハ、吾々ノ諒トスル所デ
ゴザイマスガ、他ノ點ニ付テ更ニ擴大強化
ノ必要ヲ認メル點モゴザイマスガ、是ハ委
員會ニ於テ修正意見ヲ述ベ、御協賛ヲ仰グ
コトニ致シマシテ、本案ヲ撤回致シマス
（異議ナシト呼フ者アリ）

○副議長（金光庸夫君） 御異議ガアリマセ
ヌカラ、本案ハ撤回ニ決シマシタ、日程第八、
船員保險法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出
者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者米窪滿
亮君

第八 船員保險法案（米窪滿亮君外一
名提出） 第一讀會

船員保險法案
第一章 總則
第一條 船員保險ニ於テハ保險者ガ被保
險者ノ疾病、負傷、癱瘓、分娩、死亡
又ハ脫退及被保險者ニ依リテ生計ヲ維
持スル家族ノ疾病又ハ負傷ニ關シ療養
ノ給付又ハ傷病手當金、癱瘓手當金、
分娩費、出産手當金、埋葬料、遺族手
當金若ハ脫退手當金ノ支給ヲ爲スモノ
トス

第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ船員
ガ其ノ勞務ノ對價トシテ受クル賃金、
給料又ハ俸給及之ニ準ズベキモノヲ謂
フ
賃金、給料又ハ俸給ニ準ズベキモノノ
範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ
定ム

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險
給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報
酬ニ依リ之ヲ算定ス
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル
徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル
權利及療養ノ給付、分娩費、出産手當
金又ハ埋葬料ノ保險給付ヲ受クル權利
ハ一年、其ノ他ノ保險給付ヲ受クル權
利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因
リテ消滅ス
前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項
ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ
準用ス

第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命
令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民間
ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス
第六條 船員保險ニ關スル書類ニハ印紙
稅ヲ課セズ
第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クベキ
者ハ被保險者、被保險者タリシ者其ノ
他本法ニ依リ保險給付ヲ受クル權利ヲ
有スル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌
スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ
證明ヲ求ムルコトヲ得
第八條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓
渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ
第九條 保險給付トシテ受クル金額ヲ標
準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ
第十條 船舶ガ沈没シ又ハ航行不明ト爲
リタル際現ニ其ノ船舶ニ乗組ミタル被
保險者又ハ其ノ船舶ニ乗組中中被保險者
ノ資格ヲ喪失シ引續キ乗船シタル者ニ
シテ沈没ノ日又ハ最後ノ消息アリタル
日ヨリ三月間其ノ生死分明ナラザルト
キハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ期間滿了

ノ日ニ死亡シタルモノト推定ス被保險
者又ハ船舶ニ乗込中中被保險者ノ資格ヲ
喪失シ引續キ乗船シタル者ガ船舶航行
中航行不明ト爲リタル場合ニ於テ最後
ノ消息アリタル日ヨリ三箇月間生死分
明ナラザルトキ亦同ジ

第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依
ル徵收金ヲ滯納スル者アリタルトキハ
保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベ
シ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合
ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手
數料及滯納金ヲ徵收ス但シ被保險者ヨ
リ徵收スルコトヲ得ズ

第十二條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケ
タル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ
他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ納付セザ
ルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ
依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者
ノ財産ノ在リ市町村ニ對シ之ヲ處分ヲ
請求スルコトヲ得
保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對
シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村
ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ
場合ニ於テハ保險者ハ徵收金額ノ百分
ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ
前二項ノ規定ニ於テ市町村アルハ町村
制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズ
ベキモノトス

第十三條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依
ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其
ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ
他ノ公課ニ先ツモノトス
第十四條 國ノ雇傭スル船員ニ關シテハ
本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定
ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者
第十五條 日本ノ國籍ヲ有スル船舶ニ乗
組ム日本臣民タル船員及豫備又ハ待命
中ニシテ報酬ヲ受クル船員ハ總テ本法

第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險
給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報
酬ニ依リ之ヲ算定ス
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

ノ被保險者トス但シ船員法第一條第一號乃至第三號ニ掲グル船舶ニ乗組ム船員又ハ母船式漁業ニ従事スル母船ニ乗組ム漁夫及雜夫ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 前條但書ノ船員又ハ漁夫及雜夫ヨリ申請アリタルトキ主務大臣ハ之ヲ包括シテ本法ノ被保險者ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十七條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ船員タル身分ヲ取得シタル日ヨリ、前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ本法ノ適用ヲ受クルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 被保險者ハ死亡又ハ解雇セラレタル日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ自己ノ責ニ因ルニ非ズシテ解雇セラレタル者ハ解雇ノ日ヨリ六月間第十五條ノ規定ニ依ル被保險者タル資格ヲ保有ス

第十九條 前條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ資格喪失ノ日ヨリ十日以内ニ申請ヲ爲スコトキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第三章 保險者

第二十條 船員保險ノ保險者ハ政府トス

第二十一條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ維持スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ雇傭スル船舶所有者ヲシテ其ノ雇傭スル者ノ移動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシムルコトヲ得

第二十三條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ定ムル官吏ヲシテ保險事故ノ生ジタル場所又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ療養ヲ爲ス場所ニ臨檢セシムルコトヲ得

第二十四條 保險者ハ保險給付ヲ受クル者又ハ商法第五百七十八條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

第二十五條 被保險者又ハ被保險者タリシ者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲スコト困難ナルトキハ保險者ハ船舶所有者ヲシテ保險給付ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ船舶所有者ハ保險者ニ對シ保險給付ニ要シタル費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第四章 保險給付

第一節 療養ノ給付及傷病手當金

第二十六條 被保險者及被保險者ニ依リテ生計ヲ維持スル家族ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ保險者ハ被保險者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第二十七條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第二十八條 療養ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ但シ其ノ疾病肺結核ナルトキハ一年、被保險者ノ業務上ノ事由ニ因リ疾病又ハ負傷ナルトキハ其ノ治療スルニ至ル迄療養ノ給付ヲ爲スコトヲ要ス

第二十九條 被保險者商法第五百七十八條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ期間ノ經過後本法ニ依リ療養

ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ經過シタル期間ハ第二十八條ノ期間ノ計算ニ算入セズ

第三十條 被保險者ノ家族ニ對スル療養ノ給付ハ被保險者ニ對スル給付ノ二分ノ一ト爲スコトヲ得

第三十一條 被保險者其ノ資格ヲ喪失シタル際療養ノ給付ヲ受ケ又ハ商法第五百七十八條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受クル場合ニ於テハ治療ノ給付ヲ繼續スルコトヲ得

第三十二條 被保險者療養ノ爲業務ニ服スルコト能ハザルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハザルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第三十三條 第二十八條ノ期間ハ傷病手當金ノ支給ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二節 療養手當金

第三十四條 被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ其ノ疾病又ハ負傷若ハ之ニ因リ發シタル疾病治療シタルトキニ於テ療養トナリタルトキハ療養手當金ヲ支給ス

第三十五條 被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ療養トナリタルトキハ療養手當金ヲ支給ス但シ其ノ期間ハ第三十四條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ期間ノ經過後一年內ニ療養ト

ナリタルトキハ療養手當金ヲ支給ス

第三十六條 被保險者業務上ノ事由ニ因ラズシテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テ第二十八條ノ規定スル期間內ニ治療シタルトキニ療養トナリタルトキ又ハ其ノ期間經過後一年內ニ療養ト

ナリタルトキハ療養手當金ヲ支給ス

第三十七條 療養手當金ノ額ハ左ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ム

一 業務上ノ事由ニ因ル場合ニ於テハ報酬日額九十日分以上八百五十日分以下

二 業務上ノ事由ニ因ラザル場合ニ於テハ報酬日額六十日分以上六百日分以下

前項ノ療養ノ程度及其ノ額ハ勅令ヲ以テ定ム

第三節 分娩費及出産手當金

第三十八條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ金二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩前二十八日分娩後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第三十九條 保險者ハ必要アリト認メタルトキハ被保險者ヲ產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

第四十條 被保險者其ノ資格ヲ喪失シタル際現ニ分娩ニ關スル給付ヲ受ケ又ハ被保險者タル資格ヲ喪失シタル後百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受ケベカリシ保險給付ヲ受クルコトヲ得

第四節 埋葬料及遺族手當金

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬料トシテ死亡當時ノ報酬日額三十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其金額五十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ五十圓トス

一 被保險者死亡シタルトキ

二 被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付、傷病手當金又ハ分娩ニ關スル保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ

三 商法第五百七十八條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受クル者死亡シタルトキ

四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ニシテ療養ノ給付、傷病手當金若ハ分婉ニ關スル給付ヲ受ケタル者若ハ商法第五百七十八條第一項ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ負擔ニ於テ治療及看護ヲ受ケザルニ至リタル者其ノ最後ノ給付又ハ治療若ハ看護ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ死亡シタルトキ

第四十二條 前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ對シ左ノ如ク遺族手當金ヲ支給ス

二 業務上ノ事由ニ因ルトキ 報酬日額六百日分

第六十三條 正當ノ理由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ゲ又ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 遺族手當金ノ支給ヲ受ケベキ者ノ順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 被保險者又ハ被保險者タリシ者保險給付ヲ受ケル目的ヲ以テ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ保險給付ヲ爲サズ遺族手當金ノ支給ヲ受ケベキ者被保險者又ハ被保險者タリシ者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキ亦同ジ

第五十四條 事故多キ船舶ニ乗込ム被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受ケル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ船舶所有者ノ負擔スベキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第六十四條 第二十二條ノ規定ニ依リ被保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ヲ提示ヲ拒ミタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 被保險者タル資格ヲ喪失シタル者其ノ資格喪失前三年以上被保險者タリシトキハ左ノ如ク脱退手當金ヲ支給ス

第四十八條 被保險者又ハ被保險者タリシ者鬪爭、泥醉者ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ傷病手當金ノ全部若ハ一部又ハ療疾手當金ノ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ

第六十五條 船舶所有者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本案又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

一 被保險者タルコト三年ナルトキ 報酬日額ノ四十五日分

第四十九條 保險者ハ詐欺其ノ他不正行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ノ支給ヲ爲サザルコトヲ得

第五十六條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ扣除スルコトヲ得

第六十六條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

二 被保險者タルコト三年一日以上五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ十五日分ヲ加フ

第五十條 療養ノ給付、傷病手當金、分擔費又ハ出產手當金ノ支給ヲ受ケベキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間中ノ之ヲ支給セズ

第五十七條 本法ニ規定スルモノノ外保險料ノ納付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 前條ノ規定ニ依リ訴訟ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ船員保險審査會ノ審查ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

三 被保險者タルコト五年以上十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第二號ノ額ニ報酬日額ノ二十日分ヲ加フ

第五十一條 他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ療養ヲ受ケル者ニ對シテハ重ネテ療養ノ給付ヲ爲サズ

第五十八條 保險給付ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴テ提起スルコトヲ得

第六十八條 船員保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

四 被保險者タルコト十年以上十五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第三號ノ額ニ報酬日額ノ三十日分ヲ加フ

第五十二條 保險者ハ船員保險事業ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

第五十九條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

五 被保險者タルコト十五年以上二十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ四十五日分ヲ加フ

第五十三條 保險料ハ被保險者及被保險者ノ雇傭スル船舶所有者各十分ノ四、國庫十分ノ二ヲ負擔スルモノトス但シ第十九條ノ場合ニ於テハ被保險者十分ノ八、國庫十分ノ二ヲ負擔スルモノトス

第六十條 前條ノ規定ニ依リ訴訟ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ船員保險審査會ノ審查ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第七十條 罰則

六 被保險者タルコト二十年以上ノトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ六十五日分ヲ加フ

第五十四條 事故多キ船舶ニ乗込ム被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受ケル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ船舶所有者ノ負擔スベキ割合ヲ増加スルコトヲ得

第六十一條 船員保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 罰則

一 被保險者タルコト三年ナルトキ 報酬日額ノ四十五日分

第五十五條 船舶所有者ハ其ノ雇傭スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ

第六十二條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴訟若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ爲スベシ

第七十二條 罰則

二 被保險者タルコト三年一日以上五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ十五日分ヲ加フ

第五十六條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ扣除スルコトヲ得

第六十三條 正當ノ理由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ゲ又ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十三條 罰則

三 被保險者タルコト五年以上十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第二號ノ額ニ報酬日額ノ二十日分ヲ加フ

第五十七條 本法ニ規定スルモノノ外保險料ノ納付ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十四條 第二十二條ノ規定ニ依リ被保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ヲ提示ヲ拒ミタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 罰則

四 被保險者タルコト十年以上十五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第三號ノ額ニ報酬日額ノ三十日分ヲ加フ

第五十八條 保險給付ニ關スル決定ニ對シ不服アル者ハ船員保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ訴テ提起スルコトヲ得

第六十五條 船舶所有者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本案又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第七十五條 罰則

五 被保險者タルコト十五年以上二十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ四十五日分ヲ加フ

第五十九條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依リ徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十六條 船舶所有者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第七十六條 罰則

六 被保險者タルコト二十年以上ノトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ六十五日分ヲ加フ

第六十七條 前條ノ規定ニ依リ訴訟ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ船員保險審査會ノ審查ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第六十八條 船員保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十七條 罰則

一 被保險者タルコト三年ナルトキ 報酬日額ノ四十五日分

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十八條 罰則

二 被保險者タルコト三年一日以上五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ十五日分ヲ加フ

第七十九條 罰則

第七十九條 罰則

三 被保險者タルコト五年以上十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第二號ノ額ニ報酬日額ノ二十日分ヲ加フ

第八十條 罰則

第八十條 罰則

四 被保險者タルコト十年以上十五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第三號ノ額ニ報酬日額ノ三十日分ヲ加フ

第八十一條 罰則

第八十一條 罰則

五 被保險者タルコト十五年以上二十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ四十五日分ヲ加フ

第八十二條 罰則

第八十二條 罰則

六 被保險者タルコト二十年以上ノトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ六十五日分ヲ加フ

第八十三條 罰則

第八十三條 罰則

一 被保險者タルコト三年ナルトキ 報酬日額ノ四十五日分

第八十四條 罰則

第八十四條 罰則

二 被保險者タルコト三年一日以上五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ十五日分ヲ加フ

第八十五條 罰則

第八十五條 罰則

三 被保險者タルコト五年以上十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第二號ノ額ニ報酬日額ノ二十日分ヲ加フ

第八十六條 罰則

第八十六條 罰則

四 被保險者タルコト十年以上十五年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第三號ノ額ニ報酬日額ノ三十日分ヲ加フ

第八十七條 罰則

第八十七條 罰則

五 被保險者タルコト十五年以上二十年未滿ナルトキ 一年ヲ超ユル毎ニ第一號ノ額ニ報酬日額ノ四十五日分ヲ加フ

第八十八條 罰則

第八十八條 罰則

トガ、社會ノ關心事トナツタコトニ付テハ、
既ニ逓信省ガ四十五議會ニ之ヲ提案セント
シテ立案ヲシタ、其長イ歴史ニ見マシテモ
明ナノデアリマス、其後此法案ニ關係ノア
ル所管ノ事務ガ内務省社會局ニ移サレマシ
テ、社會局ハ參與會議或ハ労働保險調査會
等ノ議ヲ經マシテ、第五十九議會ニ提案サ
レタノデアリマス、是ハ委員會ニ於テ
審議未了ニナツタノデアリマス、今日此事務
ガ厚生省ニ移サレマシテ、厚生省ハ昨年來
此法案ヲ議會ニ提出スベク、ソレノ機
關ニ掛ケテ審議中デアリマス、豫算方
件ヲ關係上、本議會ニ提案サレナイト云フ
コトハ、三十万ノ海員ノ爲ニ極メテ遺憾ナ
コトデアリマス、船員ガ板子一枚下ハ地獄
デアルト云フ、最モ危險ナル作業ニ從事シ
テ居ルコトハ、私ガ申上グル迄モナイノデ
アリマス、而モ今日我が政府ノ國策デア
ル所ノ海外收支ノ適合、輸出入ノバランス
ヲ取ル爲ニ貿易外ノ收入ヲ圖ルト云フ、其
重要ナル海運産業ノ原動力トナツテ働イ
テ居ル者ハ船員デア、而モ今次ノ事變ニ於
テ、船員ハ澤山ナ御用船ノ乘組員ニナツテ、
彈丸雨飛ノ間ニ其生命ノ危險ヲ曝シテ居
ル、斯ウ云フ極メテ重要ナル産業ニ從事シ
居ル労働者ニ對シマシテ、未ダ我國政府ハ
此種ノ保護立法ヲ制定シテ居ラナイコトハ
洵ニ遺憾デア、然ルニ一方陸上ノ労働
者ニ對シマシテハ、或ハ工場法、或ハ鑛夫
勞務扶助規則、或ハ健康保險法乃至本年
漸ク本議會ヲ通りマシタ國民健康保險法等
ノ有ユル法規ガアリマシテ、尙ホ是ハ勿論
最善デアルトハ言ヒマセヌガ、少クモ船
員ニ比ベバ相當ノ保護立法ガ行ハレテ居
ル、然ルニ先程申上ゲマシタヤウナ、重要
ナル産業ニ從事シテ居ル所ノ船員ニ對シテ
ハ、此種ノ社會保險ハ勿論ノコト、其他ノ
社會保護立法ガナイノデアリマシテ、皆サ
ンノ絶大ナル御支持ニ依ツテ、第七十一議會
ノアノ臨時議會ニ、緊急上程サレマシタ船

員法ノ改正ハ、ドウ云フ譯デア、逓信
省ノ方デ審議シテ居ルノカ、法制局ノ方ニ
マダ引掛ツテ居ルノカ、緊急事項トシテ臨時
議會ニ提出サレマシタ船員法ノ改正ガ、此
通常議會ノ開カレテ居ル今日ニ於テ、今尙
ホ制定實施サレナイト云フコトハ、政府當
局ガ如何ニ重要産業ニ從事シテ居ル労働者
ニ對スル理解ガ足ラナイカト云フコトヲ物
語ルモノデアリマス、是ニ於テ私ハ此船員
保險法ト云フ、極メテ重要ナル社會保險ノ
法案ヲ提出シタ次第デアリマス
如何ニ船員ガ海上ニ於テ危險ナル業務ニ
從事シナガラ、而モソレヲ使ツテ居ル船主
或ハ監督スル政府ニ依ツテ酬ヒラレル所ガ
少イカト云フ、一ツノ例ヲ申上ゲタイト思
ヒマス、是ハ昨年ノ九月十二日ニ七尾ニ船
籍ノアル第一能州丸ト云フ船ガ、北海道ニ
於テ沈没シタノデゴザイマス、サウシテ船
長、機關長、水夫長外四名ガ、是ガ爲ニ殉
職死亡ヲシタノデアリマス、之ニ對シテ船
主ハ船長、機關長ニ對シテ、死亡手當、葬
祭料、慰勞金、手當等、僅ニ一人三百圓ト
云フ所ノ涙金ヲ出シタ、サウシテ其他ノ者
ニ對シテハ、僅ニ一人當リ七十圓乃至五百十
圓ト云フ、零碎ナル手當ヲ出シタノデアリ
マシテ、此問題ニ付テ家族ト船主ノ間ニ爭
ガ起リマシテ、四箇月ト云フモノハ何等其
交渉ガ進捗セヌ、是ニ於テ高級船員ノ團體
デア、ル海員協會ニ持ツテ來マシテ、昨年ノ押
詰ツタ十二月ノ終リニ漸ク解決シタノデア
リマスガ、其解決ヲスルマデニ、船員ハ非
常時局デア、ルカラ、國內相剋摩擦ヲ防グト
云フコトデ、自重シテ居リマシタガ、船主
ガドウシテモ言フコトヲ聞カナイ、而モ船
員ヲ保護スル規定ガ今日ノ如ク不完全デア
ルカラ、遂ニ爭議ガ勃發シテ、此會社ノ他
ノ船ガ止ツタ、是ニ於テ初メ内務省關係ノ
官憲ガ出テ調停ニ立入りマシテ、漸ク船長
機關長ガ六百六十圓、ソレカラ火夫長ガ五
百圓ト云ツタ程度ニ、其涙金ガ増額サレテ解

決シタ譯デアリマス、若シ此船員保險法ガ
制定サレタナラバ、サウシタ不祥事件ハ起
ラズ、斯ウシタ所謂國內産業上ニ於ケル相
剋摩擦ガ起ラズ、圓滿ニ解決シタノデアリ
マス、此意味ニ於キマシテモ、此船員保險
法ガ必要デア、ルコトハ、私ガ多ク申上ゲル
必要ハナイノデアリマス
ソコデ茲ニ上程サレマシタ船員保險法ノ
詳細ニ付キマシテハ、私他ノ機會ニ其說明
ヲスルコトニ致シマシテ、其主ナル點ヲ申
上ゲマス、サウシテ被保險者ハ國家デアリマ
ス、サウシテ被保險者ハ原則トシテ船員法
ノ第一條第一項ノ第一號、乃至第三號ニ該
當スル者ヲ除イタ他ノ船員及ビ其家族ハ、
之ヲ全部強制被保險者ト致シマシテ、其他
ノ者ニ付テハ任意包括被保險者トスルノデ
アリマス、サウシテ此被保險者ノ受ケル療
養ノ範圍ハ、療養ノ給付又ハ傷病手當金、
療疾手當金、分曉費、出產手當金、埋葬料、
遺族手當金若ハ脱退手當金ノ支給ヲスベ
シ、斯ウ云フコトデアリマス、六十六條ニ
互ル長文ノ法案デアリマス、其要旨
ダケヲ簡單ニ申上ゲタ次第デアリマス、何
卒御審議ノ上速ニ御協賛セラレンコトヲ御
願致シマス(拍手)
○服部崎市君 本案ハ政府提出、入營者職
業保障法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セ
ラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ
○服部崎市君 此際暫時休憩セラレンコト
ヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ

マス、暫時休憩致シマス
午後二時三十八分休憩
午後四時四十七分開議
○副議長(金光庸夫君) 休憩前ニ引續キ會
議ヲ開キマス
○服部崎市君 日程第九及ビ第十ハ後廻シ
トセラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君) 服部君提出ノ動議
ニ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第九及ビ第十ハ後廻シト致
シマス、日程第十一、傷痍軍人並戰公傷病死
者遺族等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル
法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣
旨聲明ヲ許シマス
第十一 傷痍軍人並戰公傷病死者遺族
等ノ鐵道船舶等乗車船優遇ニ關スル
法律案(江藤源九郎君提出) 第一讀會
傷痍軍人並戰公傷病死者遺族等ノ鐵道
船舶等乗車船優遇ニ關スル法律案
第一條 本法ニ於テ鐵道トハ國有鐵道(連
絡鐵路ヲ含ム)、一般交通ノ用ニ供ス
ル地方鐵道及軌道並南滿洲鐵道株式會
社所屬ノ鐵道ヲ謂フ
第二條 本法ニ於テ船舶トハ一般交通ノ
用ニ供スル爲航路ヲ定メ定期ニ航行シ
テ旅客ヲ運送スル船舶ニシテ命令ヲ以
テ指定スルモノヲ謂フ
第三條 傷痍軍人及戰公傷病死者遺族ハ
命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道ニ在リテハ
無賃、船舶ニ在リテハ旅客運賃ノ五割
引ニテ乗車船スルコトヲ得
第四條 傷痍軍人ニシテ傷痍、疾病又ハ
老齡ノ爲附添ヲ要スル者ハ命令ノ定ム
ル所ニ依リ附添人一名ニ限リ本人相當
ノ等級ニ從ヒ無賃又ハ旅客運賃割引ニ
テ之ヲ同伴スルコトヲ得
第五條 戰公傷病死者遺族ニシテ疾病又

ハ老幼齡ノ爲他人ノ附添ヲ要スル者ハ
命令ノ定ムル所ニ依リ附添人一名ニ限
リ本人相當ノ等級ニ從ヒ無賃又ハ旅客
運賃割引ニテ之ヲ同伴スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○江藤源九郎君 自席ヨリ發言ヲ御許ヲ願
ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○江藤源九郎君 本案ハ傷痍軍人並ニ戰公
傷病死者遺族ヲ優遇スル目的ヲ以テ、鐵道
及船舶等ニ無賃又ハ割引運賃ヲ以テ乗車
船セシムルコトヲ、法律ヲ以テ規定セント
スルモノデアリマス、本案ヲ實行致シマス
ルコトニ依リマシテ、政府及ビ鐵道船舶營
業者ノ受クル負擔ハ、敢テ大ナラザルノミ
ナラズ、却テ實質的ニ於テハ寧ロ好影響ヲ
來スト思フデアリマス、殊ニ本案ニ依ル
特典ハ、犧牲者ニ對スル有ニル待遇施設中
最モ普遍的デアリマシテ、且ツ傷痍軍人等
ヲシテ、國家社會ヨリ與ヘラル、優遇ヲ直
感セシメ、延イテ一般ノ國防思想上ニ資ス
ル所ガ大ナルモノガアルト思フデアリマス
、且ツ本案ト其内容ニ於テ殆ド同一デア
リマス法律案ガ、既ニ數回本院ヲ通過致シテ
居ルノデアリマス、サウ云フ次第デアリマ
スカラ、何卒速ニ本案ノ通過致シマスルヤ
ウニ、御賛成アラシコトヲ御願致シマス(拍
手)

○服部市君 本案ハ政府提出、入營者職
業保障法中改正法律案委員ニ併セ付託セラ
レンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
十二乃至十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ
御異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
十二乃至十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ
御異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
十二乃至十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ
御異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
十二乃至十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ
御異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
十二乃至十六ハ、便宜上一括議題ト爲スニ
御異議アリマセスカ

官報號外

昭和十三年三月十七日

衆議院議事速記第二十九號

刑法中改正法律案外四件 第一讀會

六七三

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第十二、刑法中改正法律案
日程第十三、刑事判決宣告猶豫ニ關スル
法律案、日程第十四、行政執行法中改正法
律案、日程第十五、刑事訴訟法中改正法律
案、日程第十六、陪審法中改正法律案、右
五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出
者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者一松定
吉君

第十二 刑法中改正法律案(一松定吉
君外六名提出) 第一讀會
第十三 刑事判決宣告猶豫ニ關スル法
律案(一松定吉君外五名提出) 第一讀會
第十四 行政執行法中改正法律案(一
松定吉君外七名提出) 第一讀會
第十五 刑事訴訟法中改正法律案(內
藤正剛君外六名提出) 第一讀會
第十六 陪審法中改正法律案(內藤正
剛君外六名提出) 第一讀會

刑法中改正法律案
第二十五條中「二年以下」ヲ「三年以下」ニ
改ム
第二十五條ノ二 左ニ記載シタル者罰金
ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁
判確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期
間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得
一 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル
コトナキ者
二 前ニ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル
コトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行
ノ免除ヲ得タル日ヨリ五年以内ニ罰
金以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ
者

第二十六條中「刑ノ執行猶豫」ヲ「懲役又
ハ禁錮ノ執行猶豫」ニ、「前條第二號」ヲ
「第二十五條第二號」ニ改ム

第二十六條ノ二 左ニ記載シタル場合ニ
於テハ罰金ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス
可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ罰金以
上ノ刑ニ處セラレタルトキ
二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ
付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルト
キ
三 第二十五條ノ二第二號ニ記載シタ
ル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ
付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルコ
ト發覺シタルトキ

刑事判決宣告猶豫ニ關スル法律案
第一條 裁判所ニ於テ審理ノ結果被告人
ノ性格、年齡及境遇並犯罪ノ情狀及犯
罪後ノ情況等ニ因リ判決ノ宣告ヲ爲サ
サルヲ相當ト認ムルトキハ決定ヲ以テ
一年以上五年以下ノ期間内其ノ宣告ヲ
猶豫スル旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ得
檢察及被告人ハ前項ノ決定ニ對シ即時
抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 判決宣告猶豫ノ言渡アリタルト
キハ勾留セラレタル被告人ニ對シテハ
放免ノ言渡アリタルモノトス
第三條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ檢察
ノ請求ニ因リ判決宣告猶豫ノ言渡ヲ取
消スコトヲ得
一 被告人カ宣告猶豫ノ期間内ニ犯シ
タル罰金以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪
ニ依リ公判ニ付セラレタルトキ
二 其ノ他被告人ニ著シク宣告猶豫ノ
決定ヲ爲シタル趣旨ニ反スル行狀ア
リタルトキ

第四條 判決宣告猶豫ノ期間内ハ公訴ノ
時効ハ進行セス
第五條 判決宣告猶豫ノ言渡取消アリタ
ルトキハ裁判所ハ更ニ刑事訴訟法ノ規
定ニ從ヒ判決ヲ言渡ヲ爲スヘシ
第六條 判決宣告猶豫ノ言渡ヲ取消サル
ルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタ
ルトキハ被告人ニ對シ免訴ノ言渡アリ
タルモノト看做ス

第七條 判決宣告猶豫ノ言渡アリタルト
キハ私訴ニ付テハ其ノ裁判所ノ民事部
ニ移ス言渡アリタルモノトス
第八條 本法ニ依リ即時抗告ニ付テハ刑
事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

行政執行法中改正法律案
第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム
前項ノ檢束ハ翌日ノ日沒迄トシ之ヲ繼
續スルコトヲ得但シ泥酔者、瘋癲者、
自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スル者
ニ對シテハ遲滞ナク之ヲ保護者又ハ引
取人ニ通知シ其ノ出頭スル迄檢束ヲ繼
續スルコトヲ得
第一項ノ假領置ハ三十日以内ニ於テ其
ノ期間ヲ定ムヘシ

刑事訴訟法中改正法律案
第五十六條ノ二 被告人、被疑者、證人、
鑑定人、通事又ハ翻譯人ヲ訊問スル場
合ニ於テ是等關係者ノ請求アリタルト
キハ裁判所書記ノ作成スル調書ハ速記
ノ方法ニ依ルヘシ
前項ノ場合ニ於テハ裁判所書記ヲシテ
速記ヲ翻譯セシメタル後之ヲ供述者ニ
讀聞カサシメ又ハ供述者ヲシテ之ヲ閱
覽セシムヘシ
速記ノ爲ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔
トシ其ノ金額ヲ豫納セシムヘシ
前項ノ費用ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ
之ヲ定ム

第三百三條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
豫審判事ハ豫審ノ進行ヲ妨ケサル限り
前項ノ許可ヲ拒ムコトヲ得ス
陪審法中改正法律案
陪審法中左ノ通改正ス

ル意味ニ於キマシテ、調ヲ受ケル人ガ、ドウカ速記ニ依ッテ下サイト云フ申立ヲシタ時ニハ、調ヲ致シマスル人ハ、其申立ニ依ッテ直チニ速記ノ方法ニ依ッテ調書ヲ取ラナケレバナラス、サウ致シマシテ、其速記ヲ翻譯シタ後ニ於テ、調ベラレタ人ニ讀ミ聞ケテ、其通り間違ヒガナイト云フコトヲ確メタ後ニ、署名捺印ヲシテ、之ヲ調書ニ連綴シテ裁判ノ資料ニ供スル、斯様ニ致シマスレバ、其調書ノ神聖ニ對シテ疑ヲ容ル、餘地ガナイノミナラズ、調ベタ人ニ對シテノ置々タル非難ヲ除去スルコトガ出來マサルカラ、是非斯様ヲ取扱フ致シタイト云フノガ、本案提出ノ理由デアリマス

日程第十六ハ陪審法中改正法律案デ、御承知ノ如ク國民ヲシテ裁判ニ關與セシメナケレバナラスト云フ輿論ハ、遂ニ陪審法ヲ我國ニ實施セシムルニ至リマシタノデアリマス、其陪審法實施ノ當時ニ於キマシテハ、隨分物珍シイト云フヤウナコトモアッタノデアリマセウカ、陪審裁判ガ各地方裁判所ニ於テ往々ニシテ行ハレタノデアリマス、然ルニ年々歳々此陪審裁判ガ其數ヲ減ジマシテ、昨年若クハ一昨年ノ如キハ、僅ニ十數件或ハ十件、モウ五年モ六年モ陪審裁判ヲ開イタコトガナイト云フヤウナ裁判所ガ、全國ニ非常ニ數多クナッタノデアリマス、折角國民ニ裁判ニ關與スル有難キ權利ヲ認メラレタニ拘ラズ、ソレガ實施セラレナイ、其理由ハ何デアルカト云フト、所謂請求陪審ハ、請求スル者ガ費用ヲ負擔シナケレバナラスト云フヤウナコトガアツアルコトト、今一ツハ、陪審ニ對シテハ所謂控訴ヲ許サナイノデアアル、其爲ニ此有難キ陪審裁判ガ實際ノ上ニ行ハレナイノデアリマス（拍手）故ニ斯ノ如キ弊害ヲ除去シタイト云フノガ、此改正案ノ趣旨デアリマス、何卒滿場ノ諸君ニ於カセラレマシテハ、此提案ノ理由ニ御賛成ノ上、速ニ可決確定アランコトヲ御願致シマス（拍手）

○服部崎市長 日程第十二乃至第十六ノ五案ハ、一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市長 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、職業紹介法改正法律案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長（金光庸夫君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（金光庸夫君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、職業紹介法改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長服部岩吉君

職業紹介法改正法律案（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一 職業紹介法改正法律案（政府提出）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十三年三月十六日

委員長 服部 岩吉

衆議院議長小山松壽殿

附帶決議

一 第二十一條ニ依ル有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行フ業者ニ對シテハ一般家庭並ニ小商工業使用者及之ニ類スル者ノ職業紹介ハ其ノ營業ヲ壓迫セサル様嚴正ナル處置ヲ執ルヘシ（服部岩吉君登壇）

○服部岩吉君 只今日程ニ上リマシタ所ノ職業紹介法改正法律案ニ關スル審議ノ經過

竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ニ關シマシテハ、委員各位ヨリ全體的ニ又逐條的ニ、本法ノ目標、運用ノ組織並ニ運用方針、民間營利職業紹介業ニ對スル規制ノ方針等ニ付キ、仔細ニ互リ質疑應答ガ行ハレ、又熱心ナ御意見ガ開陳サレタノデアリマス、詳細ノ點ハ速記録デ御覽願フコトト致シマシテ、以下主ナル事項ニ付テ申上ゲルコトト致シマス

第一ニ、本法ノ主眼トスル所何レニアアルカ、政府ハ本法ニ依リ勞務統制ヲ行フ肚ガアルノデハナイカト云フ點ニ付テ質問ガアッタノデアリマスガ、政府ハ之ニ對シテ職業紹介ノ機能ハ、何處マデモ個人ノ自由意思ノ上ニ立ッテ、之ヲ斡旋シ指導スルモノデアッテ、其機能ヲ通ジテ勞務ノ配置ガ適正ニナルヤウニ、又勞務ノ需要ト供給トガ圓滑ニ結合セラル、ヤウニ配慮スルモノデアアルカラ、勞務統制ヲ行フモノデナイト云フ答辯ガアッタノデアリマス

第二ニ、勞務ノ適正ナル配置ヲ圖ラントスルナラバ、勞働條件ヲ適當ナラシメ、雇ハレタ者ガ安ジテ勤續シ得ルヤウニセネバ不徹底デアアル、職業紹介所ハ勞働條件ニ干與スルカドウカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、政府ハ職業紹介所ハ國家ノ行ハントスル諸政策ニ順應シツ、一方ニ於テハ求職者ノ資質能力等ヲ考ヘ、之ヲ成ベク適職ニ就カシメルト共ニ、之ヲ求ムル側ニ對シテハ、成ベク適材ヲ圓滑ニ供給致シマシテ、勞務ノ配置ノ適正ヲ圖ルヤウニ運用スルノデアッテ、單ニ機械的ニ求人ト求職トノ結合ヲ爲スノデハナク、求人求職雙方ニ對シテ、助言ノ注意ヲ與ヘルコトハヤルガ、ソレ以上ノ立入ッタ干渉ヲ爲スモノデナイト云フ答辯デアリマシタ

第三ニ、職業紹介所ヲ國營トシ、勞務ノ需給ヲ調整シテモ、將來產業界ノ不況ニ因リ、多數ノ失業者ヲ出サユナ場合ノ對策トシテハ不十分デハナイカ、之ニ付テ失業

保險等ヲ準備スル考ハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、將來失業者ガ多數出ルヤウナ事態ガ生ジタ場合ニハ、職業紹介事業ヲ運用スルダケデハ對處シ得ナイコトハ言フ迄モナイガ、其場合ニハ失業救済ニ付テ善處スル、併ナガラ失業保險ニ付テハ、其利害得失及ビ我國ノ國情等ニ付テ、十分考慮ヲ要スルモノガアルカラ、今直チニ之ヲ實施スル考ハナイト云フ答辯デアッタノデアリマス

第四ニ、職業紹介所職員ニ付テ、特別ノ養成施設ヲ設ケル必要ガアリハセヌカ、現在ノ市町村紹介所職員ヲ如何ニ處理スルカノ點ニ關スル質問ガアッタノデアリマスガ、政府ハ職員養成施設ニ付テハ特ニ其必要ヲ認メ、常設ノ養成施設ニ付テモ研究スルト云フ答辯ガアッタノデアリマス、現在ノ市町村紹介所職員ニ付テハ、不利益ニナラヌ程度ノ待遇ヲ以テ、原則トシテ全部國ノ職業紹介所職員ニ採用スル方針デアルト云フ旨ノ答辯ガアッタノデアリマス

第五ニ、職業紹介所ニ置ク聯絡委員ノ身分及ビ資格ニ付テノ質問ガアッタノデアリマスガ、聯絡委員ハ名譽職デアリマスガ、法律上認メラレタ機關デアリ、公務員タル身分ヲ有スルトノ答辯ガアッタノデアリマス、小學校長、青年團長、在郷軍人會長、方面委員等ノ適任者ヲ、地方長官ニ於テ任命スルト云フ答辯ガアッタノデアリマス

第六ニ、藝妓酌婦其他之ニ類スルモノノ職業紹介ヲ、本法カラ除外スルコトニ付テ、國營紹介所ニ於テ取扱フコトガ都合ガ惡イトシテモ、之ヲ除外ニ置クヤウナ態度ヲ執ルコトハ遺憾デアアル、是等ノモノニ對スル保護ニ付テ、政府ハ如何ニ考慮スルカト云フ質問ガアッタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ、現在ノ人事周旋業取締規則ノ改正等ニ依リ善處スル旨ノ答辯ガアッタノデアリマス

第七ニ、營利職業紹介事業ニ付テハ、是

ガ新設ハ認メスガ、既設ノ業者ノ存続ヲ認
メルト云フ。原案ニ對シマシテ、政府ハ一體
營業業者ヲ保護セントスルノデアルカ、或
ハ自然消滅セシムル方針デアルカ、補償金
ヲ出シテ廢業セシムル考ハナイカ、船員職
業紹介法ノ如ク、年限ヲ限リテ存続セシムベ
キデハナイカ、第十五條ニ依リ本法ノ適用
ヲ除外サレモノノ中ニ、戸内使用人、徒
弟等ヲ含メテハドウカ、又事業ノ相續承繼
ヲ認メルナラバ、營業讓渡ヲモ認メテ然ル
ベキデハナイカト云フヤウナ、種々ノ質問
ガアツタノデアリマスガ、之ニ對シテ政府カ
ラ、營業業者ニ對スル態度ハ從來通りデ、
特ニ保護ヲ加ヘルノデモナケレバ、又特ニ
壓迫ヲ加ヘル考モナイ、補償金ヲ與ヘテ
今直チニ廢業セシムルト云フ必要ヲ認
メナイ、船員紹介業者ノ場合ト異リ、民
間營業業者ハ相當ノ活動ヲシテ、社會的ニ
モ役立ッテ居ルカラ、年限ヲ限ルコトハ考
テ居ナイ、戸内使用人等ハ、現在モ市町村
紹介所デ取扱ッテ居ルカラ、之ヲ取扱範圍カ
ラ除外スルコトハ出來ナイ、又營業讓渡
ハ、新設ヲ認メヌ立前カラ、之ヲ認メルコ
トモ出來ナイシ、又左様ナモノハ所謂利權
ニナルヤウナ關係モアルカラシテ、サウ云
フモノハ出來ナイト云フ答辯ガアツタノデ
アリマス

附帶決議

第二十一條ニ依ル有料又ハ營利ヲ目的
トスル職業紹介事業ヲ行フ業者ニ對シ
テハ一般家庭並ニ小商工業使用人及之
ニ類スル者ノ職業紹介ハ其ノ營業ヲ壓
迫セサル様嚴正ナル處置ヲ執ルヘシ
政友會ヲ代表シテ野口君ヨリ原案ニ賛成シ、
併セテ民政黨ノ片岡君ヨリ提出サレマシタ

附帶決議ニモ賛成スルノ意思ヲ表示サレタ
ノデアリマス、又第一議員俱樂部ノ小池委
員ヨリモ原案ニ賛成シ、同時ニ片岡君ノ提
案サレマシタ附帶決議ニ賛成スル意思ヲ表
示サレマシタ、社大黨ノ米窪委員ハ原案ニ
ハ賛成スルガ、片岡君ノ提出サレタ附帶決
議ニハ遺憾ナガラ賛成ノ意ヲ表スルコトハ
出來ナイ、外ニ五點ノ希望條項ヲ附シテ原
案ニ賛成スル、第二控室ノ椎尾委員ハ原案
ニ賛成シ、且ツ片岡君ノ附帶決議ニモ賛成
スル、而シテ米窪君ノ希望條項ニモ同意ヲ
表スル、ソレカラ三浦委員ヨリモ、椎尾君
同様ノ意見ノ發表ガアリマシテ、討論ハ終
了致シマシタ、而シテ採決ニ入りマシタ結
果、原案ハ滿場一致ヲ以テ可決致シ、尙ホ
片岡君提出ノ附帶決議ハ、大多數ヲ以テ可
決サレタノデアリマス、尙ホ此機會ニ特ニ
社大黨ノ方ノ希望條項ヲ朗讀致シテ置キマ
ス

職業紹介法改正法律案ニ對スル
希望條項

- 一、政府ハ改正職業紹介法ヲ運用スルニ
當リ聯絡委員及職業紹介委員會制度ヲ活
用シ雇傭條件ノ適正ヲ期スルコト共ニ就
職後ノ勞務者ノ保護ニツキ萬全ヲ期ス
ベシ
- 二、臨時雇又ハ人夫名義ノ雇傭ニ付テハ
本法改正ノ趣旨ニ基キ速カニ常傭ニ變
更スルヤウ適當ナル處置ヲ執ルベシ
- 三、復員時ニ於ケル職業紹介事業ヲ圓滑
ナラシメルタメ政府ハ左ノ各點ニ關ス
ル萬全ノ措置ヲ執ルベシ
(イ) 入業者職業保障法ノ徹底
(ロ) 傷痍軍人ノ保護並ニ再教育ニ關ス
ル政策ノ確立
(ハ) 失業保險法ノ制定
- 四、本法改正ノ趣旨ニ鑑ミ政府ハ營利並
ニ有料職業紹介事業ニ對シ本法實施ノ
成績ニ基キ可及の速カニ之ヲ國營化ス
ベシ

五、政府ハ現在事業會社自體ノ行ヒツツ
アル勞働者募集ノ弊害アルニ鑑ミ是ガ
監督ヲ嚴重ニスルコト共ニ進ンデ團體協
約權ノ法認ニ邁進スベシ
以上ガ社大黨米窪君ノ希望條項デアリマ
ス、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ第二讀會ヲ
開クニ御異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマ
シタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第一讀會ヲ
開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ
通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、
議案全部ヲ議題ト致シマス

職業紹介法改正法律案

第二讀會(確定議)
○副議長(金光庸夫君) 別ニ御發議モアリ
マセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告
通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第十七
及ビ第十八ハ同種ノ議案デアリマスカラ、
一括議題ト爲スニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ日程第十七、司法書士法中改正
法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマ
ス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス――
提出者一松定吉君

第十七 司法書士法中改正法律案(中
山福藏君外五名提出) 第一讀會

第十八 司法書士法中改正法律案(立
川平君提出) 第一讀會

司法書士法中改正法律案

司法書士法中左ノ通改正ス
第四條 司法書士タルニハ檢定委員ノ考
試ヲ受ケ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受
クルコトヲ要ス
前項ノ考試ニ關スル事項ハ司法大臣之
ヲ定ム

第十條ノ二 司法書士ハ其ノ事務取扱ノ
統一及改善ヲ圖ル爲其ノ所屬地方裁判
所毎ニ司法書士會ヲ設ケ地方裁判所長
ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 司法書士ハ其ノ所屬地方裁
判所ノ司法書士會ニ加入シタル後ニ非
サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十一條中「品位ヲ失墜スヘキ行爲」ノ下
ニ「若ハ司法書士會ノ會則ニ違反シタル
行爲」ヲ加フ

第十二條 司法書士ニ非スシテ司法書士
ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五百圓以下ノ罰
金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ司法書士タル者ハ本法
ニ依ル司法書士ト看做ス

各地方裁判所所屬司法書士ハ本法施行ノ
日ヨリ三月内ニ司法書士會設立ノ爲會則
ヲ定メ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘ
シ

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四
月間之ヲ適用セス

司法書士法中改正法律案
司法書士法中左ノ通改正ス

第四條 司法書士タルニハ檢定委員ノ考
試ヲ受ケ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受
クルコトヲ要ス

前項ノ考試ニ關スル事項ハ司法大臣之
ヲ定ム

第十條ノ二 司法書士ハ其ノ事務取扱ノ
統一及改善ヲ圖ル爲其ノ所屬地方裁判

所毎ニ司法書士會ヲ設ケ地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三 司法書士ハ其ノ所屬地方裁判所ノ司法書士會ニ加入シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十一條中「品位ヲ失墜スヘキ行爲」ノ下ニ「若ハ司法書士會ノ會則ニ違反シタル行爲」ヲ加フ

第十二條 司法書士ニ非スシテ司法書士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ司法書士タル者ハ本法ニ依ル司法書士ト看做ス

各地方裁判所所屬司法書士ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ司法書士會設立ノ爲會則ヲ定メ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クヘシ

第十條ノ三ノ規定ハ本法施行ノ日ヨリ四月間之ヲ適用セス

○一松定吉君 只今上程セラレマシタ日程第十七、司法書士法中改正法律案ハ、御承知ノ如ク司法代書人ト稱セラレテ居リマシタノヲ、前年當院ニ於キマシテ司法書士ト名稱ヲ變ヘタノデアリマス、其司法書士ニ關シマシテ、ソレ等ノ人々ノ地位ヲ向上シ、其職務ノ執行ニ世人ノ信用ヲ高メシメルト云フ意味ニ於キマシテ、此司法書士タル資格ヲ獲得スルニハ檢定委員ヲ設ケテ試験ヲスル、斯ウ云フコトヲ定メマシテ、一面ニハ司法書士會ト云フ會ヲ拵ヘテ、地方裁判所長ガ之ヲ監督ヲスル、サウシテオ五ニ切礎琢磨シテ品位ヲ向上セシメ、一面ニハ司法書士ニアラザル所ノ非司法書士ヲ取締ル、斯ウ云フ意味ノ必要ヲ感ジマシテ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御賛成ヲ御願致シマス

○副議長(金光庸夫君) 提出者立川平君——本案ノ趣旨辯明者ハ議席ニ居ラレマ

セヌ、仍テ趣旨辯明ヲ省略シタモノト認メマス

○服部崎市君 日程第十七及第十八ノ兩案ヲ一括シテ、一松定吉君外六名提出、刑法中改正法律案外四件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十九乃至第二十二ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第十九、行政書士法案、日程第二十、私生子ノ名稱ニ關スル法律案、日程第二十一、理容師法案、日程第二十二、公證人法中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者一松定吉君

第十九 行政書士法案(中山福藏君外六名提出) 第一讀會

第二十 私生子ノ名稱ニ關スル法律案(中山福藏君、外五名提出) 第一讀會

第二十一 理容師法案(中山福藏君外八名提出) 第一讀會

第二十二 公證人法中改正法律案(野村嘉六君外十四名提出) 第一讀會

行政書士法案

行政書士法

第一條 本法ニ於テ行政書士ト稱スルハ他ノ法令ニ依ラスシテ他人ノ囑託ヲ受ケ官公署ニ提出スヘキ書類其ノ他權利義務又ハ事實證明ニ關スル書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ

第二條 行政書士ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

一 帝國臣民ニシテ民法上ノ能力者タルコト

二 中等學校卒業以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ行政書士試験ニ合格シタルコト

行政書士試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ行政書士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

三 行政書士ノ業務禁止ノ處分ヲ受ケタル者

第四條 行政書士ハ行政書士名簿ニ登錄セララルコトヲ要ス

第五條 行政書士ハ地方長官ノ監督ヲ受ケタル者

第六條 行政書士ハ地方長官ノ定ムル報酬ヲ受ケタル者

第七條 行政書士ハ相當ノ事由アルニ非サレハ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 行政書士業務上ノ義務ニ違反シタルトキハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 業務ノ停止

二 業務ノ禁止

三 三百圓以下ノ過料

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ノ處分ニ付之ヲ準用ス

第九條 行政書士ハ道府縣毎ニ行政書士會ヲ設立スヘシ

第十條 行政書士會ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第十一條 行政書士ハ行政書士會ニ加入シタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十二條 行政書士タル資格ヲ有セスシテ行政書士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 行政書士タルノ資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケスシテ行政書士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ二百圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
現在ノ代書人ハ本法施行ノ日ヨリ三月以內ニ行政書士名簿ニ登錄ヲ出願シタルトキハ試験ヲ要セスシテ行政書士タルコトヲ得

大正九年十一月二十五日內務省令第四十號代書人規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

私生子ノ名稱ニ關スル法律案

私生子ハ之ヲ母生子ト改稱ス

母生子ノ戸籍ニ關スル届出又ハ戸籍ノ記載ヲ爲スニ當リ母ト母生子トノ續柄ヲ表示スルニハ總テ母某長男若ハ母某二男(三男以下)又ハ母某長女若ハ母某二女(三女以下)ト記載スヘシ

前項ノ規定ハ庶子ニ付テモ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
他ノ法令中私生子トアルハ之ヲ母生子トス

母生子及庶子ノ戸籍ノ記載ニシテ私生子男、私生子女、庶子男及庶子女トアルハ本法第二項ノ記載例ニ依リ之ヲ訂正スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ因リ其ノ記載ヲ訂正スルコトヲ妨ケス

前項ノ訂正ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

理容師法案

理容師法

第一條 理容師ハ頭髮、鬚髯ノ剪剃、結

髮、美毛術、美爪術又ハ美顔術ヲ爲ス
コトヲ業トスルモノトス

第二條 理容師タラムトスル者ハ理容師
試験ニ合格シ行政官廳ノ免許ヲ受クル
コトヲ要ス理容師試験及免許ニ關スル
事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ理
容師ノ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ
一 精神病者、癲癩病者又ハ結核、癩、
「トラホーム」其ノ他ノ傳染性疾患ア
ル者

二 其ノ他不適當ト認メタル者

第四條 理容師營業所ヲ開設セムトスル
トキハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ
前項ニ規定スルモノノ外營業所ニ關ス
ル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 理容師ハ命令ノ定ムル所ニ依リ
家族其ノ他ノ者ヲシテ業務ニ從事セシ
ムルコトヲ得

第六條 精神病者、癲癩病者又ハ結核、
癩、「トラホーム」其ノ他ノ傳染性疾患
アル者ハ作業ニ從事シ又ハ從事セシム
ルコトヲ得ス

第七條 行政官廳ハ當該官吏ヲシテ隨時
營業所ヲ臨檢セシムルコトヲ得
理容師ハ前項ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 行政官廳必要アリト認ムルトキ
ハ理容師又ハ從業者ニ對シ醫師ノ診斷
書ヲ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ衛生上其ノ他必要ア
リト認ムルトキハ理容師ニ對シ命令ヲ
發スルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ左ノ各號ノ一ニ該當
スルトキハ營業ノ許可ヲ取消シ又ハ其
ノ停止ヲ命スルコトヲ得
一 他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認
メタルトキ

二 衛生、風俗其ノ他公安ヲ害シ又ハ
害スルノ虞アリト認メタルトキ
三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令

ニ違反シタルトキ

第十一條 理容師ハ理容術ノ改良發達ヲ
圖ル爲命令ノ定ムル所ニ依リ警察官署
ノ管轄區域毎ニ理容師組合ヲ設立スヘ
シ但シ理容師組合ニ屬スル理容師ノ數
多キトキハ同一警察官署ノ管轄區域内
ニ二以上ノ理容師組合ヲ設立スルコト
ヲ得

第十二條 理容師組合ハ命令ノ定ムル所
ニ依リ道府縣理容師組合聯合會ヲ設立
スヘシ
道府縣理容師組合聯合會ハ日本理容聯
盟ヲ設クルコトヲ得

第十三條 理容師組合、道府縣理容師組
合聯合會及日本理容聯盟ノ設立手續、
機關ノ組織及監督其ノ他必要ナル事項
ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 第二條第一項、第四條第一項、
第六條及第七條第二項ノ規定ニ違反シ
又ハ第八條乃至第十條ノ規定ニ依ル命
令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又
ハ科料ニ處ス

第十五條 理容師ハ其ノ戸主、家族、同
居人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務
ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命
令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出
テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコ
トヲ得ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術營業
ノ許可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ營業許
可ヲ受ケタル者ト看做ス
本法施行前從前ノ規定ニ依リ理容術試驗
ニ合格シタル者ハ本法ニ依リ理容師ノ免
許ヲ受ケタル者ト看做ス

公證人法中改正法律案
公證人法中左ノ通改正ス
「公證人法」ヲ「公證士法」ニ改ム

同法中「公證人」ヲ「公證士」ニ改ム

第二十八條第二項中「市區町村長」ノ下ニ
「若ハ登記官吏」ヲ加フ

第三十二條第二項中「市區町村長」ノ下
ニ「又ハ登記官吏」ヲ加フ

第三十六條第六號中「市區町村長」ノ下ニ
「若ハ登記官吏」ヲ加フ

第四十一條第一項中「市區町村長、」ノ下
ニ「登記官吏」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
○一松定吉君 日程第十九ハ行政書士法案
デアリマシテ、本案ハ只今申上ゲマシタ司
法代書人ヲ司法書士ト名前ヲ變ヘマシタ結
果、行政代書人ヲモ、ソレト均衡ヲ保ツ意
味ニ於テ、行政書士ト云フ名前ニ變ヘルト
云フコトト、同じク是等ノ人ノ品位ヲ向上
シテ、サウシテ依頼者ノ信用ヲ高メシメル
ト云フ意味ニ於テ、中等學校卒業以上ノ學
力ヲ有スル人ノ中カラ行政書士ノ試驗ヲシ
テ、ソレニ合格シタル者ヲ採用スルト云フコ
ト、及ビ行政書士會ヲ組織シテ、内務大臣
ガ之ヲ地方長官ニ命ジテ監督ヲセシムルト
云フコト等ヲ定メタノデアリマス

第二十、私生子ノ名稱ニ關スル法律案、
是ハ年々當院ニ提案ニナツテ、當院ヲ通過致
シテ居ル法案デアリマス、父ノ明カデナイ
所ノ子供ハ私生子ト云フ、此名前ガ甚ダ面
白クアリマセヌノデ、ソレガ爲ニ我國ニ於
ケル多數ノ私生子デアリマスル人々ガ、非
常ニ悲觀ヲシテ、自己ノ地位ヲ向上スルコ
トガ出來ナク、或ハ憂鬱ニ其日ヲ送ルト云
フ者ガ數知レズ多クアルノデアリマス、斯ウ
云フ人ヲシテ愉快ニ其日ヲ送ルコトガ出來
同ジク 陛下ノ赤子トシテ御奉公ノ出來ル
ヤウニサセタイト云フ意味ニ於キマシテ、
此私生子ト云フ名前ヲ變ヘテヤリタイ、ド
ウ云フ風ニ變ヘルカト云ヒマス、母某ノ
長男某、母某ノ長女某ト云フヤウニ戸籍
ニ記載ヲシテ、ソレ等ノ人ヲシテ幾分ナリ

トモ名前ニ依ッテ憂鬱ヲ感スルコトヲ除去
セシメタイト云フノガ、提案ノ趣旨デアリ
マス

第二十一ノ理容師法案、是ハ昨年本院ニ
提案ヲ致シタ法案デゴザイマシテ、即チ通
俗ノ言葉デ言ヒマスルナラバ、床屋サン、
髮結サン、美容師、斯ウ云フヤウナ業務ニ
從事シテ居リマスル人ガ、衛生思想ノ發達
ヲシテ居ル今日、之ヲ一ツノ團體的法規ノ
下ニ於テ活動出來ル組織體ト致シマシテ、
國民保健上重要ナル任務ヲ遂行セシムル必要
上、組合制度ト云フモノヲ公認ヲシテヤリ
タイ、サウシテ相當ノ資格ヲ與ヘテ、ソレ
等ノ待遇ヲ良クシテヤリ、一面ニハ人格ノ
向上ニ資スルコト云フ意味ヲ以テ、本案ヲ提
案致シタルデアリマス

日程第二十二ハ公證人法中改正法律案デ
アリマシテ、既ニ辯護士、辨理士、計理士、
ト云フヤウニ、此「士」ト云フ文字ヲ使ヒ、
而モ代書人デサヘモ司法書士、行政書士ト
云フ名前ヲ使フコト云フ狀況ニアリマスル今
日、社會上相當ナ地位ニアリマスル公證人
諸君ヲ、公證人ト云フ名前デハ、餘リニ輕
蔑ノ意味ヲ含ムノデハナカラウカト云フ虞
モアリマスルノデ、權衡上之ヲ公證士ト云
フ名前ニ改メルト云フノガ一ツ、今一ツハ
公正證書ヲ作成致シマストキニ、其囑託人
ノ氏名ヲ知ラズ、又面識ナイトキニハ、人
違ヒデナイト云フコトヲ證明スル爲ニ、市
區町村長ノ印鑑證明書ヲ提出セシムル現行
法デハ、商業登記ヲ爲シタル法人ノ代表者
ニ交付スル所ノ登記官吏ノ印鑑證明書ヲ除
外シテ居リマスコトハ、甚ダ權衡ヲ失シマ
スル嫌ガアリマスルカラ、登記官吏ノ印鑑
證明書ヲ、市區町村長ノ印鑑證明書ト同一
ニ取扱フノガ便利デアルト考ヘマシテ、此
二ツノ改正ヲ主ト致シマシテ本案ヲ提出致
シタルデアリマス、何卒御協賛アランコト
ヲ御願致シマス

○服部崎市君 日程第十九八、一松定吉君
外六名提出、刑法中改正法律案外四件委員
ニ、日程第二十及第二十一ノ兩案ハ一括
シテ、八木逸郎君提出、民族優生保護法案
委員ニ、日程第二十二ハ、中野治介君外一
名提出、計理士法中改正法律案委員ニ併セ
付託セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
二十三、建築士法案ノ第一讀會ヲ開キマス、
提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者手
代木隆吉君

第二十三 建築士法案(野村嘉六君外
八名提出) 第一讀會
建築士法案

第一條 建築士ハ建築士ノ稱號ヲ用ヒテ
當事者ノ委囑ニ因リ建築ニ關スル設
計、工事監督、調査又ハ鑑定ヲ業トス
ルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ建築士タ
ル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所
ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ
私法上ノ能力者タルコト

二 建築士試験ニ合格シ一年六月以上
建築ノ設計監督ニ關スル實務修習ヲ
了ヘタルコト

前項第二號ノ建築士試験及實務修習ニ
關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前
條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス建築士
タル資格ヲ有ス

一 建築學ヲ修メタル工學博士
二 帝國大學、大學令ニ依ル大學、專
門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大

臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校
ニ於テ建築ニ關スル諸學科ヲ修メ定
規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ一年以
上建築ノ設計監督ニ關スル實務ニ從
事シタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ建
築士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但
シ二年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラ
レタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ
其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタ
ル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者
ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十
三條又ハ第十四條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處
セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又
ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リ
タル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル
者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

四 建築士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ
業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ヲ經過セ
サル者

五 建築士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケ
タル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨ
リ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於
テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ
此ノ限ニ在ラス

第五條 建築士タル資格ヲ受ケムル者ハ建築士
登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

建築士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以
テ之ヲ定ム

第六條 建築士ノ登錄ヲ受ケムル者
ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七條 建築士ハ誠實公正ニ其ノ業務ヲ
行フヘシ

第八條 建築士ハ其ノ業務ニ關シ委囑者
以外ノ者ヨリ贈與其ノ他ノ利益ヲ受ク
ルコトヲ得ス

第九條 建築士ハ自ラ左ノ營業ヲ爲シ又
ハ左ノ營業ヲ爲ス者ノ使用人タルコト
ヲ得ス

ハ左ノ營業ヲ爲ス者ノ使用人タルコト
ヲ得ス

一 建築土木ニ關スル請負業

二 建築材料ニ關スル商工業

三 土地家屋ニ關スル代理業

第十條 建築士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第十一條 建築士本法ノ規定ニ違反シタ
ルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行為ヲ爲
シタルトキハ主務大臣ハ建築士懲戒委
員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ
得

建築士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 建築士ノ懲戒處分ハ左ノ四種
トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以內建築士ノ業務ノ停止

四 建築士ノ業務ノ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ
主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前
項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十三條 建築士又ハ建築士タリシ者故
ナク其ノ業務上知得タル事項ニシテ委
囑者ニ必要ナル秘密ヲ漏泄シタルトキ
ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金
ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四條 建築士タル資格ヲ有セスシテ
建築士ノ稱號ヲ用ヒ建築士ノ業務ヲ行
ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以
下ノ罰金ニ處ス

第十五條 建築士タル資格ヲ有スルモ其
ノ登錄ヲ受ケスシテ建築士ノ稱號ヲ用
ヒ建築士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ八十圓以
上二百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百
八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用
ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六
號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セ
ラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ
刑ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際迄引續キ一年以上建築ニ關
スル設計監督ノ業務又ハ職務ニ從事シタ
ル者ハ本法施行ノ日ヨリ一年以內ニ出願
シタルトキニ限り第二條第一項第二號ノ
規定ニ拘ラス建築士試験委員ノ銓衡ヲ經
テ建築士タルコトヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學、專門學校
令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之
ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ土木ニ關
スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル
者ニシテ引續キ三年以上建築ノ設計監督
ニ關スル業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ
本法施行ノ日ヨリ五年以內ニ出願シタル
トキニ限り第二條第一項第二號ノ規定ニ
拘ラス建築士試験委員ノ銓衡ヲ經テ建築
士タルコトヲ得

○手代木隆吉君 只今上程ニナリマシタ建
築士法案提出ノ理由ヲ辯明致シマス、本法
案ハ本院ニ於テ前後二回成立ヲ致シテ居ル
所ノ法案デアリマシテ、輒近世運ノ進展ニ
伴ヒマシテ、公私ノ建築事業ハ漸ク隆昌ヲ
見ルニ至リマシタ、其處理經營ニ際シマシ
テ、複雑ナル事情ト機微ナル事態ノ發生ス
ルコト、亦往年ノ比デアリマセヌ、國民
日常ノ生活ト密接ナル關係ヲ有シ、且ツ其
財產ノ要素デアリマス所ノ建築ノ計畫及ビ
監督ハ、適當ノ教養ト技能ト經驗トヲ要ス
ルコトハ勿論デアリマス、隨テ之ヲ業トス
ル者ノ職責ヲ明ニ致シ、以テ諸般ノ弊害ヲ
未然ニ防ギ、併セテ建築物ノ安固ト精華ト
ヲ期セナケレバナラヌト思フノデアリマス、
仍テ速ニ建築士法ヲ制定致シ、現行ノ建築
物取締ニ關スル法規ト相俟ツテ、國民ノ利益
ヲ保護シ、國家ノ福祉ヲ増進セントスルモ

ノデアリマス、是レ本案ヲ提出スル理由デアリマス、何卒御賛成ノ上速ニ本案ノ成立セラレンコトヲ望ミマス

○服部崎市長 本案ハ政府提出、市街地建築物法中改正法律案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十四乃至二十六ハ同種議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二十四、產師法案、日程第二十五、產師法案、日程第二十六、產師法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス
提出者土屋清三郎君

第二十四 產師法案(土屋清三郎君外

五名提出) 第一讀會

第二十五 產師法案(田中養達君外一

名提出) 第一讀會

第二十六 產師法案(野方次郎君外一

名提出) 第一讀會

產師法案

產師法

第一條 產師トハ助產ヲ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 產師タラムトスル者ハ年齢二十

年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内

務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 高等女學校卒業業者又ハ之ト同等以

上ノ學力ヲ有スル者ニシテ内務大臣ノ

指定シタル產師學校ヲ卒業シタル者

二 外國ノ產師學校ヲ卒業シ又ハ外國

ニ於テ產師免許ヲ受ケタル者ニシテ

命令ノ規定ニ該當スル者

三 產師試驗ニ合格シタル者
產師試驗ハ内務大臣之ヲ行フ
產師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ對シテハ產師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ產師ノ免許ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四條 產師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 產師ハ自ラ臨產又ハ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第六條 產師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ノ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 產師ハ產簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第八條 產師ハ產師會ヲ設立スヘシ

產師會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 產師第三條第一項ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

產師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項ノ處分及第三項ノ再免許ヲ爲ス

場合ハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス
第十條 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ助產ノ業ヲ爲シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス業務停止中ノ產師ニシテ助產ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產婆名簿ニ登錄セラレタル者ハ本法ニ依リ產師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期間ヲ定メテ假ニ產婆ノ業ヲ免許セラレタル者ハ本法施行後ト雖尙其ノ效力ヲ有シ且其ノ有效期間ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ產婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ產婆名簿ニ登錄ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第二條ノ規定ニ拘ラス產師ノ免許ヲ受ケタルコトヲ得

產師法案

第一條 產師トハ助產ヲ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 產師タラムトスル者ハ年齢二十

年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内

務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 高等女學校卒業業者又ハ之ト同等以

上ノ學力ヲ有スル者ニシテ内務大臣ノ

指定シタル產師學校ヲ卒業シタル者

ニ於テ產師免許ヲ受ケタル者ニシテ

命令ノ規定ニ該當スル者

三 產師試驗ニ合格シタル者

產師試驗ハ内務大臣之ヲ行フ

產師試驗ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者ニ對シテハ產師ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ產師ノ免許ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四條 產師ハ妊婦、產婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 產師ハ自ラ臨產又ハ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得ス

第六條 產師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ノ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 產師ハ產簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第八條 產師ハ產師會ヲ設立スヘシ

產師會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 產師第三條第一項ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

產師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項ノ處分及第三項ノ再免許ヲ爲ス

場合ハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十條 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ助産

ノ業ヲ爲シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス業務停止中ノ産師ニシテ助産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前産婆名簿ニ登録セラレタル者ハ本法ニ依リ産師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期限ヲ定メテ假ニ産婆ノ業ヲ免許セラレタル者ハ本法施行後ト雖尙其ノ效力ヲ有シ且其ノ有効期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登録ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登録ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第二條ノ規定ニ拘ラス産師ノ免許ヲ受クルコトヲ得

産師法案
第一條 産師トハ助産ヲ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 産師タラムトスル者ハ年齢二十年以上ノ女子ニシテ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 高等女學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ内務大臣ノ指定シタル産師學校ヲ卒業シタル者

二 外國ノ産師學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ産師免許ヲ受ケタル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

三 産師試験ニ合格シタル者
産師試験ハ内務大臣之ヲ行フ
産師試験ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 聾者、啞者、盲者又ハ精神病者

ニ對シテハ産師ノ免許ヲ爲スコトヲ得

墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテハ産師ノ免許ヲ爲ササルコトアルヘシ

第四條 産師ハ妊婦、産婦、褥婦又ハ胎兒、生兒ニ異常アリト認ムルトキハ直ニ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時應急ノ處置ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 産師ハ自ラ臨産又ハ檢案セスシテ死産證書又ハ死胎檢案書ヲ交付スルコトヲ得

第六條 産師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上技能、經歷又ハ命令ノ定ムル事項ノ廣告ヲ爲スコトヲ得

第七條 産師ハ産簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ

第八條 産師ハ産師會ヲ設立スヘシ
産師會ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 産師第三條第一項ニ該當スルトキハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

産師墮胎ノ罪其ノ他業務ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ期間ヲ定メテ業務ヲ停止スルコトアルヘシ其ノ免許前ニ係ル場合亦同シ

前二項ノ取消處分ヲ受ケタル者ト雖改悛ノ情顯著ナルトキハ再免許ヲ爲スコトヲ得

前三項ノ處分ハ内務大臣之ヲ行フ但シ第二項ノ處分及第三項ノ再免許ヲ爲ス場合ハ中央衛生會ノ審議ヲ經ルコトヲ要ス

第十條 第二條ノ免許ヲ受ケスシテ助産ノ業ヲ爲シタル者又ハ第四條乃至第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス業務停止中ノ産師ニシテ助産ノ業ヲ爲シタル者亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産婆規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行前産婆名簿ニ登録セラレタル者ハ本法ニ依リ産師ノ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

本法施行前地方長官ヨリ業務ノ地域及期限ヲ定メテ假ニ産婆ノ業ヲ免許セラレタル者ハ本法施行後ト雖尙其ノ效力ヲ有シ且其ノ有効期限ハ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登録ヲ受クル資格ヲ有スル者及本法施行後五箇年以内ニ從前ノ規定ニ依リ産婆名簿ニ登録ヲ受クル資格ヲ得タル者ハ第二條ノ規定ニ拘ラス産師ノ免許ヲ受クルコトヲ得

○土屋清三郎君 簡單デアリマスカラ、本席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○土屋清三郎君 本案ハ産婆ニ關スル身分法デアリマス、産婆ガ婦人ニ許サレタル唯一ノ獨立職業デアッテ、而モ其職分ハ次代ノ帝國ヲ雙肩ニ擔ッテ立ツ所ノ健全ナル國民ヲヨリ多ク輕産セシムル所ノ職分デアリマス、然ルニ産婆ニ關スル規定ハ、只今ヨリ三十年以前勅令ニ依リ規定サレタル所ノモノデアリマシテ、時代ノ進運ニ副ハザルコト甚ダ多イデアリマス、隨ヒマシテ吾々ハ既ニ數回本案ヲ議會ニ提出致シマシテ、毎度衆議院ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、其内容ハ御承知ノ通り産婆ニ關スル教育ノ程度ヲ高メマシテ、其身分權限ヲ明ニ致シマシテ、其團體的活動ニ依ッテ國家ニ貢獻サセヨウト云フノガ本案ノ趣旨デアリマス、既ニ政府ハ時局ニ目覺メマシテ、厚生省ヲ設ケマシテ、國民體位ノ向上ニ力ヲ注グヤウニナリマシタ今日、産婆ノ身分法ノ制定ハ、是ト相對シテ極メテ必要デアルト考ヘマスカラ、何卒御審議ノ上ニ本案ノ成立

セラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 提出者、田中養達君 本案ノ趣旨辯明者ハ議席ニ居ラレマセス、仍テ此趣旨辯明ヲ省略セラレタモノト認メマス 提出者野方次郎君

○議席ニ居リマセス(ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ趣旨辯明者モ、其趣旨辯明ヲ省略シタモノト認メマス

○服部崎市君 日程第二十四乃至二十六ノ三案ハ一括シテ八木逸郎君提出、民族優生保護法案委員ニ併セ付託サレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセスカ

○異議ナシ(ト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十七、農家世襲財產法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス 提出者林平馬君

第二十七 農家世襲財產法案(林平馬君外二名提出) 第一讀會

農家世襲財產法案 第一讀會

農家世襲財產法案 第一讀會

第一條 自作農維持ニハ其ノ生活ヲ維持スルニ必要ナル範圍内ニ於テ世襲財產ヲ設定スルコトヲ得

世襲財產ノ設定ハ登記ヲ爲スニ依リテ之ヲ爲ス

第二條 本法ニ於テ世襲財產トハ前條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル土地建物ヲ謂フ

第三條 自作農創設維持ニ付國庫ヨリ補助ヲ受ケタル土地ハ第一條第二項ノ規定ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 本法ノ登記ニハ登録稅ヲ課セス

世襲財產ニ對シテハ租稅公課ヲ課セス

第五條 世襲財產ノ目的物ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ正當ノ事由アルトキ

ハ市町村長ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第六條 世襲財産ハ第一條第二項ノ登記前ニ其ノ目的物ニ付生シタル債權ヲ除キ其ノ他ノ債權ニ依リ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第七條 世襲財産ノ果實ハ收穫後十五日以内ニ市町村長ニ届出ツルコトヲ得前項ノ届出アリタル場合ハ届出ノ範圍内ニ於テ世襲財産設定者及其ノ家族ノ次期收穫期マテ必要ナル食料ニ相當スルモノハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第八條 世襲財産ハ之ヲ讓渡若ハ質貸ヲ爲シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ正當ノ事由アルトキハ質貸ニ限リ市町村長ノ許可ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得

第九條 世襲財産ハ之ヲ分割相續ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 世襲財産存置ノ必要ナキニ至リタルトキハ世襲財産設定者ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ廢止スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○林平馬君 此席ヨリ申上ゲマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○林平馬君 只今上程サレマシタ農家世襲財産法案ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス

農村ニ對シテ實質剛健ナル國民精神ノ母體タル役割ト、頑強健全ナル民族體位ノ維持増進ノ役割トヲ期待スル爲ニハ、總テノ農民ヲシテ自作農即チ獨立農民タラシムルコトニアリト信ジマス、然ルニ農村ノ現狀ヲ見ルニ、一度負債ヲ作レバ恰モ吸血鬼ニ取付カレタ如ク、次第ニ其獨立性ヲ奪ハレ、年ト共ニ衰弱ト苦惱トヲ加ヘ、是ガ償還ハ殆ド不可能トナリ、其悲惨ナル狀態ハ正ニ言語ニ絶スルモノガアルノデアリマス、隨テ農村ノ此二大任務モ到底期待シ得ザルニ至ラントスルコトハ、國家ノ爲メ眞ニ憂慮ニ堪ヘザル次第デアリマス、故ニ農村ノ負

債ヲ整理スルト共ニ、一面土地ト農民トノ不可分性ヲ確保スルコトハ、蓋シ農村對策ノ根本デアルト信ズル者デアリマス(拍手)

即チ本法案ハ農家ニ最小限度ノ安全地帯ヲ與ヘ、以テ農村ノ安住ヲ確保セントスルモノデアリマス、詳細ハ委員會ニ於テ御説明申上ゲマスガ、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ賜ハラシコトヲ切望スル次第デゴザイマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ政府提出、農業保險法案委員ニ併セ付託サレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二十八、檢查計理士法案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者森田重次郎君

第二十八 檢查計理士法案(森田重次郎君外三名提出) 第一讀會

檢查計理士法案

檢查計理士法

第一條 檢查計理士ハ檢查計理士ノ稱號ヲ用ヒテ會計ニ關スル検査、鑑定又ハ證明ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ檢查計理士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 檢查計理士試験トシテ二年以上ノ實務修習ヲ爲シ且考試ヲ經タルコト

前項第二號ノ實務修習及考試ニ關スル事項ハ主務大臣ノヲ定ム

第三條 檢查計理士試験タルニハ成規ノ試驗ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ試験ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ檢查計理士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外本法辯護士法、辯護士法又ハ計理士法ニ依リ刑ニ處セラレタル者但シ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 懲戒處分ニ依リ免官若ハ免職セラレタル者、辯護士法ニ依リ除名セラレタル者又ハ本法、辯護士法若ハ計理士法ニ依リ業務ヲ禁止セラレタル者但シ免官、免職、除名又ハ業務禁止ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者ニシテ復權ヲ得サル者

第五條 檢查計理士タラムトスル者ハ検査計理士登録簿ニ登録ヲ受クルコトヲ要ス

第六條 檢查計理士ノ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 檢查計理士ハ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ス但シ帝國議會若ハ地方議會ノ議員ト爲リ又ハ公務所ヨリ特ニ任命セラレ若ハ囑託セラレタル職務ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

檢查計理士ハ商業其ノ他營利ヲ目的トスル業務ヲ營ミ若ハ之ヲ營ム者ノ使用人ト爲リ又ハ營利ヲ目的トスル法人ノ業務執行社員、取締役若ハ使用人ト爲ルコトヲ得ス但シ主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 前條ノ規定ハ實務修習中ノ檢查計理士試験ニ之ヲ準用ス

第九條 檢查計理士ハ左ニ掲クル事項ニ付第三者ニ對シテ證明ト爲ルヘキ業務ヲ行フコトヲ得ス

一 自己若ハ配偶者又ハ四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族カ業務執行者又ハ會計擔當者トシテ其ノ職務上關與シタル會計事項但シ姻族ニ付テハ婚姻ノ解消アリタルトキト雖モ亦同シ

二 前號ノ外著シキ利害關係ヲ有シ又ハ其ノ業務ヲ公正ニ行フニ支障アリト認メラルル會計事項

第十條 檢查計理士又ハ檢查計理士タリシ者ハ其ノ業務上知得シタル秘密ヲ保持スル權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ他ノ法令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 檢查計理士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第十二條 檢查計理士本法ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ檢查計理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

檢查計理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 檢查計理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 譴責

二 千圓以下ノ過料

三 一年以内檢查計理士ノ業務ヲ停止

四 檢查計理士ノ業務ヲ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セザルトキハ

主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス
非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前
項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス
第十四條 検査計理士又ハ検査計理士
リシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事
項ニ付知得シタル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊
用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千
圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十五條 検査計理士タル資格ヲ有セス
シテ検査計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ
六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ
處ス
第十六條 検査計理士タル資格ヲ有スル
モ其ノ登録ヲ受ケスシテ検査計理士ノ
業務ヲ行ヒタル者ハ八十圓以上二百圓以
下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百
八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用
ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六
號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セ
ラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ
刑ニ處セラレタル者ト看做ス
五年以上引續キ計理士法ニ依リ會計ニ關
スル検査、鑑定又ハ證明ノ業務ニ從事シ其
ノ業績ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附シテ出願
シ検査計理士試験委員ノ銓衡ヲ經タル者
ハ當分ノ内第二條第一項第二號及第三條
ノ規定ニ拘ラス検査計理士タルコトヲ得
御許可願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス
○森田重次郎君 只今上程致サレマシタ檢
査計理士法案提出ノ理由ヲ説明致シマス、
昭和二年計理士法實施後、既ニ十一年ノ星
霜ヲ閱シテ居ルノデアリマシテ、其間本法
ノ根本的缺陷カラ來リマスル計理士登録數

ノ躍進的增加ヲ見マシテ、計理士總數八千
ニ垂ント致シテ居ルノデアリマス、此空前
ノ異數ノ激増ニ依リマシテ、計理士界ハ玉
石混淆ノ状態ヲ呈シマシテ、其弊モ亦漸次
大ナラントスルニ至ッテ居ルノデアリマス、
斯ウ云フヤウナ傾向ニアリマシタノデ、計
理士法改正ノ聲ガ朝野ニ起リマシテ、第五
十六回帝國議會以來、數次改正建議案又ハ
改正法律案ノ提案ガアツタノデアリマスル
ガ、第六十五回帝國議會ニ於テ、検査計理
士法制定建議ガ採擇ヲ見ルニ至ッタ次第デ
アリマス、而シテ本制度ノ改正ニハ、現行
法ニ依ル有資格者及ビ有資格學校、竝ニ現
在登録致シテ居リマスル計理士整理其他ニ
關シマシテ、各方面ニ色々複雑ニシテ多岐
ニ互ル困難ナ事情ガ多ク存在シテ居ルノデ
アリマス、サウ云フヤウナコトデアリマシ
テ、其施行後十一年ニ及ンダ今日、部分的
ナル改正ヲ致シテ居リマシテハ、到底此缺
陷ヲ救済スルコトガ出來ナイノデアリマス、
ソコデドウ致シマシテモ、是ハ根本的ナル
改正ヲスルヨリ外ニ仕方ガナイノデ、今日
マダ此儘ニ致シテ居リマスルナラバ、徒ニ
他日ニ悔ヲ貽スヤウナコトニナルト思フノ
デアリマス、惟フニ産業日本ノ轉換期ニ伴
フ統制經濟ノ進展、竝ニ商法其他經濟法規
ノ根本的改正實施ニ關聯シ、本制度ノ改善
ニ俟ツベキモノ多ク益、アルト思フノデアリ
マス、仍テ吾々ハ會計ニ關スル検査、鑑定
及ビ證明ノ如キ、社會性、公共性ノ顯著ニ
シテ、重要ナル職務デアルト云フ所ニ鑑ミ
マシテ、世界的ナル水準ニ達スル此新ナル
法ヲ制定致シマシテ、有能適格ナル計理士
ニ向上ノ進路ヲ開キ、計理士界ノ分化發展
ヲ促進シ、時勢ノ推移ニ順應セシメタイト
思フノデアリマス、是ガ本案ヲ提出致シマ
シタ理由デアリマス、何卒速ニ御協賛アラ
ンコトヲ御願致シマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ中野治介君外一名提
出、計理士法中改正法律案委員ニ併セ付託
セラレンコトヲ望ミマス
○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御
異議アリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第
二十九、裁判所構成法中改正法律案ノ第一
讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許
シマス——提出者高橋義次君
第二十九 裁判所構成法中改正法律案
(高橋義次君外六名提出) 第一讀會
裁判所構成法中改正法律案
裁判所構成法中左ノ通改正ス
第十八條第三項中「試補」ヲ「豫備檢事豫
備判事」ニ改ム
第三十二條中「且豫備判事ハ如何ナル事
情アルモ二人以上其ノ部ニ列席スルコト
ヲ得ス」ヲ削ル
第三十六條第二號但書ヲ削ル
第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セララル
ニハ十年以上辯護士トシテ其ノ職務ニ
從事シタルコトヲ要ス
朝鮮辯護士、臺灣辯護士及關東州辯護
士ハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ辯護士ト
看做ス
判事又ハ檢事ニ任セラレタル者カ辯護
士ノ職務ニ從事シタル期間ハ他ノ法令
ノ適用ニ付テハ其ノ在官期間ニ通算ス
第五十八條 削除
第六十條 削除
第六十一條 削除
第六十二條 削除
第六十三條第一項ヲ削ル
第六十四條 判事又ハ檢事差支アリテ職
務ニ從事スルコト能ハサルトキハ司法
大臣ハ之ニ豫備判事又ハ豫備檢事ヲ代
理セシムルコトヲ得
第六十五條 削除

第六十六條 辯護士タルコトヲ得サル者
ハ判事又ハ檢事タルコトヲ得ス
第六十九條 削除
第七十條 削除
第七十一條 削除
第七十一條ノ二ヲ削ル
第七十二條 削除
第九十二條 削除
第一百二十二條第一項中「又ハ法律ニ從ヒ其
ノ職務ヲ行フ試補」ヲ削リ同條第三項中
「又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補」ヲ削ル
第一百二十一條第一項但書中「及試補」ヲ削
ル
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ司法官試補タル者ハ從
前ノ規定ニ依リ判事及檢事ニ任セララル
コトヲ得
本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事タル者竝
前項ノ規定ニ依リ任セラレタル判事及檢
事ニハ仍從前ノ規定ヲ適用ス
○高橋義次君 自席ヨリ發言ノ御許可願ヒ
マス
○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス
○高橋義次君 司法部機構ニ對スル根本的
ナ改革ノ要望ハ、今ヤ澎湃タル舉世一致ノ
大キナ叫ビアルトモ申サナレバナリマセ
ヌ、國家ノ治亂興廢ハ、裁判ガ能ク國民ノ
信頼ヲ繋グカ否カニ懸ツテ存スルコトハ、蓋
シ古クシテ而モ新ナル格言デアリマス、裁
判ガ常ニ複雜ナ事案ヲ糾シ、錯綜セル人
情ニ合シ、當事者ヲ信服セシメ、延イテハ
一世ヲ指導スル爲ニハ、一ニ裁判官ニ人其
當ヲ得ナレバナリマセヌ、裁判官ハ單ニ
法律學ニ通曉セルノ一能ヲ以テノミデハ、
未ダ其適材ヲ斷ズル譯ニハ行キマセヌ、活
社會ノ實情ニ精通シ、人情ノ機微ヲ知り、所
謂世ノ表裏甘苦ノ實體ヲ辨ヘタル練達堪能
ノ圓熟セル人物タルベキコト、蓋シ絕對ノ
必要條件ナリト申サナレバナリマセヌ、
近時神聖ナルベキ裁判ノ事、動モスレバ

第一讀會 裁判所構成法中改正法律案 第一讀會
第六十八條 削除
第六十九條 削除
第七十條 削除
第七十一條 削除
第七十一條ノ二ヲ削ル
第七十二條 削除
第九十二條 削除
第一百二十二條第一項中「又ハ法律ニ從ヒ其
ノ職務ヲ行フ試補」ヲ削リ同條第三項中
「又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補」ヲ削ル
第一百二十一條第一項但書中「及試補」ヲ削
ル
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ司法官試補タル者ハ從
前ノ規定ニ依リ判事及檢事ニ任セララル
コトヲ得
本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事タル者竝
前項ノ規定ニ依リ任セラレタル判事及檢
事ニハ仍從前ノ規定ヲ適用ス
○高橋義次君 自席ヨリ發言ノ御許可願ヒ
マス
○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス
○高橋義次君 司法部機構ニ對スル根本的
ナ改革ノ要望ハ、今ヤ澎湃タル舉世一致ノ
大キナ叫ビアルトモ申サナレバナリマセ
ヌ、國家ノ治亂興廢ハ、裁判ガ能ク國民ノ
信頼ヲ繋グカ否カニ懸ツテ存スルコトハ、蓋
シ古クシテ而モ新ナル格言デアリマス、裁
判ガ常ニ複雜ナ事案ヲ糾シ、錯綜セル人
情ニ合シ、當事者ヲ信服セシメ、延イテハ
一世ヲ指導スル爲ニハ、一ニ裁判官ニ人其
當ヲ得ナレバナリマセヌ、裁判官ハ單ニ
法律學ニ通曉セルノ一能ヲ以テノミデハ、
未ダ其適材ヲ斷ズル譯ニハ行キマセヌ、活
社會ノ實情ニ精通シ、人情ノ機微ヲ知り、所
謂世ノ表裏甘苦ノ實體ヲ辨ヘタル練達堪能
ノ圓熟セル人物タルベキコト、蓋シ絕對ノ
必要條件ナリト申サナレバナリマセヌ、
近時神聖ナルベキ裁判ノ事、動モスレバ

第一讀會 裁判所構成法中改正法律案 第一讀會
第六十八條 削除
第六十九條 削除
第七十條 削除
第七十一條 削除
第七十一條ノ二ヲ削ル
第七十二條 削除
第九十二條 削除
第一百二十二條第一項中「又ハ法律ニ從ヒ其
ノ職務ヲ行フ試補」ヲ削リ同條第三項中
「又ハ其ノ命ヲ受ケタル試補」ヲ削ル
第一百二十一條第一項但書中「及試補」ヲ削
ル
附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ際現ニ司法官試補タル者ハ從
前ノ規定ニ依リ判事及檢事ニ任セララル
コトヲ得
本法施行ノ際現ニ判事又ハ檢事タル者竝
前項ノ規定ニ依リ任セラレタル判事及檢
事ニハ仍從前ノ規定ヲ適用ス
○高橋義次君 自席ヨリ發言ノ御許可願ヒ
マス
○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス
○高橋義次君 司法部機構ニ對スル根本的
ナ改革ノ要望ハ、今ヤ澎湃タル舉世一致ノ
大キナ叫ビアルトモ申サナレバナリマセ
ヌ、國家ノ治亂興廢ハ、裁判ガ能ク國民ノ
信頼ヲ繋グカ否カニ懸ツテ存スルコトハ、蓋
シ古クシテ而モ新ナル格言デアリマス、裁
判ガ常ニ複雜ナ事案ヲ糾シ、錯綜セル人
情ニ合シ、當事者ヲ信服セシメ、延イテハ
一世ヲ指導スル爲ニハ、一ニ裁判官ニ人其
當ヲ得ナレバナリマセヌ、裁判官ハ單ニ
法律學ニ通曉セルノ一能ヲ以テノミデハ、
未ダ其適材ヲ斷ズル譯ニハ行キマセヌ、活
社會ノ實情ニ精通シ、人情ノ機微ヲ知り、所
謂世ノ表裏甘苦ノ實體ヲ辨ヘタル練達堪能
ノ圓熟セル人物タルベキコト、蓋シ絕對ノ
必要條件ナリト申サナレバナリマセヌ、
近時神聖ナルベキ裁判ノ事、動モスレバ

往々ニシテ或ハ公正妥當ヲ缺カシ、或ハ敏速ノ運行ノ機宜ヲ失シ、且ツ到ル處ニ人權蹂躪ノ聲アルヲ聞キ、果テハ司法部ニ對スル怨嗟呪咀ノ聲サヘモ野ニ滿チツ、アルノ實情ヲ目撃シ、邦家ノ爲メ眞ニ痛嘆ニ堪ヘザルモノガアリマス、思フニ司法ハ護國ノ最後ノ鍵デアラネバナリマセヌ、光榮アル我等ノ帝國ニ百ノ戰捷、千ノ善政又茲ニアルモ、吾等ノ同胞中無辜ノ冤罪ニ泣ク憐ムベキ唯一人ノ存スルモノアラバ、爲ニ其榮光ハ舉ゲテ失ハルベキデアリマス(拍手)其繁榮ハ斷ジテ根絶セネバナリマセヌ、制度ノ罪固ヨリ是レアリ、機構ノ不備亦然リ、然レドモ其繁榮ノ中核トシテ指摘スベキモノ、實ニ裁判官ニ其人ヲ得ルト否トノ一點ニ存スト謂ハネバナリマセヌ、然ルニ現行司法制度ニ依レバ、僅ニ三箇年ノ法律課程ヲ修了シ、而モ其輪漸クニシテ二十有四、五歳、次イデ司法官試補トシテ机上ノ實務修習ニアルコト一年有半ノミ、斯クシテ身ハ直チニ司法官ト高官ニ任ゼラル、ノデアリマス、社會人トシテノ教養ノ餘地ハ一日モナイ、世ノ經驗ハ寸毫モナイ、如何ニシテカ複雑極マリナキ社會ノ經驗ノ豐カナ人達ノ間ニ處シテ、能ク割切妥當ナ審理ヲ裁判ガ期シテ行ハレ得ルデアリマセウカ、裁判ガ其具體性ヲ離レテ、概念的ナモノニナリ了ルコト洵ニ故ナキニアラスト申サネバナリマセヌ、思フニ此制度ハ遠ク明治二十三年ノ創始ニ係リ、爾來星霜茲ニ五十年、而モ世ハ清新ノ氣ニ漲リ、革新ノ叫ビ熾ンナルノ秋ニ際シ、獨リ司法部ノミガ傳統ト舊套トニ徒ラナル膠著ヲ爲スベキデアリマセヌ、他面辯護士ハ司法科試驗ニ合格シ、辯護士試補トシテ一年半ノ實務修習ヲ了ヘ、一定ノ考試ヲ經テ其資格ヲ得、活社會ニ處シテ有ニル階級、種類ノ人物ニ接シ、其實情ヲ體得シ、法廷ニ起テ裁判ニ關與スル者デ、眞ニ裁判官トシテノ素質ヲ具備セルモノデアリマス、茲ニ裁判官ハ、相當年限辯護士ノ

職務ニ在リシ優秀ナル者ノミヨリ採用スルノ制度ハ、司法官養成ノ制度トシテ眞ニ理想ナリト申サケレバナリマセヌ、所謂法曹一元制度ト稱シ、其實現ハ早クヨリ在野法曹界ノ輿論トナリ、昭和十一年十一月一日全國辯護士大會ニ於テハ、滿場一致ヲ以テ是ガ決定ヲ見テ居ルノデアリマス、幸ニ各位ノ御協賛ニ依リ速ニ本法案ノ實現ヲ見ルニ至リマスルナラバ、法治立憲國ノ體面ヲ確立シ、民權確保ノ實績ヲ全ウスルニ至ルベキコト、蓋シ寸毫ノ疑ヲ容レザル所デアリマス、偏ニ各位ノ御協賛ヲ仰グ次第デアリマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ一松定吉君外六名提出、刑法中改正法律案外四件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ勸議ノ如ク決シマシタ

第三十、愛國航空獎券發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨聲明ヲ許シマス

第三十 愛國航空獎券發行ニ關スル法律案(安藤孝三君外一名提出)

第一讀會

愛國航空獎券發行ニ關スル法律案

第一條 航空事業ノ振興及航空思想ノ普及ヲ圖ルコトヲ目的トスル法人ニシテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リ愛國航空獎券ヲ發行スルコトヲ得

前項法人ノ存立期間ハ成立ノ日ヨリ五年トス但シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ延長スルコトヲ得

第二條 愛國航空獎券ハ富籤式ニ依リ券面金額三圓トシ毎年四回券面金額ヲ以テ發行セラレルモノトス

第三條 第一條ノ法人ハ前條ニ依リ發行

シタル愛國航空獎券ノ全部ニ付抽籤ヲ以テ當籤獎券ヲ決定シ之ニ一等金五千圓以下ノ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第四條 愛國航空獎券ノ發行總數、發行ノ時期及形式、抽籤ノ時期及方法、當籤數、當籤金額及其ノ等級、發行費用額ノ決定等ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 第一條ノ法人ハ當籤獎券ト引換ニ當籤金ヲ支拂フヘシ

第六條 抽籤ノ日ヨリ二年ヲ經過スルトキハ當籤獎券ノ所有者ハ當籤金ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第七條 愛國航空獎券ヲ發行セムトスルトキハ少クとも發行日ノ二週間前ニ發行總數、發行ノ日時、抽籤ノ日時、當籤數並當籤金額及其ノ等級ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ公表スヘシ

抽籤終リタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ結果ヲ公表スヘシ

第八條 第一條ノ法人ノ理事及監事ハ愛國航空獎券ヲ所有スルコトヲ得

第九條 第一條ノ法人愛國航空獎券ヲ發行シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ收得金額ノ六十分ノ三十七以內ニ相當スル金額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ納付スヘシ

前項ノ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ其ノ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第十條 第一條ノ法人ハ愛國航空獎券ノ發行ニ依リ收得金額中前條ノ納付金、當籤金、獎券發行費及事業經營上必要ナル其ノ他ノ支出ニ充テタル殘額ヲ準備資金トシテ管理スヘシ

前項ノ準備資金カ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ最高額ヲ超過スルトキハ政府ハ其ノ超過額ヲ政府又ハ政府ノ指定スル者ニ納付セシムルコトヲ得

第十一條 前二條ノ納付金ハ之ヲ航空事業ノ振興ニ必要ナル經費ニ充ツルコト

ヲ要ス

第十二條 第一條ノ法人ハ豫算ヲ定メテ主務大臣ノ認可ヲ受ケ且毎事業年度終了後三月內ニ主務大臣ニ決算報告ヲ爲スヘシ

第十三條 第一條ノ法人ノ理事及監事ノ就任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條ノ法人ノ定款其ノ他ノ規則ヲ改正ヲ命シ又ハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ第一條ノ法人又ハ其ノ役員ノ行為カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ愛國航空獎券發行ノ停止若ハ制限又ハ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役若ハ五千圓以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 第一條ノ法人ニ非スシテ類似ノ獎券ヲ發賣シタル者

二 前條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ獎券ヲ發行シタル者

第十七條 第一條ノ法人ノ役員カ其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ金額ヲ追徵ス

第十八條 第一條ノ法人ノ役員ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減免スルコトヲ得

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第一條ノ法人ノ役員カ抽籤ニ關シ不正ノ行為アリタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因リテ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得シメタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處シ其ノ利益ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第二十一條 第一條ノ法人ノ役員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサル者
二 第七條及第十條第一項ノ規定ニ違反シタル者

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○安藤孝三君 簡單デゴザイマスカラ、自席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○安藤孝三君 本法案ハ、世界列強ニ落伍セル我が民間航空事業ヲ、國防上速ニ振興センガ爲メ、目下我國ノ如キ財政困難ナル事情ニアル場合ニハ之ニ必要ナル資金全部ヲ國庫ノ支出ニ仰グコトハ、不可能デゴザイマスニ依ッテ、茲ニ表題ノ如キ航空獎券ヲ發行致シマシテ、所要ノ資金ヲ捻出セントスルモノデアリマス、詳シイコトハ委員會ニ於テ御説明致シマスガ、競馬法ダケガ許可ニナッテ居リマシテ、航空獎券法ガ許可ニナラナイト云フノハ、洵ニ遺憾デアリマス、日支事變ノ實情ニ鑑ミマシテモ、馬ハ泥濘膝ヲ沒シテ、自動車ナドノ動ケナイヤウナ所マデ行ッテ、大變活躍シテ居リマス、將又飛行機モ支那ノ彼ノ地デ働イテ居リマスコトハ、私ガ申上グル迄モアリマセヌ、即チ是ハ車ノ兩輪ノヤウナモノデアルト私ハ思ヒマスルカラ、競馬法同様皆サシノ御協賛

ヲ經テ、速ニ御通過アラシコトヲ御願スル次第デアリマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ政府提出、航空機製造事業法案委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ 日程第三十一及第三十二ハ便宜上、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、日程第三十一、辯護士法中改正法律案、日程第三十二、昭和八年法律第五十四號中改正法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス 提出者清瀨一郎君

第三十一 辯護士法中改正法律案(清瀨一郎君外三名提出) 第一讀會

第三十二 昭和八年法律第五十四號中改正法律案(清瀨一郎君外五名提出) 第一讀會

辯護士法中改正法律案 辯護士法中左ノ通改正ス

第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

四 高等試験ノ司法科筆記試験必須科目ノ範圍内ニ於テ法律學ヲ修メタル

法學博士ノ學位ヲ有スル者

第十八條 辯護士ハ所屬辯護士會ノ地域内ニ本事務所ヲ設ケベシ

辯護士ハ如何ナル名義ヲ以テスルモ本事務所以外二個以上ノ出張所ヲ設ケルコトヲ得ズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和八年法律第五十四號中改正法律案 昭和八年法律第五十四號中左ノ通改正ス

第一條但書中「爲ス場合」ノ下ニ「又ハ辯護士事務所ノ事務員ノ爲ス場合」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○清瀨一郎君 此席ヨリ御許ヲ願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○清瀨一郎君 只今御上程ニナリマシタ辯護士法中改正法律案ハ、院内ノ政友、民政及ビ私共ノ團體ノ法曹有志カラ、提出サレタモノデアリマスガ、此趣旨ハ二ツゴザイマシテ第一ハ辯護士ニハ素質優良ナル者ヲ取入レルト云フ意味ヲ以テマシテ、從來行政裁判所ノ評定官又ハ陸海軍ノ法務官等ヲ、無試験デ採用致シテ居リマシタガ、司法科試験ノ科目ニ屬スル法律學ヲ修メタル法學博士ヲ、辯護士ニ採用スルト云フコトデアリマス、其二ハ、只今デハ辯護士ハ所屬辯護士會ノ地域内ニハ、一箇所ノ本事務所以外ニハ、如何ナル名義ヲ以テスルモ事務所ヲ設置スルコトハ出來ヌヤウニナッテ居リマスガ、ソレデハ餘リニモ窮屈デアリマスカラ、更ニ一箇所ノ出張所ヲ設ケ得ルヤウニスル必要ガアルト思フデアリマス、無論茲ニ私ガ申上グル出張所ナルモノハ、名ヲ出張所ニ藉リテ非辯護士ガ事務ヲ執ル所デハナイノデアリマシテ、眞實ナル事務所ノ意味デアリマス、是ハ二ツ設ケテモ宜シイコトトスル案デアリマス、何卒御贊成アラシコトヲ切ニ御願致シマス

昭和八年法律第五十四號中改正法律案ノ趣旨ヲ説明致シマス、昭和八年法律第五十四號ト云フノハ、所謂三百取締法デアリマシテ、現行法ハ辯護士ニアラザレバ、訴訟事務ニ關係スルコトガ出來ナイト云フコトニナッテ居リマスカラ、其精神ハ明カデアリマスケレドモ、辯護士事務員ハ訴訟ノ代理ハ出來ナイ、辯護士ニ代ッテ裁判所ノ登記所ニ出頭モ出來ナイト云フヤウニモ讀メルノデアリマスガ、辯護士會ガ規則ニ依ッテ認可致シマシタ正シイ辯護士事務員ハ、ヤハリ相當ノ範圍内ニ於テ、訴訟事務ニ關與シ得ルヤウニスルコトガ至當デアルト思フノデアリマス、何卒御贊成ヲ願ヒマス(拍手)

○服部崎市君 日程第三十一及第三十二ノ兩案ハ、一括シテ中野治介君外一名提出、計理士法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ 日程第三十三及第三十四ハ同種ノ議案デアリマスカラ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十三、軍用候補馬鍛鍊法案、第三十四、軍用候補馬鍛鍊法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス 提出者土田莊助君

第三十三 軍用候補馬鍛鍊法案(土田莊助君外三名提出) 第一讀會

第三十四 軍用候補馬鍛鍊法案(大石倫治君外三名提出) 第一讀會

軍用候補馬鍛鍊法案 軍用候補馬鍛鍊法案

第一條 本法ニ於テ軍用候補馬トハ馬ノ體型、能力カ軍用ニ適シ得ヘキ馬ヲ謂フ前項軍用ニ適スル馬ノ資格標準ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

アリマスガ、辯護士會ガ規則ニ依ッテ認可致シマシタ正シイ辯護士事務員ハ、ヤハリ相當ノ範圍内ニ於テ、訴訟事務ニ關與シ得ルヤウニスルコトガ至當デアルト思フノデアリマス、何卒御贊成ヲ願ヒマス(拍手)

○服部崎市君 日程第三十一及第三十二ノ兩案ハ、一括シテ中野治介君外一名提出、計理士法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十三、軍用候補馬鍛鍊法案、第三十四、軍用候補馬鍛鍊法案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス、順次提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス 提出者土田莊助君

第三十三 軍用候補馬鍛鍊法案(土田莊助君外三名提出) 第一讀會

第三十四 軍用候補馬鍛鍊法案(大石倫治君外三名提出) 第一讀會

軍用候補馬鍛鍊法案 軍用候補馬鍛鍊法案

第一條 本法ニ於テ軍用候補馬トハ馬ノ體型、能力カ軍用ニ適シ得ヘキ馬ヲ謂フ前項軍用ニ適スル馬ノ資格標準ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

國有ノ馬、競馬法ニ依ル競馬ニ出走スル馬及種牡馬ニ付テハ本法ヲ適用セス

第二條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ軍用候補馬ノ資格判定ヲ爲ス爲道府

縣毎ニ馬ノ検査ヲ行フモノトス但シ特
別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ニ
委任シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 前條ノ検査ニ合格シタル馬ニハ
軀肢ノ一部ニ烙印シテ表示シ且命令ノ
定ムル所ニ依リ馬籍簿ニ記載スルモノ
トス

第四條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ市町村ヲ區域トシ軍用候補馬ノ調教
鍛鍊ヲ行フモノトス

第五條 馬ヲ主トスル畜産組合聯合會又
ハ之ニ準スル畜産組合ハ調教鍛鍊ヲ加
ヘタル軍用候補馬ノ能力ヲ檢定シ且馬
事思想ヲ普及スル爲主務大臣ノ許可ヲ得
テ其ノ府縣内一箇所ニ限り優勝馬投票
券ヲ發賣スル競馬ヲ開催スルコトヲ得

第六條 競馬ノ開催ハ競馬場毎ニ二年二回
ヲ超ユルコトヲ得但シ命令ノ定ムル
場合ニ限り主務大臣ノ許可ヲ得テ年三
回開催スルコトヲ得

第七條 競馬ニ出場スル馬ハ其ノ府縣(北
海道ニ在リテハ各區)内ニ於テ三箇月
以上飼養シタル軍用候補馬タルコトヲ
要ス但シ出場馬ノ三分ノ一ハ此ノ限ニ
在ラス

競馬開催者ハ當該競馬ニ於テ毎季其ノ
府縣(北海道ニ在リテハ區)内ニ飼養セ
ラルル新馬十五頭以上ノ出馬登録ヲ爲
スコトヲ要ス

前項ノ新馬トハ競馬法又ハ本法ニ依ル
競馬ニ出走登録シタルコトナキ馬ヲ謂
フ

第八條 競馬開催者ハ入場者ニ對シ券面
金額一圓以上五圓以下ノ優勝馬投票券
ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

優勝馬投票券ノ發賣ニ付テハ競馬法第
四條第二項第三項及第五條ノ規定ヲ準
用ス

第九條 投票の中者ニ對シテハ競馬法第
六條第一項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第十條 競馬開催者ハ優勝馬投票券ノ賣
得金ノ額ニ對シ百分ノ二十ヲ超エサル
金額ヲ賣得歩合金トシテ收得スルコト
ヲ得

優勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令
ノ定ムル割合ヲ以テ賣得金ノ額ノ百分
ノ四以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付
スヘシ

前項ノ納付金ニ相當スル金額ハ馬ノ改
良増殖、利用増進及馬事思想ノ普及ノ
爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

前二項ノ規定ノ適用及課税ニ付テハ競
馬法第八條第三項第五項第六項及第十
六條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 本法競馬ニ關スル開催執務委
員、調教師、騎手ノ養成、馬名登録其
ノ他競馬ノ統制改善ニ必要ナル事項ハ
命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 主務大臣ハ公益上馬ノ改良増
殖及馬事思想普及上必要アリト認ムル
トキハ競馬開催者ニ對シ必要ナル施設、
競馬場ノ設備ノ變更、競馬施行ノ方法
其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ發シ又ハ處
分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ競馬開催者又ハ其
ノ役員若ハ開催執務委員ノ行爲カ法令
若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又
ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認ム
ルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第五條ノ許可ヲ取消

二 競馬ノ停止

三 優勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限

四 開催執務委員ノ職務執行ノ停止

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
一年以下ノ懲役若ハ二千萬圓以下ノ罰金
ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 第五條ノ許可ヲ受ケシテ優勝馬
投票券ヲ發賣スル競馬ヲ開催シタル
者

二 第十三條ノ停止又ハ制限ニ違反シ
テ優勝馬投票券ヲ發賣シタル者

三 本法ニ依ル競馬ノ競争ニ關シ業ト
シテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事
ヲ爲シタル者

四 開催執務委員ノ職務ヲ執行スルニ當
リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者

第十五條 騎手ノ職務ヲ執行スルニ當リ
之ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ不正
ナル競争ノ施行ヲ強要シ若ハ其ノ誘惑
ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千
圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ違反シ優勝馬投票
券ヲ發賣シタル者又ハ購買シタル者

二 優勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケ
タル者

三 第九條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シ
テ拂戻金ヲ交付シタル者又ハ之ヲ受
ケタル者

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍用候補馬鍛鍊法案
軍用候補馬鍛鍊法

第一條 本法ニ於テ軍用候補馬トハ馬ノ
體型、能力カ軍用ニ適シ得ヘキ馬ヲ謂
フ

前項軍用ニ適スル馬ノ資格標準ハ命令
ヲ以テ之ヲ定ム

國有ノ馬、競馬法ニ依ル競馬ニ出走ス
ル馬及種牡馬ニ付テハ本法ヲ適用セス

第二條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ軍用候補馬ノ資格判定ヲ爲ス爲道府
縣毎ニ馬ノ検査ヲ行フモノトス但シ特
別ノ事情アル場合ニ於テハ地方長官ニ
委任シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三條 前條ノ検査ニ合格シタル馬ニハ
軀肢ノ一部ニ烙印シテ表示シ且命令ノ
定ムル所ニ依リ馬籍簿ニ記載スルモノ
トス

第四條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依
リ市町村ヲ區域トシ軍用候補馬ノ調教
鍛鍊ヲ行フモノトス

第五條 馬ヲ主トスル畜産組合聯合會又
ハ之ニ準スル畜産組合ハ調教鍛鍊ヲ加
ヘタル軍用候補馬ノ能力ヲ檢定シ且馬
事思想ヲ普及スル爲主務大臣ノ許可ヲ得
テ其ノ府縣内一箇所ニ限り優勝馬投
票券ヲ發賣スル競馬ヲ開催スルコトヲ得

第六條 競馬ノ開催ハ競馬場毎ニ二年二回
ヲ超ユルコトヲ得但シ命令ノ定ムル
場合ニ限り主務大臣ノ許可ヲ得テ年三
回開催スルコトヲ得

競馬開催ノ期間ハ毎回六日以内トス

第七條 競馬ニ出場スル馬ハ其ノ府縣(北
海道ニ在リテハ各區)内ニ於テ三箇月
以上飼養シタル軍用候補馬タルコトヲ
要ス但シ出場馬ノ三分ノ一ハ此ノ限ニ
在ラス

競馬開催者ハ當該競馬ニ於テ毎季其ノ
府縣(北海道ニ在リテハ區)内ニ飼養セ
ラルル新馬十五頭以上ノ出馬登録ヲ爲
スコトヲ要ス

前項ノ新馬トハ競馬法又ハ本法ニ依ル
競馬ニ出走登録シタルコトナキ馬ヲ謂
フ

第八條 競馬開催者ハ入場者ニ對シ券面
金額一圓以上五圓以下ノ優勝馬投票券
ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

優勝馬投票券ノ發賣ニ付テハ競馬法第
四條第二項第三項及第五條ノ規定ヲ準
用ス

第九條 投票の中者ニ對シテハ競馬法第
六條第一項及第三項ノ規定ヲ準用ス

第十條 競馬開催者ハ優勝馬投票券ノ賣得金ノ額ニ對シ百分ノ二十ヲ超エサル金額ヲ賣得歩合金トシテ收得スルコトヲ得

優勝馬投票券ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル割合ヲ以テ賣得金ノ額ノ百分ノ四以內ニ相當スル金額ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ納付金ニ相當スル金額ハ馬ノ改良増殖、利用増進及馬事思想ノ普及ノ爲必要ナル經費ニ充ツルコトヲ要ス

前二項ノ規定ノ適用及課税ニ付テハ競馬法第八條第三項第五項第六項及第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 本法競馬ニ關スル開催執務委員、調教師、騎手ノ養成、馬名登録其ノ他競馬ノ統制改善ニ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 主務大臣ハ公益上馬ノ改良増殖及馬事思想普及上必要アリト認ムルトキハ競馬開催者ニ對シ必要ナル施設、競馬場ノ設備ノ變更、競馬施行ノ方法其ノ他ニ付必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ競馬開催者又ハ其ノ役員若ハ開催執務委員ノ行爲が法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第五條ノ許可ヲ取消
二 競馬ノ停止
三 優勝馬投票券發賣ノ停止又ハ制限
四 開催執務委員ノ職務執行ノ停止

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役若ハ二千萬以下ノ罰金ニ處シ又ハ其ノ刑ヲ併科ス

一 第五條ノ許可ヲ受ケシテ優勝馬投票券ヲ發賣スル競馬ヲ開催シタル者
二 第十三條ノ停止又ハ制限ニ違反シテ優勝馬投票券ヲ發賣シタル者

三 本法ニ依ル競馬ノ競走ニ關シ業トシテ多數ノ者ニ對シ財物ヲ以テ賭事ヲ爲シタル者

四 開催執務委員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者

第十五條 騎手ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ不正ナル競走ノ施行ヲ強要シ若ハ其ノ誘惑ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ違反シ優勝馬投票券ヲ發賣シタル者又ハ購買シタル者
二 優勝馬投票券ヲ讓渡シ又ハ讓受ケタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シテ拂戻金ヲ交付シタル者又ハ之ヲ受ケタル者

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○土田莊助君 自席ヨリ辯明ノ御許可ヲ願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○土田莊助君 現下ノ情勢ニ於キマシテ軍用候補馬ノ鍛鍊ヲ致スト云フコトハ、ドナタモ異存ノナイコトト拜察ヲ致ス次第デアリマス、サウ云フ理由カラ致シマシテ、提案ノ理由ヲ簡單ニ御説明致シタイト思ヒマス、先般事變以來勇猛果敢ナル將兵ニ屬從致シ南船北馬、戰果ヲ獲得シ對シマシテ默々トシテ軍馬ハ大ナル貢獻ヲ致シタノデアリマス、固ヨリ戰爭ニ際シマシテハ、昔ヨリ兵馬ノ大權ト云フコトヲ申サレテ居ル次第デアリマス、現時海ニ、陸ニ、空ニ幾多兵器ノ機械化ガ充實サレテ居ルノデアリマス、其戰闘力ノ擴大ニ伴ヒマシテ、其戰闘資材ノ供給上、馬ハ尙ホ一層戰闘ニ於テ、其重要性ヲ持ッテ來テ居ルノデアリ

マス、所謂戰爭ニ際シマシテハ、兵馬ノ大權ノ確立ト云フコトガ、最も重要ナ問題ト相成テ居ルノデアリマス、サウ云フ理由カラ致シマシテ、第七十三議會ニ於キマシテハ、軍馬鍛鍊ニ對シマシテ政府ガ約二百萬圓ノ鍛鍊費用ニ付テ、提案ニナッテ居ルノデアリマス、併ナガラ此二百萬圓ノ大金ヲ以チマシテ鍛鍊致シマシテモ、我が皇軍ノ要望スル六十萬頭ノ馬匹ノ三分ノ一、二十萬頭ノ馬ノ訓練ヲ致スニ際シマシテモ、僅カ一月ニ八十何錢シカ其經費トシテ、馬ノ飼育者ニ交付サレヌヤウナ状態ニアルノデアリマス、二百萬圓ノ金ガアリマシテ、約三分ノ一、二十萬頭ノ馬ノ訓練ニ對シマシテモ、一月ニ八十何錢ノ經費シカ交付サレナイ次第デアリマス、是ハ勿論財政ノ上ニ於テ餘儀ナキコトト考ヘルモノデアリマス、仍テ私共ハ單ニ經濟的ニ馬ノ訓練ヲ致スト云フコトヨリモ、寧ロ此非常時ニ際シマシテ、物心兩方面カラ致シマシテ、馬ノ鍛鍊ニ精神のニ競技スルノデアリガ、之ニ對シマシテモ國民ガ馬ノ鍛鍊ニ趣味ヲ持チ、一ツノ鍛鍊ニ對シマシテモ、競技ト云フ方法ヲ執ラナケレバナラヌト思フノデアリマス、此競技ハ恰モ小學校ノ運動會、或ハ聯合運動會、或ハ小學校ノ全縣ノ運動會ガ開催サレマシテ、日本ノ國民ノ體位ガ向上サレルヤウニ、私共モ軍馬ノ鍛鍊ヲ一ツノ競技ト致シテ、又其競技ニ對シマシテ一ツノ制度ヲ、茲ニ確立致シタイト思フノデアリマス、其制度ノ確立ニ伴ヒマシテ、其結果ト致シマシテ地方競馬ガ相當整備ヲ致シ、明朗デアリマスル競技ノ上ニ、軍馬資源ノ確保ト、其性能ノ愈、向上シ來ルト云フコトヲ、私共ハ確信シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ意味合カラ致シマシテ、御審議ノ上滿場ノ御贊成アラント希望致ス次第デアリマス(拍手)

○副議長(金光庸夫君) 提出者大石倫治君

○大石倫治君 簡單デアリマスカラ、自席

カラ發言ヲ御許願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○大石倫治君 只今議題ニナッテ居リマスル軍用候補馬鍛鍊法案ニ付キマシテ、只今土田議員ヨリ御述ニナリマシタル理由ハ、其主ナルモノデアリマス、御承知ノ如ク、今回ノ事變ニ於キマシテ軍用ニ供セラレマシタル馬ノ鍛鍊ガ全キヲ得マセヌ爲ニ、少ナカラザル不利不便ヲ被ツコトハ明瞭デアリマス、故ニ先ツ一面ニ於キマシテハ、地方軍用候補馬鍛鍊ヲ常ニ致シマシテ、平戰兩用ニ備ヘタイト云フ趣旨デアリマス、又一面ニ於キマシテハ現行ノ地方競馬ノ弊害ヲ除却シ、馬事思想ノ普及、馬ノ改良増殖ニ資シタイト云フ趣旨ヲ以テ、提案致シタノデゴザイマスルカラ、何卒滿堂ノ諸君ノ御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス(拍手)

○服部崎市君 日程第三十三及第三十四ノ兩案ハ、一括シテ政府提出、兵役ノ義務ナカリシ者等ニシテ支那事變ニ於テ陸軍部隊ニ編入セラレタルモノノ身分取扱ニ關スル法律案委員ニ、併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十五、重要物產同業組合法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス——提出者世耕弘一君

第三十五 重要物產同業組合法中改正法律案(原玉重君外十三名提出)

第一讀會

重要物產同業組合法中改正法律案

重要物產同業組合法中左ノ通改正ス

第四條 同業組合設置ノ地區內ニ於テ營業所ヲ設ケ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者

第一讀會

重要物產同業組合法中改正法律案

重要物產同業組合法中左ノ通改正ス

第四條 同業組合設置ノ地區內ニ於テ營業所ヲ設ケ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者

第一讀會

ハ組合ノ通知ニ依リ組合員トナルモノトス

組合員其ノ業ヲ營マサルトキハ組合員タル資格ヲ失フ

同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ營業所ヲ設ケサル者ト雖當該組合及組合聯合會ノ統制ニ服スヘキモノトス

第十條ノ五 行政官廳當該商工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲テ必要アリト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ニ對シ組合員ノ營業ノ統制ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十條ノ六 行政官廳當該商工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲テ必要アリト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ニ諮リ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制ニ從フヘキコトヲ命令スルコトヲ得

第十條ノ七 行政官廳當該商工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ重要ナル統制事業ヲ行フ同業組合ノ設立ヲ命令スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命セラレタル行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條ノ八 第十條ノ五及第十條ノ七ノ規定ニ依リ命令アリタル場合特ニ必要アリト認ムルトキハ地區内ニ於テ當該商工業ヲ營ムトスル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケシムヘシ

第十一條ノ二 同業組合及同業組合聯合會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アルトキハ同業組合組長又ハ同業組合聯合會組長ノ請求ニ因リ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ同業組合又ハ同業組合聯合會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

市町村前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ニ著手セス又ハ九十日以内ニ之ヲ了了セサルトキハ同業組合組長又ハ同業組合聯合會組長ハ地方長官ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第一百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ分賦又ハ過怠金ノ徵收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

○世耕弘一君 簡單デアリマスカラ、自席カラ發言ヲ御許願ヒマス

○副議長(金光庸夫君) 許可致シマス

○世耕弘一君 提案ノ理由ヲ簡單ニ説明致シマス、重要物產同業組合ハ公益團體ト致シマシテ、古イ歴史ヲ有シ、我が産業界ニ大ナル功績ヲ舉ゲテ來タノデアリマス、然ルニ近時經濟界ノ發達ニ伴ヒ、該同業組合モ亦一層強化發展ノ必要ニ迫ラレテ居ルノデアリマス、故ニ是ガ業者ノ製品ノ検査及ビ原料其他ノ配給並ニ販賣ノ統合等ニ付キ、特ニ時局ニ對應スベキ各種重要ナル組合ノ事業ヲ強化經營、以テ國民經濟ノ健全ナル發達ニ、更ニ寄與セントスルモノデアリマス、又同組合ノ機能ヲ十分發揮シ、其使命ヲ完カラシメンニハ、自ラ組合ノ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトガ緊要デアリマス、仍テ農會及ビ商工會議所ト同様、同組合ニ對シテモ經費ノ強制徵收權ヲ付與スルノ要ガアルノデアリマス、即チ以上ノ目的遂行上、從來ノ組合法デハ不便ノ點ガ多イノデ

アリマス、以上簡單デアリマスガ、重要物產同業組合法中改正法律案ノ趣旨辯明ニ充テマス、詳細ハ委員會ニ於テ述べルコトニ致シマス、何卒速ニ御審議、御賛成アラントヲ御願致シマス(拍手)

○服部崎市君 本案ハ政府提出、昭和十二年法律第九十二號中改正法律案委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十六、狩獵法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス――提出者鈴木正吾君

第三十六 狩獵法中改正法律案(鈴木正吾君提出)

狩獵法中改正法律案 第一讀會

狩獵法中左ノ通改正ス

第二十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ農作物保護ノ爲其ノ他ノ必要ニ出テタリト認ムヘキ場合ニ於テハ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ趣旨辯明者ハ議席ニ居ラレマセヌ、仍テ趣旨辯明ヲ省略シタモノト認メマス

○服部崎市君 本案ハ政府提出、市街地建築物法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十七、金錢債務臨時調停法廢止法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提出者ノ趣旨辯明ヲ許シマス――提出者服部英明君

第三十七 金錢債務臨時調停法廢止法律案(服部英明君外二名提出)

金錢債務臨時調停法廢止法律案 第一讀會

金錢債務臨時調停法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ昭和十三年九月三十日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際未タ終了セサル事件ニ付テハ其ノ終了ニ至ル迄仍舊法ニ依ル

○副議長(金光庸夫君) 本案ノ趣旨辯明者ハ議席ニ居ラレマセヌ、仍テ趣旨辯明ハ省略シタモノト認メマス

○服部崎市君 本案ハ一松定吉君外六名提出、刑法中改正法律案外四件委員ニ、併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○服部崎市君 委員會ニ付託セル議案ノ報告ヲ待ツ爲メ、此際暫時休憩セラレシコトヲ望ミマス

○副議長(金光庸夫君) 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(金光庸夫君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス

午後六時十一分休憩

午後七時十五分開議

○議長(小山松壽君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、國家總動員法案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求め、其審議ヲ進メラシムルコトヲ望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異

議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、國家總動員法案、第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長小川郷太郎君

國家總動員法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 國家總動員法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十三年三月十六日

委員長 小川郷太郎

衆議院議長 小山松壽殿

附帶決議

一 本法ノ如キ廣汎ナル委任立法ハ全ク異例ニ屬ス政府ハ將來努メテ其ノ立法化ヲ圖ルト共ニ官吏制度ノ改革ヲ斷行シ又之ガ運用ニ當リテハ憲法ノ精神ニ悖ラザルベキハ勿論國民愛國心ノ自主的發露ヲ基調トシ苟モ本法ヲ濫用シテ人心ノ安定ヲ脅威シ産業ノ發達ヲ阻止セザル様嚴ニ戒心スベシ

二 本法ノ制定ト共ニ政府ハ進シテ世界ノ平和ヲ實現シ文運ノ進歩ニ貢獻スル爲速ニ外交機能ヲ刷新シ新ニ對外國策ヲ確立スベシ

〔小川郷太郎君登壇〕

○小川郷太郎君 委員會ニ於ケル經過、結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ憲法行ハレテ以來、稀ニ見ル劃期的ノ立法デアリマシテ、委員會ニ於キマシテモ、二月ノ二十六日カラ今日ニ至リマシテ、十四回ニ互リ、時ニハ深夜ニ入ルヲ辭シマセヌデ、熱心ニ慎重ニ審議ヲシタノデアリマス、其實問題答ハ非常ニ多岐ニ互リマシタガ、私ハ茲ニ其重要ナルモノニ付キマシテ、少シク御報告ヲ申上ゲタイト思フノデアリマス

第一ハ憲法第三十一條ト本案トノ關係デアリマス、憲法第三十一條ハ非常大權デアリマスガ、之ニ依ッテ戰時ノ規定ヲ十分ニ爲シ得ラレルノニ、此法案ヲ提出セラレルト云フコトハ憲法違反デアリナイカ、斯ウ云フヤウナ趣旨ガ質問ガアリマシタ、尙ホ他ノ言葉ヲ用ヒテ、他ノ方面カラ見マシテ、憲法第三十一條ノ發動ヲ避ケル爲ニ立法セントスルノデアリナイカ、非常大權ノ行ハル、コトヲ豫メ想定シテ、備ヘ置クト云フ趣旨デアリマス、之ニ對シマシテ政府ハ、戰時ニ於キマシテハ非常大權ノミガ働クト前提スルト云フコトハ正シクナイ、戰時モ平時モ同ジク臣民ノ權利自由ヲ制限スルニハ法律ニ依ルベキモノデアアル、憲法第三十一條ハ憲法第二章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ、天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシト書イテアル、其妨グルコトナイト云フコトハ、是デモ宜シ、隨テ法律ヲ以テ規律スルト云フコトハ決シテ惡クナイノデアアル、斯ウ云フ風ニ答ヘラレテ居ルノデアリマス、デ憲法第三十一條ハ既存法令ニ拘ラズ行ハレルノデアリマシテ、本法ガ制定セラレテモ非常大權ノ發動ハ妨ゲラレナイノデアアル、本法ヲ制定シテ、戰時總動員ヲ行フニ際シ、如何ナル形ニ於テ國家權力ガ發動スルカト云フ大綱ヲ國民ニ知ラシメテ、戰時ニ國民ガ迷フコトナク、同ジ方向ニ働クト云フ覺悟ヲ準備ヲ致サシムルト云フコトガ、非常大權ニ依ルヨリモ寧ロ立憲的デアリナイカ、サウ云フ風ニ考ヘテ提案シタモノデアルト説明セラレ、尙ホ先例モ幾ツモアルト云フコトヲ辯明サレテ居タノデアリマス

第二ノ質問ハ、廣汎ナル委任立法ハ憲法ニ違反シ、若クハ憲法ノ精神ニ違反スルト云フヤウナ質問デアリマシタ、是ハ此委員會ヲ通ジマシテ幾回トナク繰返サレタノデアリマス、法理論ト致シマシテ、委任立法ハ憲法違反デアリナイカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、政府ハ委任命令ト云フモノハ法律ノ内容ヲ成スモノデアアル、隨テ是ハ憲法違反デアリナイ、斯ウ云フ説明ヲ貫カレテ居ラレタノデアリマス

更ニ憲法第三十一條デ大權命令、即チ形ハ勅令デアリマスガ、勅令デ規定セラレルニ拘ラズ、法律ニ依ッテ勅令ニ委任スルト云フコトハ憲法違反デアアル、斯ウ云フヤウナ意見ヲ以テノ質問ガアリマシタガ、政府ハ初メト同ジヤウニ憲法第三十一條ノ非常大權ヲ發動スルモノツノ行キ方デアアルガ、政府ハ寧ロ普通ノ立法手段ニ依ッテ戰時ニ對處スルコトガ憲法精神ニ合致スル、次ニ此法律ニハ立法事項ニ付テ法律ト同様ノ效力ヲ有スル勅令ガ公布セラレナイト十分ニ勵カヌ分ガアル、其際憲法第三十一條ノ發動ヲ仰グハ適當デナイ、此法律自體ノ系統デ形ヲ整ヘ委任勅令ニ依ルコトガ宜シ、斯ウ云フヤウナ御答デアッタヤウデアリマス

更ニ之ヲ政治論、憲法ノ運用ト云フ上カラ見マシテ、廣汎ナル委任ト云フコトハ如何ニモ當ラ得ナイ、少クトモ憲法ノ精神ニ副ハナイノデアリナイカ、白紙委任狀ヲ出セト云フコトト同ジデヤナイカ、何ヤラレルカ分ラナイ、ソコデ非常ナ不安ガ起ルノデアアル、斯ウ云フ質問ガアリマシタガ、政府ハ之ニ對シマシテ、此法案各條ニ依ッテ臣民ニ義務ヲ負ハスノデアアル、義務ノ本體ハ本條ニ依ッテ定マルノデアアル、義務ヲ負ハス手段方法ヲ勅令ニ讓ツタノデアアル、勅令ハ其義務以上ニ出ナイノデアアル、寧ロ本條ノ義務ヲ狭メルコトニナルノデ、決シテ此勅令委任ト云フモノガ不安ヲ來スベキモノデアリナイ、而モ憲法第二章ノ立法事項ガ、殆ド此法律ニ依ッテ皆含メラレテ居ルト云フヤウナコトデアアレバ、ソレハサウデナイノデアアル、事項カラ言ヒマス、事務、物資、

情報ト云フヤウナモノニ限ラレテ居ル、臣民ノ權利義務ニ關スル憲法第二章ト云フモノノ中デモ、關係スル所ハ大體ニ憲法二十七條所有權ノ條文デアアル、ソレカラ言論ニ關スル條文、即チ二十九條等二三ノ條文ニ觸レルガ、アトノ憲法第二章ノ條章ニハ殆ド觸レテ居ナイノデアアル、而モ又是ハ戰時ニ際シテ、國民總動員上必要ナル時ニ限ラレテ居ル、平時其他ノ場合ニハ適用サレルモノデアリナイノデアアル、斯ウ云フヤウナ説明デアリマス、而モ先例ガアル、先例ト云フガ、コンナ廣汎ナ先例ガアルカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、本案ニ規定シテ居ルモノハ、現行法ノ色々ナモノヲ集メテ綜合單一化シタノデアアル、新シク加ハッタ規定ト云フモノハ、五條、六條、七條、十四條、十七條、十八條、二十條位ノモノデアアル、サウ俄ニ非常ナ廣汎ナル委任立法ヲ、此處ニ持ッテ來タノデアリナイト云フヤウナ趣旨ノ辯明ガアリマシタ

次ニ之ニ關聯シマシテ、ソレニシテモドウ云フコトヲ規定スルノカ、勅令ノ要綱トナルヤウナモノヲ出スコトヲ要求シタガ、政府ノ方デハ其要綱ヲ示サレタノデアリマス、其要綱ニ付テ其内容ヲ立法化スル、即チ此法律ノ中ヘ、サウ云フ要綱ニ書カレテ居ルヤウナ條項ヲ入レテシマッタラ、ドウカト云フヤウナ質問モアリマシタガ、政府ハ其要綱ノ中ニハ種々難多ナモノガアル、法規命令ニ關スルモノモアリ、執行命令ニ關スルモノモアルノダト云フコトヲ答ヘタ、何ニシテモ勅令ヲ法文化シテ行クト云フコトハ出來ナイ、ナゼ出來ナイカト云ヘバ、戰爭ハ千變萬化スルモノデ、之ニ即應シテ行カケレバナラナイ、然ルニ今日ニ於キマシテ、其千變萬化ニ應ジテ立法スルコトガ中々容易デナイ、第一ニ戰ノ規模ニ依ッテ違フノデアアル、第二ニ相手國ニ依ッテ違フノデアアル、サウ云フモノニ對應シテ今日カラ豫メ決メテ法文ノ中ヘ定メルト云フコト

情報ト云フヤウナモノニ限ラレテ居ル、臣民ノ權利義務ニ關スル憲法第二章ト云フモノノ中デモ、關係スル所ハ大體ニ憲法二十七條所有權ノ條文デアアル、ソレカラ言論ニ關スル條文、即チ二十九條等二三ノ條文ニ觸レルガ、アトノ憲法第二章ノ條章ニハ殆ド觸レテ居ナイノデアアル、而モ又是ハ戰時ニ際シテ、國民總動員上必要ナル時ニ限ラレテ居ル、平時其他ノ場合ニハ適用サレルモノデアリナイノデアアル、斯ウ云フヤウナ説明デアリマス、而モ先例ガアル、先例ト云フガ、コンナ廣汎ナ先例ガアルカト云フヤウナ質問ニ對シマシテ、本案ニ規定シテ居ルモノハ、現行法ノ色々ナモノヲ集メテ綜合單一化シタノデアアル、新シク加ハッタ規定ト云フモノハ、五條、六條、七條、十四條、十七條、十八條、二十條位ノモノデアアル、サウ俄ニ非常ナ廣汎ナル委任立法ヲ、此處ニ持ッテ來タノデアリナイト云フヤウナ趣旨ノ辯明ガアリマシタ

ハ出來ナイ、又對外關係ノ上カラ申シマシテモ、法律ニ細カク規定シテ置クト云フコトハ、總動員計畫ヲ外國ニ窺ヒ知ラシムルコトニナル、ソレハ避ケナケレバナラナイ、斯ウ言ハレノデアリマス、尙ホ此勅令ニ委任シテ居ルト申シマシテモ、其勅令ガ一ツノ簡條ニ於テ必ズ一本ト限ラナイ、今想定シ得ラレルモノヲ一本出シ、ソレカラ又必要ニ應ジテ、同ジ條文ニ基イテ第二ノ勅令モ出テ來ルノデアアル、ソレヲ今日カラ總テ立法化シテ、此法文ノ中ニ勅令ノ内容ニナルベキモノヲ皆現ハス譯ニハ行カス、斯ウ云フヤウナ答辯デアリマシタ

斯ノ如ク法理論、憲法ノ運用論、憲法ノ精神論、質問者ト政府ノ方トノ間ニ幾多ノ議論ガ上下セラレマシタ、併シ尙其政府ノ答辯ニ依ッテモ、委員ノ方デハ十分ニ氷解出來マセヌデ、斯ウ云フヤウナ法律案ヲ提出スルニハ、何カ背後ニ一種ノ思想ガアルノデハナイカ、即チ獨裁政治ノヤウナ考ガアルノデハナイカ、ソレカラ出發シテ斯ウ云フ法律案ガ提出サレルコトニナッタノデハナイカト云フヤウナ質問ガアッタノデアリマス、ナチスノ授權立法ト云フモノト同巧異曲デハナイカ、殊ニ過去數年來ノ我國ニ行ハレタ暗流ニ顧ミテ見マス、試ニ人心不安ノ環境デアアル、ソコニ此法律案ガ出タノデアアル、何カソコニ關係ガアルノデハナイカ、サウ云フヤウナ意味ノ質問ガアリマシタ、尙ホ他方面カラ言フト、現内閣ハ或ハ此法律ヲ運用スルニ於テ誤リナイカモ知ラヌガ、是カラ後ニ來ル内閣ト云フモノハ、ドンナモノデアアルカモ分ラヌ、最悪ノ内閣ガ出來タナラバ、此法律ニ依ッテ立憲政治ヲ破壞スルコトニナルノデハナイカ、斯ウ云フヤウナ議論ヲ以テ政府ニ迫ラレタノデアリマス、政府ハ之ニ對シマシテ、立憲政治ト云フコトニ關聯致シマシテ、近衛首相モ、廣田外相モ、末次内相モ、皆口ヲ揃ヘテ憲法ハ儼存シテ居ルノデアアル、此憲

法ノ條章ヲ遵守シテ政治ヲ行ハウト思フ、尙ホ是カラ後ニ惡イ内閣ガ出來テ、此法律ニ依ッテ憲法政治ヲ破壞スルモノガアルカモ知ラヌト云フ質問ニ對シテハ、近衛首相ハ、我國ニハ憲法ガ儼トシテ、存在シテ居ル、上ニハ、聖天子ガ御在シマスノデアアル、ソレデアアルカラ獨逸ヤ伊太利ノヤウニ、下カラ力ニ依ッテ政權ヲ握ルト云フ如キ事態ハ我國ニハ起ラナイ、憲法ノ條章ニ依ッテ國政ヲ運用ヲ爲スコトハ、如何ナル時代ニ於テモ變ルベキモノデアハナイ、斯ウ云フ風ニ言明セラレタノデアリマス、尙ホ首相ハ此法律ハ戰時ノミニ行ハウトスルノデアアルカラ、ナチスノヤウナ平時ニ適用セラレル所ノ法律ト云フモノトハ本質上ノ差ガアル、更ニ此法律ノ背後ニ恐レベキ一種ノ思想ガアルト云フモノハ、決シテ獨裁政治ノ「イデオロギー」カラ出タモノデアハナイ、既ニ十數年以來歷代ノ内閣ガ此總動員計畫ト云フモノニ苦慮シテ、ソレガ今日始ト出來上ッテ、今ヤ之ニ法ノ根據ヲ與ヘントスルト云フノデ、此法案ガ提出セラレタノデアアル、沿革的ニ考ヘテ見テモ、玆ニ左様ナ恐レベキ考ガ背後ニ潜ンデ居ルモノデアハナイ、斯ウ云フ風ニ辯明セラレタノデアリマス

次ニサウハ言フケレドモ、現在ノ官吏ト現在ノ行政機構トヲ以テシテ、是ガ旨ク行ハレルカ、ソコニ心配ガナイカ、斯ウ云フヤウナ質問ニ移ッテ來マシテ、ソコデ行政機構ノ改革ハドウスルカ、或ハ官吏制度ノ改革ハドウスルカ、斯ウ云フ質問ガアリマシタ、政府ハ之ニ對シマシテ行政機構ノ改革、官吏制度ノ改正ト云フモノヲ今考ヘテ居ル、殊ニ此法律ガ行ハレルト云フコトニナッタナラバ、其必要ハ益々痛感スルト云フコトヲ述ベラレタノデアリマス

更ニ此法律ヲ運用スルニ當ッテハ、今日マデノ行政機構デハイカス、ドウ云フ行政機

構デアルカ、斯ウ云フ質問ニ對シマシテ、政府ハ大體中央統轄機關トシテハ内閣ガ之ニ當リ、總理大臣ハ總轄事項ニ付テ責任ニ任ズルノデアアル、中央執行機關トシテハ各省ガ之ニ當リ、各省大臣ガ其責任ヲ持ツノデアアル、戰時ノ特設機關トシマシテハ、即チ戰爭ノ規模ニ應ジマシテ、ソレニ適スルヤウナ所要ノ機關ヲ新設シ擴充スル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルト云フノデアリマス

ソレカラ次ニ本法ノ行ハレル時期デアリマス、之ニ付テ色々質問應答ガアリマシタガ、此本法ガ兩院ヲ通過スレバ直チニ公布ノ手續ヲ執リ、勅令ニ依ッテ施行期日ガ定マル、ソレデ其法律ガ全般的ニ施行セラレルコトニナルガ、併シ其中デ愈ニ是ガ發動スルト云フコトハ、事情ニ依ッテ決ルノデアアル、施行ハセラレルガ、全部ガ皆發動スルノデアハナイ、斯ウ云フヤウナ御説明デアリマシタ、戰時ニ際シト云フ言葉ガアルガ、アレハ戰爭ノ始マリカラ戰爭ノ終リマデハ戰時デアアルガ、戰時ニ際シト云フコトハ、ドウ云フ事デアアルカト云ヘバ、其戰時ノ前後ニ多少幅ガアル、ソレハ戰爭ノ緊迫シタ時ハ、ヤハリ戰時ト見ル、斯ウ云フヤウナ解釋デ、戰爭ノ時ト云フモノハ宣戰布告ノ時、或ハ戰爭ニ準ズベキ事變ト云フモノハ、御裁可ニ依ッテ決マルノデアアル、其前ニ此法律ノ發動ハ多少必要デアアル、是ハ戰時ニ際シト云フコトヲ説明デアリマシタ

ソレカラ國家總動員審議會ニ付キマシテ、色々質問應答ガアリマシタ、色々ノ質問ノ中デ之ヲ分類シテ見マス、第一ハ其權限ニ付テノ質問デアリマス、其權限ニ付テハ重要事項ヲ審議スルト書イデアリマスガ、其重要事項トハ何デアアルカ、ソレハ勅令案デアアルカ、此質問ニ對シマシテハ勅令案其モノデヤナイ、ガ勅令ニ規定セラレルモノハ大抵此重要事項ニナルノダト云フ答辯デアリマシタ、第二ニ其審議會ノ組織ハドウスルカ、之ニ付テ色々ノ角度カラ質問ガア

リマシタガ、或ハ勅令ノ内容ハ生産力ノ擴充ト勞動員トガ重要デアアルニ鑑ミテ、勞動者ノ代表ヲ入レル意思ハナイカト云フヤウナ意味ノ質問ガアリマシタガ、政府ハ尤デアアル、考慮スルト答ヘラレマシタ、併シ最モ多クノ質問ハ、廣汎ナル立法事項ヲ勅令ニ委任スルニ依ッテ生ズル不安ヲ、緩メントスル趣旨カラ出タモノデアリマス、即チ貴族院、衆議院ノ議員ガ多數ニ此審議會ニ參加スルコトニナリマスレバ、之ヲ通ジテ間接的ニ、實質的ニ、立法ノ協贊權ヲ或ル程度ニ行ヒ得ラレルトモ見ラレルノデアリマスカラ、其趣旨カラシテ主トシテ貴族院議員、衆議院議員ヲ以テ組織スベキデハナイカ、サウ云フ意見ヲ附シテ政府ニ質問ヲシタノデアリマスガ、初メ政府ハ之ニ付テ明確ナル答辯ヲ致シマセヌデシタ、今日ノ委員會ニ於キマシテ總理大臣ガ此質問ニ答ヘラレマシタ、第五十條ノ委員會、即チ國家總動員審議會、此審議會ノ構成ニ付テハ委員ノ過半數ハ貴族院議員ヲ以テ之ニ充ツル考デ居リマス、之ニ依ッテ質問者ノ趣旨ニ適フコトト思ヒマスト云フ風ニ、御言明ニ相成ッタノデアリマス、尙ホ今日ノ委員會ニ於キマシテ、第五十條ノ施行要綱ガ配ラレタノデアリマス、其中ニハ第四ニ委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官、貴族院議員、衆議院議員及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズルコト、前項ノ貴族院議員及衆議院議員ハ委員ノ過半數ヲ占ムルコト」斯ウ云フコトニ相成ッテ居リマスガ、此要綱ニ書イタモノト總理大臣ノ言明セラレタコトハ同ジコトデアルト云フコトヲ政府委員カラ附加ヘラレマシタ、尙ホ質問應答ノ重要ナルモノガアリマスガ、是ハ此際速記録ニ譲リマス

質疑ガ終了シマシテ討論ニ入りマシテ、民政黨ヲ代表シテ豐田豐吉君、政友會ヲ代表シテ西岡竹次郎君、第一議員俱樂部ヲ代表シテ井阪豐光君、社會大眾黨ヲ代表シテ淺沼稻

次郎君、第二控室ヲ代表シテ今井新造君、東方會ヲ代表シテ三田村武夫君、是等ノ諸君ガ皆本案ニ賛成スルノ意見ヲ述ベラレタノデアリマス、採決ニ入りマシテ、全會一致ヲ以テ本案ハ可決セラレマシタ

尙ホ西岡竹次郎君ヨリ、立憲民政黨竝ニ立憲政友會ノ共同提案ニナル附帶決議ガ提出サレマシタ、ソレハ次ノ如キモノデアリマス

附帶決議

一 本法ノ如キ廣汎ナル委任立法ハ全ク異例ニ屬ス政府ハ將來努メテ其ノ立法化ヲ圖ルト共ニ官吏制度ノ改革ヲ斷行シ又之ガ運用ニ當リテハ憲法ノ精神ニ悖ラザルベキハ勿論國民愛國心ノ自主的發露ヲ基調トシ苟モ本法ヲ濫用シテ人心ノ安定ヲ脅威シ産業ノ發達ヲ阻止セザル様嚴ニ戒心スベシ

二 本法ノ制定ト共ニ政府ハ進シテ世界ノ平和ヲ實現シ文運ノ進歩ニ貢獻スル爲速ニ外交機能ヲ刷新シ新ニ對外國策ヲ確立スベシ

此附帶決議ニ付キマシテ採決ヲ致シマシタ所、是モ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、右大要ヲ御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 討論ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——山本厚三君

(山本厚三君登壇)

○山本厚三君 本案ニ付キマシテハ、只今委員長ヨリ極メテ簡潔ニ要領ヲ得タル御報告ガアリマシタ、殊ニ本案ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ各派ノ一致ヲ見タノデアリマシテ、反對ノ討論ヲスル方ハナイヤウデアリマス、故ニ只今ノ委員長ノ御報告ヲ以テ殆ド盡シテ居ルカノ觀ガアリマスガ、唯委員長ノ御報告ハ、質疑應答ノ内容ヲ批判ヲナサラズニ御報告ニナツテ居リマスカラ、此御報告ノ中ニハ、相當ニ強イ反對の御質疑モアリマシタ、其結果ガ遂ニ

融合歸一シマシテ、今日ノ如ク全員一致ノ形勢ニナツテ來タノガ其徑路デアリマス、仍テ私ハ立憲民政黨ヲ代表致シマシテ、本案賛成ノ趣旨ヲ簡明ニ申述ベテ見タイト存ジマス(拍手)

本案ハ御承知ノ如クニ戰時又ハ戰争ニ準ズベキ事變ニ際シマシテ、國家ノ有ル人的及ビ物的資源ヲ統制運用致シマシテ、我國ノ全能力ヲ最モ有效ニ發揮致シマシテ、之ヲ以テ我が國防ノ目的ヲ達成セントスルノ趣旨ニ出デテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、殊ニ我國現下内外ノ情勢ニ照シマス時ニハ、重要緊切ナル法案デアルト云フコトニ付テハ、其精神ニ於テハ何人モ御異論ノナイ所デアラウト存ジマス、然ルニ本案ノ内容ガ一たび世間ニ發表セラレマス、世間ニ非常ナル物議ヲ生ジタノデアリマス、ソレハ何故デアラカト云ヒマス、ソレガ單ニ直接國防ニ關係ヲ致シマスル事項ノミデアラマス、殆ド社會百般ノ事ニ關係ヲ致シ、就中經濟界ニ大衝動ヲ與フルガ如キ事項モ相當ニ多イノデアリマス、又國民生活ノ安定ニモ相當重大ナル關係ヲ有スル規定ガ多イノデアリマスカラ、斯様ナ内容ニ付テ詳細シク知ラナイ間ニ、世間ニ相當ナル聲ガ起ツタノデアラウト存ジマス、併ナガラ政府ハ早ク此國民ノ意向ヲ察知セラレマシテ、最モ反對ノ多イト思ハレル二ツノ點、即チ國民ノ言論集會ニ對スル制限禁止ト云フガ如キ、場合ニ依ルト云フト是ガ非常ナ大キナ問題ニナルノデアリマスガ、此重大ナル二點ハ之ヲ削除ヲナサレマシタ、又只今御報告ノ第五十條ヲ以テ審議會ヲ設ケマシテ、所謂安全瓣ヲ設クル等、相當政政モ之ニ御留意ニナツテ、餘程此輿論ニ聽從ヲシテ緩和ニ努メタト云フ點ハ看取スルコトガ出來ルノデアリマス、所ガ一たび是ガ本院ニ提案ヲサレマシテ、本會議、委員會ニ掛リマスト云フト、是ダケ政府ガ御護歩

ニナツケレドモ、反對ノ聲ハ非常ニ多カッタノデアリマス、其反對ノ點ハ只今ノ報告デ明デアリマスカラ、詳細ノ點ハ之ヲ避ケマスガ、主トシテ憲法違反及ビ議院ノ審議權無視ト云フ點デアラウト存ジマス、所ガ其ダ遺憾ナコトニハ、政府ノ御答辯ガ極メテ不徹底デアリ、又一致ヲ缺イテ居ルガ爲ニ、中々重要緊切ナル御質問ガ重ネラレタニモ拘ラズ、容易ニ諒解セシメルコトガ出來ナカッタノデアリマスガ、總理大臣ガ出席セラレマシテ率直ナル御答辯ガアリマシタノデ、稍、此疑義ヲ緩和スルコトガ出來タカノ觀ガアリマシタ、然ルニ議員ノ多數ハ左様デアリマセウガ、私共モ今日ノ時局——

是ハ其内容ヲ茲ニ申上ゲル必要ハアリマセウ、吾々ガ承知致シテ居リマスル通り、此時局ニ鑑ミマス時ニハ、ドウシテモ此法律ヲ出サナケレバナラスト云フコトハ、前申ス通りニ異存ガナイ所デアリマス、而シテ其實問應答ノ内容ヲ見マス、歸著スル所ハ白紙委任狀ガイケナイノデアアル、委任命令ガ餘リニ廣汎デアルト云フコトデアリマス、之ニ對シテハ如何ニスルカト云ハベ、之ヲ法文化スル外ナイノデアリマス(討論ニナツテ居ラスデヤナイカ)ト呼フ者アリ)所ガ其法文化スルコトガ、ドウシテモ出來ナイト云フノハ、第一ニ國際上ノ機密ト、臨機迅速ナル處置ヲ要スルコトガ多イト云フ點デアリマス、又日數ガ少クシテ、十分此法文化スルコトガ困難デアル、是ハ吾々ガ諒トシナケレバナラスト所デアリマシテ、此點ニ付テハ結局此非常ナ廣汎ナ委任命令ヲ、法文化スルコト云フコトハ出來ナイ、ソレデハドウスルカト云ヘバ、此五十條ノ權限ヲ擴張ヲシテ貰ッテコ、デ吾々ノ審議權ヲ延長スルガ如キ形ニ於テ納マリヲ付ケヨウ、斯ウ云フ議論ガ段々ト多クナツテ參ツタノデアリマス、殊ニ本日ノ委員會ニ於キマシテ、最後ノ點ニ付テ、此長イ間ノ質

疑應答ノ結果、判明ヲ致サナカタル所ノ重要ナル諸點ニ對シテ、相當政府ノ突込シタ御説明ガアツタ爲ニ、諒解スルコトガ出來タ點ガ相當ニアラウト存ジマス、其上ニ第五十條ニ於キマシテ、貴衆兩院議員ノ過半數ヲ認メルト云フコトヲ言明セラレマシタカラ、此五十條ノ内容ノ改正ニ依リマシテ、此點ニ付テ此白紙委任狀ノ問題ノ解決ヲ見ントスルノ考ニナツタノハ、多クノ諸君ノ御考デアラウト存ジマス

(政府ハ秘密會ノ内容ヲ明ニスベシ)ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○山本厚三君(續) 斯様ナ次第デ以テ今日ノ我國ノ時局ニ鑑ミマシテ、多少ノ不滿——多少デハナイ、相當大キナ不滿ヲ持ツテ居ツタ方ガアラウト存ジマスガ(勿論)ト呼フ者アリ)此大キナ不滿ハ此時局ニ對スル國民ノ非常ナル重責ニ鑑ミマシテ、忍ブベカラザルヲ忍ビ、此法案ニ賛成ヲシナケレバナラストデアラウト私ハ存ズルノデアリマス(拍手)只今委員長ノ報告ニハ、斯ウ云フ質問ヲシタガ、ソレハ斯ウ云フ答辯ガアツテ、ドチラガドウデアルト云フ御批判ハ勿論ナイノデアリマスガ、私ノ觀測スル所ニ依リマスルト、議員ノ重大ナル質問ハ、今以テ十二分ニ諒解ヲセラレツタモノトハ申上ゲル譯ニ行キマセヌ、是ハ如何ナル委員會ニ於テモ、サウデアリマスガ、併ナガラ多少ノ答辯ニ對スル不滿ガアリマシテモ

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ

○山本厚三君(續) 不滿ヨリハ、今日ノ我國ノ時局ノ重大性ニ對スル國民ノ責任ノ方ガ、ヨリ以上重大デアリマスルカラ、此點ニ於テ吾々ハ贊意ヲ表スルコトニ決シタ次第デアリマス(拍手)併ナガラ茲ニ私ハ本法案ニ無修正贊意ヲ表スルニ當リマシテ、一言政府ニ對シテ警告ヲ申上ゲテ置カナケレ

バナラスト存ジマス(拍手)

本議場ニ於テ見ルコト存ジマスルガ、併ナガラ此本會議及ビ委員會ニ於テ問答セラレタル所ノ各種ノ國民ノ疑點、議員ノ疑點、此點ニ付テハ政府ハ十二分ニ諒解ヲセシメテ居ラナイト云フコトハ、御承知デアラウト存ジマス、是等ノ諸點ニ付テハ、本法ヲ御運用ニナル上ニ於テ十分ニ御注意ヲ願ヒタイト存ジマス、此法律ハ其權利ガ洵ニ廣大無邊ナモノデアリマスカラ、之ヲ善用スレバ國家ヲ護ル所ノ寶刀トナルデアリマセウ、併ナガラ若シ之ヲ惡用スルガ如キ者ガ將來出ヌトモ限リマセウガ、左様ナ場合ニハハ我ガ國民ヲ苦シメ、國家ヲ蠱毒スル所ノ非常ナ弊害トナルコトハ、今日ヨリ之ヲ豫期シナケレバナラス(拍手)ドウゾ此點ニ付テハ政府ハ此問答ニ現ハレタル實際ノ狀況ヲ能ク御考ヘ下サツテ、左様ナ弊害ノ起ラヌヤウニ善處セラレンコトヲ切ニ希望致ス次第デアリマス(拍手)

尙又斯様ナ法律ヲ以テ國民ノ義務ヲ強要スルト云フコトハ、諸外國ナラバ率ザ知ラズ、日本ノ國家ニ於テハ全然必要ガナイト云フ議論モ澤山アリマシテ、私モ至極同感デアリマス(拍手)其趣旨ハ法律ニ依ラナイデ、此皇道精神、日本精神ヲ以テ十分ニ間ニ合フノデアアル、一朝有事ノ場合ニハ何等辭スルモノデハナイト云フ意見モ澤山アリマシタ

(發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○山本厚三君(續) 併ナガラ此政府ノ法規ニ依ッテ之ヲ抑ヘルト云フコトモ、問者ノ言フガ如クニ、法規ノミニ依ッテ強制ヲシヨウト云フ御考デナイコトハ明カデアリマス、ドウカ將來ニ於キマシテハ、此殆ド無限ノ權利トモ言フベキ本法ヲ極端ニ惡用ヲ致シマシテ、度々質問ニ現レタルガ如キ獨裁政治、

或ハ專制政治ニ陥ルヤウナコトハ、絕對ニ是ハ御注意アラント希望スルノデアリマス(拍手)私ハ政府ガ度々本案ニ付テ重要ナル御聲明ヲ爲サツテ、殊ニ總理大臣ヨリノ御聲明ハ、委員諸君ガ非常ニ是ハ重ク取ツテ居ルノデアリマスルカラ、ドウカ政府ニ於カレテハ、此重大ナル御聲明ヲ御實行ニナツテ、吾々ガ心配シタコトハ將來ホシノ一片ノ杞憂ニ過ギナカッタ、無駄ナ心配デアッタト云フ位ニ、ドウカ之ヲ立派ニ御實行アラント希望致スノデアリマス(拍手)サウシテ國民ガ自發的ニ本法ヲ實行スル觀念ヲ起シマシテ、本當ノ精神の國家總動員法、國民上下一致ノ本當ノ國家總動員法ト云フモノガ行ハレルヤウニ、政府ノ十分ナル御盡力ヲ切望致ス次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 大口喜六君

(大口喜六君登壇)

○大口喜六君 私人本案ニ賛成スル者デアリマス、先刻小川委員長ヨリ御報告ガアリマシタル如ク、本案ハ實ニ我國憲法發布以來稀ニ見ル重要法案ダト申シテ宜カラウト存ジマス、勿論現下内外ノ情勢ニ稽ヘマシテ國家總動員法ノ必要デアアルコトハ、既ニ我ガ國民ノ認識スル所デアルト考ヘマス(拍手)而モ此立法ハ事苟モ國防上ニ關スルノミナラズ、我ガ臣民ノ權利義務ハ勿論、有ユル經濟界並ニ國民ノ生活上ニモ關スル重要事項デアリマスルガ故ニ、慎重ナル上ニモ慎重ヲ期セバナラスコトハ當然デアリマス、然ルニ本案ヲ見マスルト、實際上已ムラ得ザルニ出タルコトデアリマスルガ、其重要ナル事項多クガ殆ド命令ニ委任セラレテ居リマス、恐ラクハ斯ノ如キ重大法案ニシテ、斯ノ如キノ委任立法ハ、全ク我國ニ於ケル異例デアルト思ヒマス(拍手)唯奈何セン、事ハ多ク國防上ニ關スルノミナラズ、時局ニ對シテ極メテ重要性ヲ有スルモノデアリマス、隨テ私共ハ深く思フ此ニ致

シマシテ、此場合特ニ政府ノ言明ヲ信ジ、茲ニ本案ノ全部ヲ賛成スル次第デアリマス(拍手)

申ス迄モナク本案ハ國防上必要ナルト同時ニ、我國憲法ノ條章ニ依ッテ與ヘラレタル臣民ノ權利義務ニ關スル重大ナル法律案デアリマス、隨テ萬々一ニモ其運用ニ於テ一歩ヲ誤ランカ、其國家ニ及ボスベキ影響ハ實ニ測リ知ルベカラザルモノガアルト存ジマス(拍手)政府ハ宜シク深く其責任ヲ顧ミラレマシテ、重厚ニシテ慎重、苟モ誤ラ後世ニ貽スガ如キコトノナイヤウニ致サレタイト考ヘマス(拍手)

私ハ再び茲ニ繰返シマス、今ヤ時局ハ重大デアリマス、我ガ國民ハ堅忍持久、益々忠誠ヲ以テ念トシ、舉國一致以テ此大業ヲ成就致サネバナリマセウ(拍手)然ルニ偶、本法案ガ本院ニ提出致サレマスルヤ、之ニ對スル衝動ハ延イテ諸外國ニマデ及ンデ居リマス、隨テ本案ニ對スル議事ノ進行如何ハ、尙カラザル影響ヲ全世界ニ及ボスベキモノナリト考ヘマス(拍手)吾々ガ此場合政府ノ言明ニ信フ置キ、茲ニ本案全部ヲ賛成致シマスル所以モ、其ハ一ハ是ニ在ルノデアリマス、政府ハ宜シク篤ト吾々ノ精神ノ在ル所ヲ考ヘラレマシテ、本案ノ將來ニ付キマシテハ、其爲セル言明ヲ眞ニシ、萬々違算ナキヤウ、深く御戒心アラント望ム次第デアリマス(拍手)

尙ホ只今委員長ヨリ報告致サレマシタル附帶決議ニ付キマシテハ、固ヨリ吾々ノ賛成スル所デアリマス、政府ハ一日モ速ニ其趣旨ヲ體セラレマシテ、是ガ實行ヲ期セラレンコトヲ望ンデ已マザル者デアリマス、私ハ最早此上多クヲ申シマセウ、之ヲ以テ賛成ノ意ヲ表シマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 井阪豐光君

(井阪豐光君登壇)

○井阪豐光君 本法案ガ未ダ議會ニ提出サ

レマセウ以前ニ於キマシテ、吾々ノ屬スル團體ニ於キマシテ檢討ニ檢討ヲ重ネ、毫モ憲法違反ニアラザルコトヲ確認致シマシタ、時局ノ重大性ニ鑑ミ、本案ノ目的ハ皇國ノ安泰ヲ圖ルニ在ル以上、枝葉末節ノ論議ヲ省略シ、我ガ政務調査會ニ於キマシテハ、本法案ガ議會ニ提出サレマスル前ノ草案ニ依リマス、第一條ニ於テ……

「簡單々々」(「故事來歴ハ必要デヤナイ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 「本法ニ於テ國家總動員トハ戰時又ハ事變ニ際シ、トアッタノヲ、意味ハ少シモ變リマセウ(分ッテ居ル)「簡單々々」ト呼ヒ其他發言スル者多シ」意味ハ少シモ變リマセウガ、過チラ防ガ爲ニ「戰爭ニ準ズベキ事變」場合トスル此一點ト、其次ニハ第二十條ニ新聞紙其他ノ出版物ノ掲載ガ二回以上停止サレマシタ時ニハ發行停止ノ結果ヲ招カスルト云フ規定ガアッタデアリマスガ之ヲ除キタイト云フコトト、更ニ第三點ニ審議會ノ設置、即チ本法施行ニ關スル重要事項ニ付キマシテ、是非審議會ヲ設ケテ戴キタイト云フ此三點ヲ發表致シタノデアリマス、然ルニ期セズシテ當時ノ吾々ノ希望ニ合致シマシタ、ソレ故ニ吾々ハ其審議會ヲ速ナランコトヲ望ミマシテ、本會議ニ於テ此壇上ニ質疑者ヲ出サナンドデアリマス、茲ニ本會議ニ質疑者ヲ出サナンド所ノ理由此場合一言申上

ゲルノデアリマス、併シ本案ニシテ既ニ審議ヲ盡サレ、本日ヲ以テ決定サレル所ノ形勢ト相成ツタ以上ハ、吾々ハ之ヲ賛成スル所以下、本法施行ニ際シ更ニ留意サルベキ事項ニ付テノ希望ヲ開陳致シマシテ、我ガ國家ノ爲メ、其成立ヲ熱望スル所以ヲ明ニセントスルノデアアル、既ニ委員會ニ於テ議論サレタコトデアアルガ……

(「簡單々々」ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

マデトノ機械的年齡制限ヲシテ居リマセヌ……

○井阪豐光君(續) 或ル論者ハ本法ヲ以テ憲法第三十一條ニ依ル大權ノ施行ヲ制限スル虞ガアルト考ヘ、所謂大權干犯デナイカトノ議論ヲサレマシタガ、本法自體ハ憲法ノ何處ニ根據ヲ持ツカト申シマスレバ、第二章臣民ノ權利義務ノ保障ノ精神カラ來テ居ルノデアリマス、憲法第三十一條ハ「本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ」トアリマス、即チ本法自體ハ存在致シマシテモ、毫モ天皇大權ノ行使ヲ妨ゲナイノデアリマス、本法ガ成立致シマシテモ、天皇ノ大權ハイザ戰時、事變トナリマシタナラバ、自由自在ニ發動セラレ得ルモノデアリマスカラ、大權干犯ト申スベキコトハ全然アリ得ベキ筈ガナイノデアリマス(拍手)

○井阪豐光君(續) 總括的ニ總動員業務ヲ列舉致シマシテ、總動員業務ニ適シナイ者ハ之ヲ徵用サレナイノデアルト云フコトニナリマス、茲ニ有機的ナ重大ナル制限ガアルノデアリマス、物資ノ收用ニ於キマシテモ、總動員物資ト云フモノガ列舉サレテアリマスカラシテ、其範圍ハ極メテ限定的ニナッテ居リマス、斯様ナ限度ニ於ケル委任命令ハ毫モ帝國憲法ニハ違反シテ居ラスノデアリマス、以上ハ法律的ノ觀察デアリマスガ、政治的ニ見マシタナラバ、本案第五十條ニ、國家總動員審議會ガ置カレ、其審議會ニ於キマシテ、立法府カラ代表者ガ出席シ、發言ノ機會ヲ得ルノデアリマスカラ、憲法ノ本旨ニ反スルモノデナカラウト思フノデアリマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

テ、吾々ハ本法施行上御留意ヲ請ヒタキ數箇ノ點ヲ開陳致シマス

一ツハ、本法施行ト並行致シマシテ、國防思想ノ普及徹底ノ方策ヲ立テラレタキコトデアリマス……

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

○井阪豐光君(續) 靜肅ニ願ヒマス

アリマス、前ニ國防思想ノ普及徹底、國際情勢ノ國民的理解ト申上ゲタコトモ、此教學ノ興隆ト云フコトガ根柢ヲ成スモノデナケレバ其效果ハ極メテ薄弱デアリマス、昨年来ノ國民精神總動員運動ナルモノハ、甚ダ遺憾デアリマスガ、何等ノ效果ヲ齎サナカッタ申シテモ敢テ酷評デハナイノデアリマス、此事ハヤハリモウツ深く掘下ゲテ事ニ當ルベキモノデアアルマイカト、私ハ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、文教ノ任ニ當ルヤウナ方々ハ、其責任特ニ重大デアアルト思ハレルノデアリマス、國家總動員ノ仕事ハ陸海軍、大藏省、商工省、厚生省ノ仕事ト考ヘラズシテ、文部省ガ其第一ノ責任ヲ負フベキモノデアアルト覺悟シナケレバナラスノデアリマス(拍手)

最後ニ本法第五十條ノ點デアリマス、先刻委員會ニ於テ、總理大臣ニ於カセラレマシテハ、本審議會ニハ貴衆兩院議員過半數ヲ委員ニ選任スル、斯ウ仰セラレタノデアリマス、是ハ洵ニ結構デアリマス、而シテ之ニ關シマシテ各省ニ又委員會ガ設ケラレルコトト相成リマス、此各省ニ設ケラレル委員會ニ於キマシテモ、ドウカ之ヲ參照シテ戴キタイノデアリマス、又此委員ヲ選定致スニ付キマシテハ、所謂國防ニ認識アル人物ヲ簡拔シテ戴キタイノデアリマス、動モスレバ從來ノ委員ハ情實ニ流レルヤウナ嫌ヒガアリマスカラ、斯様ナコトハ斷ジテ排セラレマシテ、十分ニ……

(發言スル者アリ) 靜肅ニ願ヒマス
○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス
○井阪豐光君(續) 所謂時局ニ認識アル所ノ人物ヲ簡拔シテ戴キタイノデアリマス、時間ヲ制限サレマシタ爲ニ極メテ早口ニ申シタノデアリマスカラ、委細ハ速記録ヲ御覽願ヒタイト思ヒマス……
(發言スル者アリ) 靜肅ニ願ヒマス
○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

書ニシテ申上ゲマス
第一項、政府ハ本法施行ト相俟ッテ國防思想ノ普及及ビ徹底ノ方策ヲ樹ツルコト
第二項、内閣制度其他行政機構ノ改革並ニ官界ノ刷新並ニ刷新期スルコト
第三項、教學ノ刷新並ニ刷新期スルコト
第四項、國家總動員ノ審議會ノミナラズ本法施行ノ際設ケラルベキ各省委員會モ之ガ設置ノ趣旨ニ鑑ミ貴衆兩院議員並ニ民間權威者ヲ主力トスルコト
此四項デアリマス、終ニ一言致シマス、本法案ノ重大性ニ鑑ミラレテ、政民兩黨ヲ舉ゲテ之ニ賛成サレマシタコトハ洵ニ感謝ニ堪ヘヌ次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 西尾末廣君

(西尾末廣君登壇)

○西尾末廣君 我ハ社會大衆黨ヲ代表シテ、本法案ニ五箇條ノ希望條項ヲ附シテ、贊成ノ意ヲ表シタイト思フノデアリマス、本案ヲ審議スルニ當ツテハ、局部的、又狹隘ナル觀點カラスノデナクシテ、今後ノ世界ハ如何ナル方向ニ向ツテ居ルカ、更ニ現實ノ國際情勢ハドウナツテ居ルカ、我が日本ノ歴史的使命ハ何デアアルカ、斯ウ云フ點カラ考ヘマシテ、此判斷ヲシナケレバナラスト思フノデアリマス、今ヤ世界ハ資本主義的政治經濟制度ノ弊害ノ爲ニ惱マサレテ居ルノデアリマス、此害惡ハ其國々ノ内政問題デアアルト同時ニ、又國際問題トナツテ現レテ來テ居ルノデアリマス、嘗テ近衛首相ハ、今日ノ相剋摩擦ハ國內的ニモ國際的ニモ、持テル者ト持タザル者トノ對立相剋ガ根本的原因デアアルト喝破セラレタコトハ、蓋シ洵ニ至言デアアルト吾々ハ信ズルノデアリマス、今ヤ世界ハ個人主義ヨリ相互主義ヘ、自由主義ヨリ統制主義ヘト進展シツ、アルノデアリマスガ、各個人ノ自由ヲ或ル程度ニ制限スルコトニ依ツテ、全體ノ發展ヲ圖リ、其部

分トシテノ個人的自由ヲ合理化シ、且ツ増大セントスル方向ニ向ヒツ、アルコトハ、吾々ハハッキリ認識スル所デアリマス

次ニ我が日本ハ徳川三百年ノ長キニ互ル鎖國主義ノ爲ニ、世界各國ノ發達ニ取殘サレテ居ツタノデアリマシタガ、數年前ヨリ我國ニハ吾々ガ現實ニ見ルガ如キ、大多數ノ有色人種ガ、白色人種ノ優越感ニ依ツテ支配サレテ居ル現狀ニ顧ミマシテ、又東洋ノ平和確立ノ爲ニ實力のニ戰ヒ得ルノハ、我が日本ノ國ヲ措イテ外ニハ無イト云フ信念ニ基キマシテ、此日本ノ歴史的使命達成ノ爲ニ、敢然立ツテ邁進スベシトノ意見ガ昂マリ來ッテ居ルノデアリマス、吾々ハ此歴史的使命ヲハッキリ認識シナケレバナラス、以上ノ認識ノ上ニ立ツテ今日ノ國際情勢ヲ見ル時ニ、國家總動員法ハ絕對的ニ必要デアアルト確信スル者デアリマス(拍手)即チ言フ迄モナク我が日本ハ現實ニ支那國民政府ト戰ツテ居ルノデアアル、サウシテ長期戰ニ入ツテ居ルノデアアル、相手弱シト見テ、此事變ヲ輕視シテハナラスノデアアル、若シ長期戰中日本ノ國防力ニ少シデモ國際ヲ生ズルナラバ、何時第三國ノ干渉又ハ戰爭參加ガアルカモ知レナイノデアリマス(拍手)新聞ノ報ズル所ニ依リマシラバ、歐洲ノ天地ニハ、獨逸合邦ヲ繞ツテ第二ノ歐洲戰爭ノ危機ガ、眞ニ一觸即發ノ狀態ニ迫ツテ居ルノデアリマス、又此新事實ハ東洋ニ重大ナル影響ヲ齎スデアラウコトモ吾々ハ考ヘル、今ニシテ其對策ニ萬遺憾ナキヲ期サナケレバナラスノデアリマス(拍手)又外電ノ報ズル所ニ依リマシラバ、常ニ平和ノ使徒ノ如ク自ラ稱シテ來タ所ノ合衆國ニ於テサハ、二月二十五日ノ下院陸軍委員會ニ於テ、戰時ニ於テハ大統領ハ產業人力ノ一般の徵發ヲ命ジ得ルコト、及ビ公正ナル利潤以外ノ總テノ收益ヲ國家ニ收用スベキ稅制確立等ヲ含ム所ノ、戰時產業動員法ヲ可決

シテ居ルノデアリマス、又是ト並行シテ、豫テ陸軍省ニ於テ立案中ノ、一朝有事ノ時ニハ四箇月以内ニ二百三十萬人ノ軍隊ヲ戰線ニ送ルト共ニ、是ガ銃後生産力ニ萬遺憾ナキヲ期スル所ノ戰時總動員計畫ガ完成シタト報道サレテ居ルノデアリマス、斯ル國際情勢ハ、曩ニ述ベタ我國ノ歴史的使命ヲ果ス爲ニ今ヤ躍進ヲ遂ゲツ、アル日本ニ取リマシテハ、國防力ノ充實ガ絕對的ニ必要デアアルコトハ多言ヲ要シナイノデアリマス(拍手)而シテ近代戰爭ハ國力戰爭デアリ、兵員ノ動員並ニ軍需工業ノ動員ノミデハ極メテ不十分デアツテ、國ノ人力、經濟力、精神力ヲ總テ一ツノ中心ニ組織化シ、一元的作戰計畫ノ下ニ一絲亂レズ、綜合的ニ活動シ得ルヤウニシナケレバナラスノデアアル

(拍手)國家組織、經濟組織ガ極度ニ高度化シテ居ル日本ニ於テハ、一部局ノ破綻ガアルノデアリマス、國力ノ周到ナル組織化、即チ國家總動員計畫ガ絕對的ニ必要デアアルト吾々ハ信ズルノデアリマス(拍手)本案審議中ニ現レタ一ツノ反對意見、即チ總動員計畫ヲ立法化スルコト、即チ本案提出ハ國民ノ忠誠心ヲ信賴セザルモノデアリ、且ツ却テ之ヲ阻得スルモノデアアルト意見ガ出タノデアリマスケレドモ、斯ル意見ハ一切ノ勞働立法ニ對シテ、是ハ我國獨特ノ家族主義、主從ノ美風、温情主義ノ醇風美俗ヲ破壞スルモノナリトシテ反對シテ來タ態度ト全ク同斷デアツテ、其非科學的、非論理的デアアルト云フ點ニ於テハ、遺憾ナク其正體ヲ暴露シテ居ルノデアリマス(拍手)サウシテハ單ナル感情論デアリマス、若シ夫レ斯ル美シイ衣ノ下ニ、此觀念論ノ下ニ、公益ヨリモ私益ヲ先ニシ、國家ヨリモ個人ヲ重シトマルガ如キ資本主義的「イデオロギ」ガ含マレテ居ルトスルナラバ、此際斯ル思想ハ斷乎トシテ排撃シナケレバナラスノデアリマス

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○西尾末廣君(續) 勞働者ハ勞働ヲ以テ國ニ報ジ、財力アル者ハ財力ヲ以テ國ニ報ズルトノ愛國心ノ具體的表現ト、之ヲ組織化シ、總動員法ニ依ラザレバ、今後ノ戰爭ニ勝利ヲ博スルコトハ出來ナイノデアリマス、單ナル抽象的ナル愛國心ノミニ依テハ、戰捷ヲ確保スルコトガ出來ナイノデアリマス、本法案ハ又憲法第三十一條ニ規定セル非常大權ヲ干犯セルモノナリトノ議論ガアツタ、又廣汎ナル委任勅令ハ憲法違反ナリトノ說ヲ爲ス者ガアツタ、之ニ對スル政府ノ辯明ト對比シテ、吾等ハ本案提出ノ最初ヨリ確信シテ居リマシタ所ノ、即チ……

〔發言スル者アリ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○西尾末廣君(續) 大權干犯ニアラズ、憲法違反ニアラズトノ確信ヲ、吾等ハ少シモ動搖セシムルコトガナカッタノデアリマス(拍手)併ナガラズル廣汎ナル委任勅令ヲ伴フ立法ハ、假令大權干犯ニアラズ、憲法違反ニアラズト致シマシテモ、又將來ノ戰爭ノ形態及ビ其規模等ヲ豫測シ難キガ故ニ、已ムヲ得ザルニ出デタルニモセヨ、一步誤レバ憲法ノ精神ニ悖リ、且ツ行政獨善ニ陷リ、爲ニ國民ノ心カラナル積極的協力ヲ阻礙スルコトナリ、延イテハ本法ノ所期スル目的ト遠ク相距ル結果トナルヲ保シ難キヲ思ヒ、本法ノ實施運用ニ當ッテハ、政府ハ極メテ謙虛ニシテ慎重ナル態度ヲ以テ臨ムベキデアリマシテ、苟モ權力ヲ弄ビ、且ツ權力ニ驕ッテハナラナイト信ズルノデアリマス(拍手)ソレ故ニ吾等ハ茲ニ五ツノ警告的希望條項ヲ附シマシテ、以テ躍進途上ニ在ル日本ノ全責任ヲ背負ッテ立ツ所ノ政府ヲシテ、誤リナカラシメントスル者デアリマス

即チ吾等ノ希望條項ノ第一ハ、本法ハ最

モ廣汎ナル劃期的國家統制ノ規定ニシテ、老朽固定セル現行行政機構ヲ以テシテハ所期ノ目的ヲ達成シ難キニ鑑ミ、政府ハ内閣制度、中央及地方行政機構、官吏制度等全般ニ亙ル刷新改革ヲ斷行スベシ、斯様ニ言ッテ居ルノデアリマス、行政機構ノ革新及ビ官吏制度ノ刷新改革ハ、現下ノ國際關係ニ鑑ミルナラバ、悠長ニ調査研究中デアルト云フコトデハ濟マサレナイノデアリマス、若シ調査研究ニ藉口シテ、荏苒日ヲ過スヤウナコトガアリマスナラバ、政府自ラ本法急施ノ必要ヲ強調シタコトヲ裏切り、議會ヲ、國民ヲ欺キタリトノ非難ヲ甘受シナケレバナラスノデアリマス(拍手)又近衛首相ハ行政機構ノ改革ト、官吏制度ノ改革ニ付テハ、現在政治家中最モ熱心ナリト吾等ハ信ジテ居ルノデアリマスガ、更ニ又此二ツノ改革ハ、極メテ至難ナコトニ屬スルガ故ニ、全國國民ノ信賴ヲ一身ニ集メテ居ル所ノ近衛首相コソ、此難事ヲ爲シ得ルノデアリマシテ、若シ近衛首相ニシテ之ヲスラ爲シ得ナイトスルナラバ、果シテ何人ガ爲シ得ルデアリマセウカ、遂ニ行政機構ノ改革ト、官吏制度ノ改革ハ爲シ得ザルモノトノ絶望感ヲ、國民ニ懷カシメルヤウナコトガアリマスナラバ、躍進途上ニ在ル日本國家ノ爲ニ、實ニ由々シキ大問題デアルト吾等ハ思フノデアリマス、吾等ハ近衛内閣存続中ニ、是非共是ガ改革サレマスヤウニ、近衛總理ノ大英斷ヲ切望シテ已マナイ者デアリマス

希望條項ノ第二ハ、本法ハ國民ノ舉國協力を基礎トスルニアラザレバ所期ノ目的ヲ達成シ難キニ鑑ミ、舉國の體制ヲ完成スル爲メ常置委員會ノ設置、選舉制度ノ改正ヲ含ム衆議院ノ改革並ニ華族議員ノ減少、職能代表ノ參加ヲ含ム貴族院ノ改革ヲ斷行スベシ、斯ウ云フノデアリマス、第三ハ、本法ノ運用ニ關シテハ政府獨善ニ陷ルコトヲ避ケ、國家總動員審議會ニ準ジテ本法ノ

終ニ臨ミマシテ、特ニ諸君ト共ニ此際

吾等ハ思フ新ニシナケレバナラヌ一事ガアルノデアリマス、ソレハ去ル三月十四日ハ五箇條ノ御誓文ヲ御發布ナサレマシタ七十年目ニ當ルノデアリマス、私ハ此機會ニ、此御誓文及ビ其五箇條ノ御誓文ニ關スル勅語ヲ拜讀致シマシテ、洵ニ思ヒ深イモノガアルノデアリマス

〔發言スル者多ク議場騒然〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○西尾末廣君(續) 「我國未曾有ノ變革ヲ爲シタリ」ト、五箇條ノ御誓文ノ勅語ノ冒頭ニ仰セラレテ居ルノデアリマス、洵ニ然リ、今日ニ於テモ我國ハ未曾有ノ變革ヲ爲サントシテ居ル時デアリマス、サウシテ御誓文ノ中ニハ「舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ」斯ウ云フ御趣旨モ謳ヘレテ居ルノデアリマシテ、此精神ヲ近衛首相ハハシカリト把握致サレマシテ、モット大膽率直ニ日本ノ進ムベキ道ハ是デアルト

大膽ニ日本ノ進ムベキ道ヲ進ムベキデアラウト思フノデアリマス(發言スル者多ク議場騒然)即チ今日ニ於キマシテハ(何

ヲ言フカ)「取消セ」ト呼ビ其他發言スル者多ク議場騒然)今日我國ノ求メテ居ルモノハ、確信ニ滿チタ政治ノ指導者デアリマス、國民ノ信賴ヲ全身ニ集メテ居リマスル所ノ近衛首相ニシテノミ、初メテ之ヲ斷行スルコトガ出來ルノデアリマス、私ハ此點ヲ特ニ總理大臣ニ申上ゲマシテ、本案ニ對スル贊成ノ意ヲ表スル次第デアリマス(拍手)

○議長(小山松壽君) 今井新造君

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

井上君ニ御注意致シマス、御著席ヲ願ヒマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(小山松壽君) 重ネテ井上君ニ御注意致シテ置キマス

〔今井新造君登壇〕

○今井新造君 私ハ第二控室ヲ代表致シマシテ、本案ニ對スル贊成ノ意見ヲ明ニシタイト存ジマス、本案ガ國防目的達成ノ爲メ絕對的ニ必要ナル戰時立法ナルコトハ、吾等ノ夙ニ痛感致シマシタ所デアリマシテ……

○議長(小山松壽君) 今井君ヲヨット

只今西尾君ノ御演說中

フ御言葉ガアツタヤウニ思ヒマス、議場騒然トシテ其趣旨ガ能ク分リマセヌ、能ク調ベタ上ニ適當ナル處置ヲ致シマス(拍手)

○今井新造君(續) 吾等ハ本案成立ノ一日モ速カナランコトヲ熱望致シタ次第デアリマス、本日各派代表ハ、ソレハ大同小異ノ意見ヲ附セラレテ原案ヲ御認ニナリマシタコトハ、國家ノ爲ニ衷心ヨリ欣快ニ堪ヘマセヌ、各派代表ノ意見ヲ承リマス、要スルニ本案ハ運用ガ最モ大切デアル、是ガ運用完キヲ期スルニハ、直接是ガ衝ニ當ル官吏ノ素質ヲ根本的ニ改善シナケレバナラナイ、行政機構ノ改革ヲ斷行シ、官吏制度ノ改革ヲ斷行シナケレバナラナイ、又官僚獨善ノ弊風ニ至ッテハ、直チニ之ヲ打破一掃

シナケレバナラナイ、斯ウ云フコトニ付テハ、殆ど衆口一致決定のデアリマス、之ニ對シテ近衛總理大臣ガ極メテ率直ニ、官僚獨善ノ弊風ヲ認メラレマシテ、是ガ刷新ニ努力致スベシト申明セラレマシタコトハ、吾々其誠意ニ對シテ敬意ヲ表スル者デアリマス、但シ此事タルヤ、如何ニ首相ニ誠意ガアリ、國務大臣ニ誠意ガアリマシテモ、單ニ誠意ノミデハ此事ハ實現サレナイ、一片ノ訓示ヤ、一片ノ訓戒ヲ以テシテハ、到底其目的ヲ達セラレマセズ、故ニ此際政府ハ最モ眞剣ニシテ熱心ナル態度ヲ以テ、有

ト思フノデアリマス、是ハ勿論單ニ一例ニ過ギマセヌガ、須ク國民精神ノ團結ヲ圖ラントスルナラバ、斯ノ如キ不合理、斯ノ如キ非正義ノ點ヲ改革サレテ、國家ノ爲ニハ、官吏自ラ受クル所ヲ薄クシテ、己ヲ空シウシテ、身ヲ以テ奉公ノ範ヲ垂ルベキデアルト私ハ信ジマス、願クハ此際官吏ノ受クル不合理ナ特權ニ付テハ、切ニ首相ノ一大英斷ヲ以テ改革サレンコトヲ私ハ切望致シマス、是ガ希望ノ第一デアリマス

マシ、今回ノ支那トノ戰ニ於テモ、過去ニ於ケル外交ガ機宜ノ處置ヲ失シマシテ、既ニ戰フ以前ニ於テ、我國ハ心ノ戰ニ敗レタ結果ガ、支那ニ日本與シ易シトノ觀念ヲ與ヘ、第三國亦日本ヲ輕視シタ結果ガ事態ヲ斯ノ如キ戰ニ迄導イタコトハ事實デアリマス(拍手)

議會ニ多數ヲ占ムル政黨ニ對シテモ、吾々ハ國家總動員ノ立前ヨリ其刷新ノ急務ナルコトヲ痛感致シマス、本案審議ノ跡ヲ顧ミマスルニ、初メ本案ニ對シテ委員中ニハ、之ヲ大權ノ干犯ナリト斷ジ、不臣ノ法案ナリト斷ジ、更ニ或ル者ハ、吾々ノ先輩諸氏ガ產ヲ傾ケ、身ヲ抛テ築キ上ゲタル今日ノ憲法ノ殿堂ガ、此一片ノ法律ニ依テ滅ボサレルカト思ヒマスナラバ、吾々ハ最モ慎重ニ勇敢ニ非常ノ決意ヲ以テ審議スベキデアリ、此國家總動員法案ハ立法部ニ對スル二・二六事件ガ起リツ、アルノデアルト斷言シテ憚ラナイト言ハレタ方ガアル、政府ハ速ニ此法案ヲ撤回シロ、斯ル法律ニ對シテ帝國議會ハ斷ジテ協賛ヲ與ヘテハナラナイ、斯ウ云フ意見ヲ述ベラレタ方ガアル、其後委員會ニ於キマシテモ、最後マデ反對ノ意見ガ滿チテ居タコトハ政府モ能ク御承知ノコトデアルト思フ、吾々ハ此狀態ヲ見マシテ、本法案ハ斷ジテ議會ニ於テ協賛ヲ得ルコトハ困難ナリト初メ觀察致シマシテ、國家ノ爲メ憂慮致シテ居タ次第デアリマス、然ルニ本日各派代表ノ諸君ガ……

愈、漸養強化スル意味ヨリ致シマシテ、官吏ガ國家ヨリ受クル特權ヲ十分御考究ノ上、之ヲ斷乎改廢シテ戴キタイト云フ一事デアリマス、申ス迄モナク戰ニ最モ缺クベカラザルハ、國民ノ旺盛ナル精神力デアリマス、今日ノ如ク國民一般ガ官吏ニ對シテ尊敬モ信賴モ拂ハナイ、寧ロ官吏ガ國家ヨリ受クル特權ニ對シテ、反感スラ懷クヤウナ有様ヲ以テシテハ、如何ニ國民精神總動員ヲ政府ガ力説致シマシテモ、官民一致ノ結合ヲ圖ルコトハ難カシイノデアリマス、今日國民ノ中ニハ、終日終夜營々トシテ努力致シマシテモ、尙且ツ衣食ニ窮スル者ガアル、農村ニ又ハ都會ノ巷ニ於テ充滿シテ居ル、而モ一面、官吏ノ退職者ガ五千圓モ、一万圓モ別途收入ガアツテ、何等生活ニ不安ヲ感ゼザルニモ拘ラズ、二千五百圓モ、三千圓モノ恩給ヲ平然トシテ國家ヨリ受ケテ居ルト云フコトハ、私ハ餘リニモ不合理ナ事實デアハナイカト思フ、所謂近衛首相ノ社會正義ニ私ハ反スル事實デアハナイカ

ト思フノデアリマス、是ハ勿論單ニ一例ニ過ギマセヌガ、須ク國民精神ノ團結ヲ圖ラントスルナラバ、斯ノ如キ不合理、斯ノ如キ非正義ノ點ヲ改革サレテ、國家ノ爲ニハ、官吏自ラ受クル所ヲ薄クシテ、己ヲ空シウシテ、身ヲ以テ奉公ノ範ヲ垂ルベキデアルト私ハ信ジマス、願クハ此際官吏ノ受クル不合理ナ特權ニ付テハ、切ニ首相ノ一大英斷ヲ以テ改革サレンコトヲ私ハ切望致シマス、是ガ希望ノ第一デアリマス

マシ、今回ノ支那トノ戰ニ於テモ、過去ニ於ケル外交ガ機宜ノ處置ヲ失シマシテ、既ニ戰フ以前ニ於テ、我國ハ心ノ戰ニ敗レタ結果ガ、支那ニ日本與シ易シトノ觀念ヲ與ヘ、第三國亦日本ヲ輕視シタ結果ガ事態ヲ斯ノ如キ戰ニ迄導イタコトハ事實デアリマス(拍手)

議會ニ多數ヲ占ムル政黨ニ對シテモ、吾々ハ國家總動員ノ立前ヨリ其刷新ノ急務ナルコトヲ痛感致シマス、本案審議ノ跡ヲ顧ミマスルニ、初メ本案ニ對シテ委員中ニハ、之ヲ大權ノ干犯ナリト斷ジ、不臣ノ法案ナリト斷ジ、更ニ或ル者ハ、吾々ノ先輩諸氏ガ產ヲ傾ケ、身ヲ抛テ築キ上ゲタル今日ノ憲法ノ殿堂ガ、此一片ノ法律ニ依テ滅ボサレルカト思ヒマスナラバ、吾々ハ最モ慎重ニ勇敢ニ非常ノ決意ヲ以テ審議スベキデアリ、此國家總動員法案ハ立法部ニ對スル二・二六事件ガ起リツ、アルノデアルト斷言シテ憚ラナイト言ハレタ方ガアル、政府ハ速ニ此法案ヲ撤回シロ、斯ル法律ニ對シテ帝國議會ハ斷ジテ協賛ヲ與ヘテハナラナイ、斯ウ云フ意見ヲ述ベラレタ方ガアル、其後委員會ニ於キマシテモ、最後マデ反對ノ意見ガ滿チテ居タコトハ政府モ能ク御承知ノコトデアルト思フ、吾々ハ此狀態ヲ見マシテ、本法案ハ斷ジテ議會ニ於テ協賛ヲ得ルコトハ困難ナリト初メ觀察致シマシテ、國家ノ爲メ憂慮致シテ居タ次第デアリマス、然ルニ本日各派代表ノ諸君ガ……

ト思フノデアリマス、是ハ勿論單ニ一例ニ過ギマセヌガ、須ク國民精神ノ團結ヲ圖ラントスルナラバ、斯ノ如キ不合理、斯ノ如キ非正義ノ點ヲ改革サレテ、國家ノ爲ニハ、官吏自ラ受クル所ヲ薄クシテ、己ヲ空シウシテ、身ヲ以テ奉公ノ範ヲ垂ルベキデアルト私ハ信ジマス、願クハ此際官吏ノ受クル不合理ナ特權ニ付テハ、切ニ首相ノ一大英斷ヲ以テ改革サレンコトヲ私ハ切望致シマス、是ガ希望ノ第一デアリマス

マシ、今回ノ支那トノ戰ニ於テモ、過去ニ於ケル外交ガ機宜ノ處置ヲ失シマシテ、既ニ戰フ以前ニ於テ、我國ハ心ノ戰ニ敗レタ結果ガ、支那ニ日本與シ易シトノ觀念ヲ與ヘ、第三國亦日本ヲ輕視シタ結果ガ事態ヲ斯ノ如キ戰ニ迄導イタコトハ事實デアリマス(拍手)

議會ニ多數ヲ占ムル政黨ニ對シテモ、吾々ハ國家總動員ノ立前ヨリ其刷新ノ急務ナルコトヲ痛感致シマス、本案審議ノ跡ヲ顧ミマスルニ、初メ本案ニ對シテ委員中ニハ、之ヲ大權ノ干犯ナリト斷ジ、不臣ノ法案ナリト斷ジ、更ニ或ル者ハ、吾々ノ先輩諸氏ガ產ヲ傾ケ、身ヲ抛テ築キ上ゲタル今日ノ憲法ノ殿堂ガ、此一片ノ法律ニ依テ滅ボサレルカト思ヒマスナラバ、吾々ハ最モ慎重ニ勇敢ニ非常ノ決意ヲ以テ審議スベキデアリ、此國家總動員法案ハ立法部ニ對スル二・二六事件ガ起リツ、アルノデアルト斷言シテ憚ラナイト言ハレタ方ガアル、政府ハ速ニ此法案ヲ撤回シロ、斯ル法律ニ對シテ帝國議會ハ斷ジテ協賛ヲ與ヘテハナラナイ、斯ウ云フ意見ヲ述ベラレタ方ガアル、其後委員會ニ於キマシテモ、最後マデ反對ノ意見ガ滿チテ居タコトハ政府モ能ク御承知ノコトデアルト思フ、吾々ハ此狀態ヲ見マシテ、本法案ハ斷ジテ議會ニ於テ協賛ヲ得ルコトハ困難ナリト初メ觀察致シマシテ、國家ノ爲メ憂慮致シテ居タ次第デアリマス、然ルニ本日各派代表ノ諸君ガ……

議會ニ多數ヲ占ムル政黨ニ對シテモ、吾々ハ國家總動員ノ立前ヨリ其刷新ノ急務ナルコトヲ痛感致シマス、本案審議ノ跡ヲ顧ミマスルニ、初メ本案ニ對シテ委員中ニハ、之ヲ大權ノ干犯ナリト斷ジ、不臣ノ法案ナリト斷ジ、更ニ或ル者ハ、吾々ノ先輩諸氏ガ產ヲ傾ケ、身ヲ抛テ築キ上ゲタル今日ノ憲法ノ殿堂ガ、此一片ノ法律ニ依テ滅ボサレルカト思ヒマスナラバ、吾々ハ最モ慎重ニ勇敢ニ非常ノ決意ヲ以テ審議スベキデアリ、此國家總動員法案ハ立法部ニ對スル二・二六事件ガ起リツ、アルノデアルト斷言シテ憚ラナイト言ハレタ方ガアル、政府ハ速ニ此法案ヲ撤回シロ、斯ル法律ニ對シテ帝國議會ハ斷ジテ協賛ヲ與ヘテハナラナイ、斯ウ云フ意見ヲ述ベラレタ方ガアル、其後委員會ニ於キマシテモ、最後マデ反對ノ意見ガ滿チテ居タコトハ政府モ能ク御承知ノコトデアルト思フ、吾々ハ此狀態ヲ見マシテ、本法案ハ斷ジテ議會ニ於テ協賛ヲ得ルコトハ困難ナリト初メ觀察致シマシテ、國家ノ爲メ憂慮致シテ居タ次第デアリマス、然ルニ本日各派代表ノ諸君ガ……

ヲ與ヘタコトハ否ムコトガ出來ナイ、本法

ニセズトノ聲明ヲ發シ、蔣介石政權ノ徹底

第二點、經濟ノ戰時體制ヲ先ヅ確立シナ

財界ノ一角カラ屢、不愉快ナル噂ヲ耳ニ致

審議ノ委員會ニ於テ、或ル議員ハ今ヤ議院
ノ尊嚴ハ冒瀆セラレ、政黨ノ威信ハ失墜セ
ラレテ來テ居ルト述ベラレマシタガ、苟モ
國民ヲ代表スル議員ノ一言一行ト云フモノ
ハ、飽マデ良心のデアリ、信念のデナケレ
バナラスト私ハ信ズル、言ハベ必ズ行ヒ、
行ハベ必ズ果スト云フ信念ニ立脚シナケレ
バナラスト思フ、然ルニ議會ニ於ケル言説
ガ定見ナク、識見ナク、輕卒デアリ、不謹
慎デアルナラバ、國民ガ之ヲ蔑視シ、信賴
セザルニ至ルハ、私當然ノ事デアルト思フ、
政府ハ斯ル點ニモ能ク留意セラレマシテ、
所謂審議會ニ付テハ、政黨政派ニ囚ハレル
所ナク、眞ニ國家ノ爲メ、具眼達識ノ士ヲ
起用セラレンコトヲ熱望シテ已ミマセヌ、
私ノ賛成意見ハ之ヲ以テ終リト致シマス

○三田村武夫君(續) 政府ハ國民政府對手
の壤滅ヲ期スルト言ヒマシタガ、南京陥落
後、事態ハ膠著シテ殆ド進捗シテ居リマセ
ヌ、蔣介石ハ依然トシテ長期抗戰ヲ豪語シ、
松井司令官凱旋ノ後ヲ追フガ如ク、敵ノ飛
行機ハ我が臺灣ヲ空襲シテ居リマス、國民
ハソコニ大ナル不安ト不滿ヲ持ツテ居リマ
ス、固ヨリソコニハ日本内外ノ複雑微妙ナ
ル諸條件ガ作用シテ居ルコトハ、吾々ト雖
モ知ツテ居リマスガ、一面重大ナル理由ノ一
ハ、政府自身ノ戰時體制不確立ニアルコト
ヲ、深く指摘セザルヲ得ナイノデアリマス

ケレバナリマセヌ、近代戰ハ單ナル武力戰
デハアリマセヌ、國力戰デアアルコトハ既ニ
國民モ齊シク理解スル所デアリマス、就中
戰勝ノ爲ニ絕對必要ノ條件ハ、經濟力
ノ一元の運營デアリマス、即チ國家ノ全經
濟力ヲ戰爭目的ノ爲ニ動員シ、運營スルコ
トガ絕對ニ必要デアリマス、今事變ニ當リ
テ、數萬ノ同胞ヲ肉彈トシテ君國ニ報ジテ居
リ、數萬ノ同胞ヲ肉彈トシテ君國ニ報ジテ居
リ、然ルニ國防力ノ中心タル産業經濟ガ、
果シテ戰爭目的ト同一ノ線ニ動員サレテ居
リマセウカ、賀屋大藏大臣ハ前回ノ臨時議
會、前々同ノ特別議會、又今議會ノ本會議、
委員會ヲ通ジテ屢々言明シテ居ラレマス、二
百億、三百億ノ戰費ニ配ナシト言明サレテ
居リマス、然ルニ僅カ二十五億ノ軍事公債
消化ノ爲ニ、國民ノ少額ナル貯金ヲ引出サ
シメテ愛國公債ヲ買ハシメ、イタイケナ子
供ノ小遣錢マデ取上ゲテ、愛國貯金ヲ爲サ
シメテ居ルデハアリマセヌカ、更ニ來ルベ
キヨリ大ナル戰局ニ備フル爲ノ、滿洲重工
業開發ニ要スル僅カ四億カ五億ノ資金ヲ、
國內ノ産業經濟界ニ求メ得ズシテ、危險ト
不安ノ伴フ外資輸入ニ俟タザルヲ得ナイ、
日本財界ノ醜態ハ何事デアリマスカ、國ノ
總豫算僅カ二億五千萬圓、其時ニ日本ハ二
十五億ノ戰費ヲ支出シ、更ニ戰後經營ノ爲
ニ十數億ノ資金ヲ投ジテ滿洲開發ヲヤツテ
居リマス、其日露戰爭當時ヲ回顧シテ、現
在ノ日本財界人ノ愛國の良心ヲ疑ハザルヲ
得ナイノデアリマス

シマス、ソレハ或ハ生産力不足ヲ理由トシ、
或ハ財界混亂ヲ名トシテ、戰爭打切論ヲ爲
ス者アリ、或ハ又蔣介石政權トノ和平解決
ヲ云々シツ、アル者ガアルノデアリマス、
斯ノ如ク産業經濟界ノ狀態ヲ放任シテ、何
處ニ國力ノ總動員ガアリマセウカ、本法ヲ
協賛シ、國民大衆ノ權利自由ヲ制限シ、束
縛シテ、其決意ヲ促シテモ全ク無意義デア
リマス、政府ハ速ニ國家即經濟ノ原則ヲ確
立シ、本法發動ノ效果ヲ全カラシムベキ經
濟ノ戰時體制ヲ確立シナケレバナリマセヌ

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

吾々ハソコニ最モ嚴肅ナル國民の批判ヲ加ヘネバナリマセヌ、此故ニ吾々ハ此國民ノ肉彈ヲ基礎トシ、之ヲ國家躍進ノ礎トシテ、

此事變ノ戰果ヲ全カラシメナケレバナリマセヌ、其爲ノ國民の要求ハ南京陥落後ニ來ルベキ廣東政略デアリマス、廣東政略ヲ爲サル限リ蔣介石政權ノ命脈ハ、斷ジテ斷チ得マセヌ、政府ハ一月十六日聲明ニ於テ國民政府ヲ對手トセズト言ヒ、更ニ敷衍シテ蔣介石政權ノ徹底の壊滅ヲ期スルト言明シナガラ、今日尙ホ蔣政權ハ依然トシテ存續シテ居リマス、國策ノ推進力タル國防ハ、

軍部ノ單獨責任デハアリマセヌ、國家全體ノ責任デアリ、國民全體ノ責任デアリマス、今回ノ事變ニ當リ愛國ノ至誠ヲ傾ケ、肉彈ノ犧牲ヲ捧ゲテ、國家目的ニ奉ジタ國民大衆ハ、斷ジテ不徹底ナル解決ヲ許シマセヌ

〔簡單々々〕「頑張レ」「シツカリヤレ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ事今日ニ至テ政府ハ何ガ故ニ廣東作戦ヲ躊躇スルノカ、獨塊合併ニ依ル民族國家完成ノ躍進ノ偉業ヲ見タ

吾々日本人ノ血液ハ、躍動シテ居リマス、最早日本ハ何人ノ干渉モ、何國ノ容喙モ受ケテハナリマセヌ、此國民ノ愛國的情熱ヲ基礎トシテ、全國民ヲ總動員シテ、驟然起ッテ不動ノ決意ヲ宣言シナケレバナリマセヌ、

而シテ過去久シキニ互リ東洋全民族ヲ擄取シ、壓迫シ來タ歐米諸列國、就中英吉利ノ極東ニ於ケル勢力ヲ驅逐シ、更ニ「ソ」聯邦ノ極東赤化政策ヲ擊滅シナケレバ、斷ジテ吾々ハ退キ得ナイデアリマス〔拍手〕ソレノミガ肉彈ノ犧牲ヲ活カス唯一ノ途デアリ、現日本ノ全國民ニ課セラレタル歴史の使命デアリマス、國家總動員體制ノ確立ハ、此歴史の大業完成ノ爲ニ、絕對不可缺ノ條件デアルコトヲ結語トシテ、私ハ本案賛成ノ意思表示ト致シマス〔拍手〕

○議長〔小山松壽君〕是ニテ討論ハ結局致シマシタ、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ

付キ採決致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔議員起立〕

○議長〔小山松壽君〕起立議員〔拍手起ル〕

○議長〔小山松壽君〕全會一致ヲ以テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長〔小山松壽君〕服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔小山松壽君〕御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

國家總動員法案 第二讀會

○議長〔小山松壽君〕別ニ御發議モアリマセヌカラ、委員長ノ報告通り決シマシタ、是ニテ本案ノ第二讀會ハ終リマシタ

○服部崎市君 直チニ本案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長〔小山松壽君〕服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔小山松壽君〕御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

國家總動員法案 第三讀會

○議長〔小山松壽君〕別ニ御發議モアリマセヌカラ、本案ハ第二讀會議決ノ通り可決確定致シマシタ

〔拍手起ル〕

○議長〔小山松壽君〕西尾末廣君ヨリ議事進行ニ關スル發言ヲ求メラレテ居リマス、此際之ヲ許シマス——西尾末廣君

○西尾末廣君 先程私ノ演說中——

ハ此際取消シマス

ト申シマシタコト

〔發言スル者多シ〕

○議長〔小山松壽君〕靜肅ニ願ヒマス——只今ノ西尾末廣君ノ演說中ノ言辭ニ付テ、西尾君ヨリ取消ノ御申出ガアリマシタガ、御演說ニ依テ議場ヲ騒然タラシメタルノミナラス、西尾君ノ議論ニハ相當重大ナル點アリト議長ハ認メマスカラ、西尾末廣君ヲ懲罰委員ニ付シマス〔拍手〕

○服部崎市君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長〔小山松壽君〕服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長〔小山松壽君〕御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後九時十九分散會

衆議院議事速記第二十三號中

正誤

頁 段 行 誤 正

五一九 三 二一 伊勢ノ聖地 伊勢聖地

衆議院議事速記第二十七號中

正誤

六二七 頁四段三行「ニ關スル」ノ四字削除

衆議院議事速記第二十八號中

正誤

六五〇 頁一段ノ二四行及二五行ハ削除